

授 業 計 画

平成 29 年度

Syllabus 2017

健康科学部 健康システム学科

平成29～28（2017～2016）年度

共通教育科目

平成27～26（2015～2014）年度

基礎科目・教養科目

《共通教育科目 建学の精神》

科目名	宗教と人生		科目ナンバリング	HFOL11001
担当者氏名	本多 彩			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、兵庫大学の「建学の精神」と仏教について理解を深める。また宗教へ多角的にアプローチすることによって宗教に対する理解を進める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《授業の到達目標》

- ・「建学の精神」への理解を深め、自らの言葉で説明できるようになり、兵庫大学学生としての自覚を涵養する。
- ・日常生活領域に潜むさまざまな宗教を通して、①人間や世界や生や死について考え自分自身を見つめなおしていくきっかけとし、②異文化や他者理解を促進する。
- ・社会で起こっている様々な課題を仏教という視点からとらえなおし説明することができる。

《成績評価の方法》

受講態度（講義中の質問、建学の精神に関する宗教行事への参加を含む）30%、レポート 20%、定期テスト50%、この3項目で評価する。
分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

建学の精神に関連する宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
 仏教の本を読んでみよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教についてその機能を理解し説明することができる。
2	宗教の種類	分布や特徴によって分けられる宗教の種類を理解し説明することができる。
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性について理解し説明することができる。
4	建学の精神①	建学の精神である和と聖徳太子について学び説明することができる。
5	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内の宗教施設をめぐるという体験を通して各施設の説明をすることができるようになり、建学の精神への理解を進める。
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学び説明することができる。
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。
9	仏教を知る①	建学の精神にある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解し説明することができる。
10	仏教を知る②	初期仏教の展開と社会とのかかわりについて学び説明することができる。
11	仏教を知る③	大乘仏教の広がりや特徴について理解し説明することができる。
12	日本の仏教を知る①	日本仏教の特徴と展開について理解し説明することができる。
13	日本の仏教を知る②	日本の浄土系仏教の流れと教えについて理解し説明することができる。
14	建学の精神③	兵庫大学の建学の精神について理解を深め共有しお互いに説明し合うことができる。
15	建学の精神④	兵庫大学生としての誇りを持ち、建学の精神と自身の将来との関連を自分の言葉で説明することができる。

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	HFOL21002
担当者氏名	本多 彩			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

宗教研究は民俗学・民族学や人類学や社会学など多くの学問領域と関連する学際的性格をもつ。周りを観察するといかに仏教が生活や思想に関わっているかに気づく。本講義では幅広く仏教と文化について解説し、さらに仏教と人間・グローバル社会・生と死・医療・環境等についての理解を深める。仏教と現代社会や文化について理解し自分自身を見つめるきっかけとする。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

※身近にある仏教について考え説明することができる。
 ※仏教と現代社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解し説明することができる。
 ※浄土系の教えについて理解を深め社会とのかかわりについて理解し説明することができる。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー

《成績評価の方法》

受講態度（宗教行事への参加、講義中の質問も含む） 30%
 レポート 30%
 期末プロジェクトと発表 40%
 この3項目で評価する。
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解し説明ができる。
2	仏教の教え(1)	仏教の歴史と基本となる教えについて説明することができる。
3	仏教の教え(2)	仏教の教えについて説明することができる。
4	日本社会と仏教①	日本文化と仏教の関連について理解し説明することができる。
5	日本社会と仏教②	日本人の暮らしと仏教の関連について理解し説明することができる。
6	日本社会と仏教③	日本人の死生観と仏教について理解し説明することができる。
7	日本社会と仏教④	日本社会で起きている問題について仏教の視点を理解し説明することができる。
8	グローバル化と仏教①	仏教の視点からグローバル化や宗教多元社会について考え説明することができる。
9	グローバル化と仏教②	海外でみられる仏教の広がりについて学び説明することができる。
10	グローバル化と仏教③	世界的な規模で起きている社会問題について仏教の視点をもって理解し説明することができる。
11	現代社会と浄土仏教①	浄土仏教の教えの特徴とその展開について学び説明することができる。
12	現代社会と浄土仏教②	海外展開する浄土仏教について理解し説明することができる。
13	現代社会と浄土仏教③	現代社会がかかえる課題について浄土仏教の視点から取り上げ、考えて説明することができる。
14	仏教と現代社会	仏教の教えと現代社会のつながりを整理し発表することができる。
15	仏教と現代社会（まとめ）	現代社会と仏教の関連について関心を持ったテーマで整理し発表することができる。

《共通教育科目 建学の精神》

科目名	兵庫大学の学びと和		科目ナンバリング	HFOL21003	
担当者氏名	本多 彩、北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

兵庫大学は聖徳太子の説かれた和を建学の精神とし、太子や創始者の先生方が貴ばれた仏教を大切にしています。本講義では建学の精神について深く学びます。教員によるオムニバス形式の講義を通して、所属する学科の専門教育と建学の精神のつながりについて理解を進めます。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

入学時に配布した「ふんだりーか」と『仏教聖典』

《授業の到達目標》

本講義の目的は兵庫大学の建学の精神を深く知り建学の精神が自らの学びとどのように関連しているかを理解することです。
 ・本講義では聖徳太子の説かれた和、そして仏教について学び説明できるようになります。
 ・建学の精神があなたの学科の専門教育とどのように関係しているのかを知り伝えることができるようになります。

《授業時間外学習》

現在履修している専門科目授業の中で、建学の精神とつながっていると思うことを発見しよう。
 一度、仏教の本を読んでみましょう。

《成績評価の方法》

講義への積極的な参加・建学の精神に関連する宗教行事への参加 50%
 レポート・課題・提出物 50%
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	兵庫大学の歴史	兵庫大学の歴史を学び説明することができる。
2	兵庫大学と建学の精神	建学の精神と兵庫大学が掲げる人間力、実践力について学び説明することができる。
3	兵庫大学の建学の精神と仏教①	兵庫大学の建学の精神である和と仏教について学び説明することができる。
4	兵庫大学の建学の精神と仏教②	兵庫大学の創始者である3人の先生と和と仏教との関連を理解し説明することができる。
5	兵庫大学の教育と建学の精神の重要性	大学教育で建学の精神が重要であることを学ぶ。
6	健康システム学科の学びと和	健康システム学科の専門教育と和について学び説明することができる
7	社会福祉学科の学びと和	社会福祉学科の専門教育と和について学び説明することができる。
8	日本の仏教① 聖徳太子と仏教	聖徳太子の時代の仏教について学び十七条憲法にある和と仏教について理解を深め説明することができる。
9	日本の仏教② 龍谷総合学園	浄土系の仏教について学び本学との関係について説明することができる。
10	現代ビジネス学部の学びと和	現代ビジネス学科の専門教育と和について学び説明することができる。
11	栄養マネジメント学科の学びと和	栄養マネジメント学科の専門教育と和について学び説明することができる。
12	看護学部の学びと和	看護学部の専門教育と和について学び説明することができる。
13	こども福祉学科の学びと和	こども福祉学科の専門教育と和について学び説明することができる。
14	兵庫大学と建学の精神	話し合いを通して各学科の学びと和について理解を深め、整理して説明することができる。
15	兵庫大学と建学の精神 (まとめ)	兵庫大学の学びと和について自らの言葉で伝えることができる。

科目名	日本語(読解と表現)		科目ナンバリング	HCOS11001
担当者氏名	野田 直恵			
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

大学での学習・就職活動および、日常生活・社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・文章表現法・敬語の用法といった日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。原則として、課題の答え合わせ・説明のあと、設問に取り組むというスタイルで授業をすすめる。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、内容が伝わりやすい文や文書の書き方、敬語の適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって日本語についての知識を深め、コミュニケーション能力を高める。

《成績評価の方法》

6回以上欠席した場合は単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。提出物には状況に応じてコメントを付し、返却する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 漢字の習得	授業についての説明 ※ () はテキストの該当箇所。 (第1課) 「漢字習得の近道」漢字を習得するための効果的な方法
2	敬語の種類 同音異義語	(第25課) 「待遇表現①」さまざまな敬語の種類とその用法 (第2課) 「同音異義語」同音異義語の識別方法
3	敬意の表現 同訓異義語	(第26課) 「待遇表現②」敬語の使い分けや言い回しを通じた敬意の表現法 (第3課) 「同訓異義語」同訓異義語の識別方法
4	手紙の形式 生活の中の難読語	(第15課) 「手紙と葉書①」手紙などの基本的な書き方 (第4課) 「音訓と熟語」特別な読み・難しい読みの日常語
5	手紙の文面 熟語の成り立ち	(第16課) 「手紙と葉書②」手紙や葉書の文面を書くときの注意点 (第5課) 「熟語の構造」熟語の意味のとらえ方
6	一般的な文書の書式 生活の中の四字熟語	(第20課) 「ビジネス文書」会社などにおける書類の形式 (第6課) 「四字熟語」誤用しやすい四字熟語
7	さまざまな文書の書式 送り仮名の付け方	(第17・21課) 「日誌」・「案内状」さまざまな文書の書式 (第7課) 「仮名遣いと送り仮名」仮名と日本語
8	文の書き方 生活の中の慣用表現	(第8課) 「文のしくみ」文の内容をわかりやすくする工夫 (第13課) 「慣用表現の誤用」慣用表現の本来の意味と誤用の例
9	文と文章 日本語の表記	(第9・10課) 「文章構成」・「文章の要約」文章としての文の組み立て方 (第14課) 「原稿用紙の使い方」縦書き・横書きにおける表記法の違い
10	思考と言葉 感情と言葉	(第11・12課) 「アイデアの開発」・「レトリック」柔軟な発想と道具としての言葉 (第24課) 「広告のキャッチコピー」言葉が感情に与える作用
11	文章をまとめる方法 他者の文章に学ぶ事	(第22課) 「レポート・小論文」論文の基本的な構造 (第23課) 「論説文と批評文」目的によって異なる文章の書き方
12	自身について知るべき事 自身を表現する手段	(第18・19課) 「履歴書」・「エントリーシート」言葉がもたらす印象 (第30課) 「面接の作戦・自己アピール」言葉の効果的な使い方
13	敬語表現の応用	(第27・28課) 「来客の応対」・「電話の応対」敬語表現の復習
14	言葉が表現にしめる位置	(第29課) 「プレゼンテーション」総合的な表現
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《テキスト》

丸山顯徳編『キャリアアップ国語表現法』(嵯峨野書院)

《参考図書》

資格試験対策研究会編『漢字検定2級頻出度順問題集』(高橋書店)
 佐藤一明『秘書検定3級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)
 佐藤一明『秘書検定2級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)
 他は授業時に紹介する。

《授業時間外学習》

当日の授業の復習をしたうえで与えられた課題を解き、次回の授業で取り組む内容を予習しておく。また、日本漢字能力検定などの受検も視野に入れた学習を心がけるようにする。
 わからないことは担当者に遠慮なく質問してください。

《備考》

国語辞典(電子辞書可)の積極的な活用を心がけること。
 テキスト改訂により学習内容を変更する場合がある。

科目名	英語	科目ナンバリング	HCOS11002
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英語を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切的な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する。生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分らないことはoffice hours等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	まとめ or 自己評価	まとめ or 自己評価

科目名	英語	科目ナンバリング	HCOS11002
担当者氏名	野寄 一恵		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、「社会、文化、人間関係」をテーマに、英語コミュニケーションの真髄である「できる・できない」に関わらず、英語で発信すること大切さを理解し、その基礎を身につけることを目的とする。そのために、ペア・グループ活動を通して、英語で聞き、話すことに特に重点を置き、「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《授業の到達目標》

英語の4技能である「聴き、話し、読み、書く」のうち、「聴き、話す」において、日常語500語程度を使って次のことができるようになる： 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる； 2) 話す：身の回りの出来事（自己紹介、家族、興味・関心事など）について意見交換できる

《成績評価の方法》

成績評価は日頃の学習の積み重ねを重視し次の項目で評価する
 1) 授業参加(小テスト) 50%、2) 復習テスト 20%、
 3) 発表 30%
 復習テストはテスト用紙に、発表は別の用紙に、それぞれコメントを記入して返却・配布する。

《テキスト》

Marc Helgesen、Steven Brosn他著「English Firsthand Access」(ロングマン出版) ISBN: 9789880030574

《参考図書》

適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明
2	Unit 1: How are you?	友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: Do you understand?	指示や確認の仕方をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: This is my room	部屋の描写などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: When do you get up?	日課をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
6	Unit 5: Who's this?	家族や性格をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Unit 6: That's a great shirt!	買い物や好みをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	1) Unit 1からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する； 2) Unit 1からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
9	Unit 7: I love weekends!	週末の自由時間をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: Let's eat!	食べ物や食生活をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: I really enjoy it!	好きな活動をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: Welcome to my home	日常生活をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: Where did you go?	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Unit 12: Will I be famous?	未来の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	1) Unit 7からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する； 2) Unit 7からUnit 12で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	HCOS21003
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、基礎教の「英語」で身につけたリスニング・スピーキングの基礎力をさらにレベルアップすることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する

《テキスト》

Susan Stempleski他著「World Link 3rd Edition: Intro Combo Split B」(センゲージ出版) ISBN:978-1-3056-4780-0

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

日常語800語程度を使って次のことができるようになる：
 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；2) 話す：身の回りの出来事(日課、人間関係、仕事など)について意見交換できる；3) 読む：読んだ内容について話し合える；4) 書く：聞き、話し、読んだ内容を基にまとまった英文が書ける

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：
 1) 授業参加 30% 2) 課題 20%
 3) 復習テスト 20% 4) 発表 30%
 フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 7: Time	授業方針説明； A:日課などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み・書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
2	Unit 7: Time	B:週末・余暇の過ごし方などをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
3	unit 8: Special Occasions	A:休日、祭りをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
4	unit 8: Special Occasions	B: 祭りについてプレゼンテーションを行う。そのために必要な、語彙、文法を学ぶ
5	Unit 9: Come Together	A:休日、友達関係をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
6	Unit 9: Come Together	B: デートをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
7	Review Quiz& Presentation	1) Unit 7からUnit 9までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 9で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
8	Unit 10: Home	A:休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
9	Unit 10: Home	A:休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
10	Unit 11: Clothing	A:衣服、買い物などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
11	Unit 11: Clothing	B: ファッションをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
12	Unit 12: Jobs	A:アルバイトなどの仕事をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
13	Unit 12: Jobs	B: 将来のキャリアをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
14	Review Quiz& Presentation	1) Unit 10からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 10からUnit 12で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
15	Presentation and General Review	1) 前回ははじめたプレゼンテーションを実施する；2) 全体のまとめ

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	HCOS21003
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

このコースに、日本語を話せる外国人講師が、親切指導をしながら、国際理解とコミュニケーション能力を目指すものである。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を評価する。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分からないことはoffice hours等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	My Interests	趣味・興味を述べる
3	Geography	地理学を語る
4	Weather	気候や天気を述べる
5	Everyday Activities	日常活動を喋る
6	Life Experiences	人生の主な体験を語る
7	School Subjects	学内の教科・科目について語る
8	At School	大学にて。。話し合い
9	Phone Messages	電話で英語を
10	Favors and Requests	依頼とお願いを述べる
11	Wishes	将来の希望
12	Opinions	意見を述べる事
13	Getting Away	海外へ旅行
14	Talking About Sports	暇とスポーツ活動
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	HCOS21003
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につける。特にリスニングパートでは、ディクテーションや発話活動を通して英語独特のリズムや発音に慣れる。文法パートでは、基本的な文法事項を再確認する。

《テキスト》

Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC Test Listening and Reading Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』（桐原書店、2018年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。学習した文法事項を使って日常の出来事を英作文できるようにする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、ディクテーションや音読の練習などに活用すること

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

小テストやレポートにコメントを付けて返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	HCOS22004
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、海外旅行、留学など、海外（英語圏）で生活・行動するのに必要な異文化理解及びコミュニケーションの応用力を身につけることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《授業の到達目標》

(1) 英語圏で生活・行動するのに必要な日常的话题でコミュニケーションができる。(2) 基礎的な文法・語彙(1000語程度)・表現を使って読み書きができる(3) 海外で生活・行動において、文化の違いが理解できる

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：

- 1) 授業参加 30% 2) 課題 20%
 3) 復習テスト 20% 4) 発表 30%

フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《テキスト》

『English Firsthand1』 Marc Helgesen他著 ロングマン出版
 ISBN: 9789880030598

《参考図書》

なし

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明
2	Unit 1: It's nice to meet you	友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: Who are they talking about?	人物描写や家族をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: When do you start?	日課や予定をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: Where does this go?	場所の描写をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
6	Unit 5: How do I get there?	道案内などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Unit 6: What happened?	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	1) Unit 1からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 1からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
9	Unit 7: I'd love that job	仕事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: What's happening?	娯楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: What are you going to do?	未来の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: How much is this?	買い物をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: How do you make it?	料理などの作り方をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Unit 12: Listen to music	音楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	1) Unit 7からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 12で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	HCOS22004
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力		

《授業の概要》

このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《テキスト》

Four Corners Student Book One (後半)。

《参考図書》

各授業、歌を勉強し、歌詞を配る。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

試験をせず、出欠のみで成績を評価。

《備考》

全員活発的に参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Breakfast, lunch & dinner.	食事の好みを説明する。
2	Restaurants	レストランで食事を注文する。
3	Daily diet.	食生活を喋る。
4	Around Town	近所を説明する。
5	"How do I get to...?"	方向を聞くと説明する。
6	Fun in the city.	観光案内所に情報を得る。
7	"I'm looking for you"	自分の行動を説明する。
8	"I can't talk now"	電話の話。
9	These days...	日常の生活を語る。
10	"What's new?"	メールの正しいやり取り。
11	Last weekend.	過去の行動を説明する。
12	"You're kidding!"	びっくりするの表現。
13	Getting Away	過去の行動を説明する-part 2.
14	"That's great!"	ニュースを聞き、反応する。
15	We're Finished!	最後のレッスンー大復習。

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	HCOS22004
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、TOEICテストの新問題形式に慣れるとともに、必要な情報を的確に捉える力を身につける。リスニングパートではディクテーションや発話活動を取り入れながら応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。文法パートでは基本的な文法事項を再確認する。TOEICに必要な語いを強化するため、定期的に単語テストを実施する予定である。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

Hiroshi Yoshizuka, Michael Schauerter 『Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test: Revised Edition』(成美堂、2017年)

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、ディクテーションや音読の練習などに活用すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test
2	Unit 1 Restaurant1	リスニング：疑問詞を聞き取る。 文法：代名詞①（人称代名詞）
3	Unit 2 Entertainment1	リスニング：助動詞の時制を聞き取る。 文法：代名詞②（不定代名詞と再帰代名詞）
4	Unit 3 Business	リスニング：前置詞から場所を連想する。 文法：時制①（現在、過去の時制）
5	Unit 4 Office	リスニング：人名、肩書き、部署名を連想する。 文法：時制②（現在完了）
6	Unit 5 Telephone	リスニング：理由を述べている文章を探す。 文法：前置詞①（時、期間を表す前置詞）
7	Unit 6 Letter & E-mail	リスニング：「方法」や「具合」を問う形に慣れる。 文法：前置詞②（位置、場所を表す前置詞）
8	Unit 7 Health	リスニング：分量や頻度、程度を問う形を覚える。 文法：数量形容詞
9	Unit 8 Bank & Post Office	リスニング：所要時間、頻度、距離を尋ねる形を覚える。 文法：動詞（自動詞と他動詞）
10	Unit 9 New Products	リスニング：勧誘の表現を覚える。 文法：接尾辞①（形容詞を作る接尾辞）
11	Unit 10 Travel①	リスニング：話者の意図を考える。 文法：接尾辞②（副詞を作る接尾辞）
12	Unit 11 Travel②	リスニング：否定疑問文の形を覚える。 文法：分詞構文
13	Unit 12 Job Applications	リスニング：話者が期待する具体的な行動を聞き取る。 文法：比較
14	Unit 13 Shopping	リスニング：付加疑問文の形を覚える。 文法：受動態
15	Review	Review Test

科目名	実用英語Ⅲ	科目ナンバリング	HCOS22005
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この授業は、「実用英語II」をさらに発展させ、「社会、文化、人間関係」をテーマに、英語で発信すること大切さを理解し、その応用力を身につけることを目的とする。そのために、ペア・グループ活動を通して、英語で聞き、話すことに特に重点を置き、「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《テキスト》

「English Firsthand (4th edition) 2」 Marc Helgesen, Steven Brown著 ロングマン出版

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

英語の4技能である「聴き、話し、読み、書く」のうち、特に「聴き、話す」において、日常語1500語程度を使って次のことができるようになる：

- 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる
- 2) 話す：家族、興味・関心事、文化、社会などについて意見交換できる

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：

- | | | | |
|----------|-----|-------|-----|
| 1) 授業参加 | 30% | 2) 課題 | 20% |
| 3) 復習テスト | 20% | 4) 発表 | 30% |
- フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

受講時の英語力として、英検3級、TOEIC300点程度もしくはそれ以上が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明
2	Unit 1: Have you two met?	友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: You must be excited!	人間の感情表現をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: Where should I go?	旅行などで使う意見交換や個人的経験をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: I love that!	興味や意見をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
6	Unit 5: What's your excuse?	日常生活で起こる問題をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Unit 6: What's it like there?	異文化をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	復習として、Unit1から6までの範囲で小テストを実施し、2分程度のプレゼンテーション（テーマは自由）を行う
9	Unit 7: Do you remember when...?	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: Let's have a party!	パーティー、レジャーなど娯楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: What should I do?	日常生活で起こる問題をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: Tell me a story	物語ををテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: In my opinion ...	世界情勢ををテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Unit 12: It's my dream!	将来の夢・目標ををテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	復習として、Unit7から12までの範囲で小テストを実施し、2分程度のプレゼンテーション（テーマは自由）を行う

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	HCOS21006
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

※課題にはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳淑梅・劉光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	HCOS21007
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

※課題にはコメントを付して返却する。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	HCOS21008
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようになる。文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
 - 2) 課題等の提出物20%
 - 3) 定期試験60%
- 分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか？」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	HCOS21008
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 期末テスト60%
- 4) 小テストやレポートにコメントを付して返却し、授業の到達目標に対し全体の講評を行い次年度目標に反映させる。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか？」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	HCOS21009
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
 - 2) 課題等の提出物20%
 - 3) 定期試験60%
- 分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
2	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使えらる。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使えらる。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使つての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	HCOS21009
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 期末テスト60%
- 4) 小テストやレポートにコメントを付して返却し、授業の到達目標に対し全体の講評を行い次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
2	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使える。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使える。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

科目名	コンピュータ演習		科目ナンバリング	HCOS11010	
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ◎ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。
 ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》

- パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
- 目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
- ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》

実習での提出課題（70%）と情報倫理および総合的な演習での提出物（30%）で評価します。
 なお、提出課題と提出物にはルーブリック等を用いて評価をフィードバックするとともに、わからないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／コンピュータ実習室の利用手続き／コンピュータ実習室の利用
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用／Webメールの利用／eラーニングの利用
3	インターネット(1)	インターネットとコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネットと情報検索
5	インターネット(3)	ウェブの最新トピック、情報倫理
6	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
7	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成／プレゼンテーションのまとめ課題
8	文書作成(1)	レポート形式の文書による基礎的な文書の作成
9	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト／文書作成のまとめ課題
10	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
11	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用／データ処理のまとめ課題
12	総合的な演習(1)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成
13	総合的な演習(2)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開
14	総合的な演習(3)	プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成
15	総合的な演習(4)／まとめ	相互評価の結果の集計／授業全体のふり返り

《テキスト》

- 毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
- 配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》

- 矢野文彦監修(2013)『情報リテラシー教科書 Windows 8/Office 2013対応版』オーム社。
- 情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2013)『(新課程) インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版。その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

この科目では復習が重要です。修得した利用方法を他の授業でも生かせるように、日ごろからパソコンを利用する機会をつくりましょう。
 とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

科目名	コンピュータグラフィックスの基礎		科目ナンバリング	HCOL21011
担当者氏名	稲富 恭、佐竹 邦子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ◎ 基教-B 情報リテラシー (情報処理能力、情報収集・発信力)			

《授業の概要》

デザインは従来、専門職（デザイナー）が行う分野であったが、近年のデザイン用ソフトウェアの普及に伴い、社会人に求められる能力のひとつになりつつある。本授業では、初心者を対象にグラフィックソフトウェア (Adobe社) の操作について学ぶとともに、それらを用いた作品制作を行い、デザイン基礎力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜、プリントを配布する。

《参考図書》

宮川修, 鈴木貴子: 「実践力を身につける Photoshop+Illustrator 集中講座」, マイナビ

《授業の到達目標》

- ・ Adobe Photoshop、Illustrator、InDesign 等の基礎的操作を習得する
- ・ 案内チラシ、プレゼンテーションパネル等のデザインに必要な基礎的能力を身につける

《授業時間外学習》

予習: シラバスを参考に課題制作に必要な資料を収集する。
 復習: 未完成課題の制作を行う。授業内容を元に操作の習熟につとめ、自主的に作品制作を行う。

《成績評価の方法》

- ・ 提出されたデザイン課題によって成績を評価する。
- ・ 課題は提出後、講評を行う。
- ・ 評価の内訳は、操作の習熟度に関する評価 (50%)、デザインに関する評価 (50%) とする。

《備考》

・ 教室設備の都合により、受講者の定員は20名である。希望者が定員を超える場合、1回目の授業で抽選を行う。またその場合、2回目の授業からの受講はできない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ビジネススキルとして求められるデザインスキルについて理解する。※受講者が定員を超える場合は抽選を行う。
2	Illustratorの基本的操作 (1)	Illustratorの基本操作、文字、オブジェクトの作成、レイヤーの操作について理解する。〈課題〉案内地図を作成する。
3	Illustratorの基本的操作 (2)	オフセット印刷、特色印刷について理解する。名刺をデザインする。
4	Illustratorの基本的操作 (3)	ベジェ曲線等の操作について理解する。ロゴの制作を行う。
5	Photoshopの基本的操作 (1)	画像データの形式、Photoshopの基本操作、写真の補正、加工について理解する。持参した写真の加工を行う。
6	Photoshopの基本的操作 (2)	プレゼンテーション・スライドの作成を前提とした画像データの作成を行う。パワーポイントのスライドを作成する。
7	ポストカードの制作	Illustrator、Photoshop、InDesignの連携について理解する。季節のポストカードをデザインする。
8	二つ折りパンフレットの作成 (1)	パンフレットのデザインを行う。デザインバリエーションを検索し、手書きスケッチによるエスキスを行う。
9	二つ折りパンフレットの作成 (2)	Illustrator、Photoshop、InDesignの連携について理解する。エスキスをもとに、パンフレットのデザインを行う。
10	プレゼンテーションパネルの作成 (1)	Excel等の数的データの変換、加工について理解する。ポスターセッション等の発表を前提としたプレゼンテーションパネルのデザインを行う。
11	プレゼンテーションパネルの作成 (2)	レイアウトのバリエーションについて理解する。ポスターセッション等の発表を前提としたプレゼンテーションパネルのデザインを行う。
12	イベント告知チラシの作成 (1)	実施予定の報告会、講演会、イベント等に使用する告知チラシのデザインを行う。
13	イベント告知チラシの作成 (2)	実施予定の報告会、講演会、イベント等に使用する告知チラシのデザインを行う。
14	イベント告知チラシの作成 (3)	イベント告知チラシのプレゼンテーション、講評を行う。
15	習熟度確認のための作品制作	授業時間内に与えられた課題の制作を行う。

《共通教育科目 国際理解》

科目名	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）		科目ナンバリング	HINL21001
担当者氏名	野世 英水			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

キリスト教は世界宗教として国際社会のさまざまな問題と深くかかわっている。この講義ではキリスト教の基礎を学ぶとともに、現代の国際社会におけるいくつかの問題を取り上げ、それら問題とキリスト教とのかかわりについて考えていくこととしたい。そこでは国際社会の諸問題をキリスト教という宗教より見ていくとき、また新たな視野がひろがっていくことに気づかされるであろう。

《授業の到達目標》

- ・キリスト教の教えや歴史の基礎を理解できるようになる。
- ・国際社会の諸問題についての認識を深め、それら諸問題とキリスト教とのかかわりについて理解できるようになる。

《成績評価の方法》

授業参加態度20%、ビデオ鑑賞後のレポート10%、期末試験70%

※質問、意見等を書いてもらい次回授業時に答える。

《テキスト》

講義時に必要なプリント等を配布する。

《参考図書》

『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編（岩波書店）2002。
その他講義時に随時紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業終了後、毎回ノートや配布資料をを整理し、内容を理解する。
- ・キリスト教の聖書を手にし読んでみる。

《備考》

シラバスにそって授業をすすめますが、受講生の理解度によって変更することもあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	キリスト教と世界の諸宗教(1)	キリスト教の世界の諸宗教のなかでの位置づけ。キリスト教の国際的な分布。
2	キリスト教と世界の諸宗教(2)	カトリック、プロテスタント、東方正教会などのキリスト教教会の展開。キリスト教の宗教上の分類。
3	キリスト教との出会い(1)	キリスト教とは。イエス・キリストとは。旧約聖書と新約聖書。聖書のなかの神。
4	キリスト教との出会い(2)	イエス・キリストの生涯。
5	キリスト教と国際平和(1)	国際社会と平和。平和と暴力。キリスト教の平和思想。
6	キリスト教と国際平和(2)	キリスト教の正戦論。戦争とドイツキリスト教会、日本キリスト教会。
7	キリスト教と国際平和(3)	イスラームの平和思想、仏教の平和思想との比較。
8	キリスト教とホスピスケア(1)	キリスト教とターミナルケア、ホスピスムーブメント。
9	キリスト教とホスピスケア(2)	キリスト教における生と死。イスラーム、仏教の生死観との比較。
10	キリスト教の愛の実践ーマザー・テレサ	キリスト教の国際支援。マザー・テレサの愛の実践活動。ビデオ鑑賞。
11	キリスト教とジェンダー(1)	ジェンダーとフェミニズム。キリスト教のジェンダー問題。
12	キリスト教とジェンダー(2)	キリスト教と世界の宗教対立。北アイルランド紛争。
13	キリスト教と民族紛争・地域紛争(1)	キリスト教と世界の宗教対立。北アイルランド紛争。
14	キリスト教と民族紛争・地域紛争(2)	国際社会と原理主義。キリスト教原理主義とイスラーム原理主義。
15	15 学習のまとめ	国際社会の諸問題とキリスト教。キリスト教を通じた国際理解のありかた。

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）		科目ナンバリング	HINL21002
担当者氏名	重親 知左子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラーム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリムの訪日人数や国内のモスク(イスラームの礼拝所)も増加し、今後内外でムスリムと出会う機会は多くなる。この授業を通して、イスラームに関する基本的な内容を把握し、この宗教をめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。ドキュメンタリーを中心に、VTRも毎回視聴する。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラームに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・レポートに書かれた質問への回答や講評は、可能な限り授業時間内に行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、ハラール(イスラーム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	結婚、葬礼におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	イスラームをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の関係を、歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

- 小川忠『インドネシア イスラーム大国の変貌 躍進がもたらす新たな危機』新潮社、2016
 後藤絵美『神のためにまとうヴェール 現代エジプトの女性とイスラーム』中央公論新社、2014
 内藤正典『となりのイスラーム 世界の3人に1人がイスラーム教徒になる時代』ミシマ社、2016

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームと接点を持つ(例：モスクやハラールショップ見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・出席登録直後の退出は、原則的に認めない。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	国際関係論		科目ナンバリング	HINL21003
担当者氏名	斎藤 正寿			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 			

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

- 自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
- 20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

科目名	比較文化論		科目ナンバリング	HINL21004	
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

この社会に生きている私たちは、様々な背景を持った人や多様な文化や社会とつながっています。本講義では自文化を知るとともに文化の多様性を学び他者理解を深めます。アジア・ヨーロッパ・南北アメリカの文化・社会について、海外経験豊富な教員がオムニバスで講義を行います。いろいろな文化や社会があることを知り進むグローバル化の中で他者、他文化への理解を促進しましょう。

《授業の到達目標》

- ・自文化についての理論を学び海外の多様な文化や社会について理解を深め、説明することができる。
- ・兵庫大学が行っている海外研修や提携大学学生との交流の際に、相手を理解するための知識を身につける。

《成績評価の方法》

レポート・テスト50%
 受講態度（授業への積極的な参加）50%
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特に指定しません。

《参考図書》

特に指定しません。適宜授業内で紹介します。

《授業時間外学習》

メディア等に登場する国内外の動向に注目しておきましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	比較文化論概説（1）	「文化」とは何かを理解し、身近な文化について考え説明することができる。
2	比較文化論概説（2）	文化を比較するとはどういうことかを考え、自文化に関するいくつかの理論を学び比較文化の視点から説明することができる。
3	アジアの文化（1）	本学が交流しているタイの文化や社会について学び説明することができる。
4	アジアの文化（2）	本学が交流している韓国の社会について学び説明することができる。
5	アジアの文化（3）	本学が交流している韓国の文化について学び説明することができる。
6	ヨーロッパの文化（1）	本学が交流しているドイツの文化や社会について学び説明することができる。
7	ヨーロッパの文化（2）	本学が交流しているフィンランドの文化や社会について学び説明することができる。
8	北アメリカの文化（1）	アメリカの大学システムや学生の学びについて理解し説明することができる。
9	北アメリカの文化（2）	本学が交流しているアメリカの文化について学び説明することができる。
10	北アメリカの文化（3）	本学が交流しているアメリカの社会について学びを深め説明することができる。
11	北アメリカの文化（4）	アメリカの民族的マイノリティについて学び説明することができる。
12	南アメリカの文化	本学や加古川市が交流している南アメリカの国の文化や社会について学び説明することができる。
13	兵庫大学の国際交流	本学の国際交流プログラムに参加した学生や国際交流にかかわる人との交流を通して、国際交流とは何かについて考え意見をまとめる。
14	学習のまとめ（1）	各地域の文化や社会について学んだことをふりかえり、学んだことを整理してまとめる。
15	学習のまとめ（2）	授業全体をふりかえり多様な文化や考え方について関心を持ったテーマに沿って発表する。

科目名	歴史学		科目ナンバリング	HHIL21001
担当者氏名	金子 哲			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 			

《授業の概要》

主として日本の前近代を扱います。歴史事実の学習ではなく、「歴史の見方」「歴史的思考方法」の獲得を目指します。アナール歴史学—社会史、等身大の視点からの歴史学—の方法論を主に用います。前近代の市井の人々の感覚世界を探求します。「前近代の自由」が通底するテーマとなります。時代によって変わることのない普遍的人間の感覚、および、時代・地域により変化する感覚・諸価値を考察します。

《授業の到達目標》

1. 各自の感覚・価値観は「時代」「地域」「社会」に規定されている事に気付く。
2. 既に構築されている各自の感覚・価値観を相対化し、疑問を懐き、クラック（ひび割れ）を入れ、将来に脱皮しうるシード（種子）を獲得する。
3. 他時代・異文化のもつ、異なる感覚・価値観の存在を認め、共存しうる感性・理性を涵養する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、等を行います）を40パーセントとします。学期末のペーパーテストを60パーセントとします。講義中に随時「発想力と理解度」をチェックするアンケートを行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義全体のガイダンス。全体計画説明。注意事項の説明。
2	創られた伝統1	夫婦同姓問題。三行半って本当？ 近代の常識を疑え！
3	創られた伝統2	「大和撫子」「日本男児」幻想。「盆」と「正月」って何？
4	創られた伝統3	母系社会と父系社会。相続原理と社会倫理規範。
5	自由への賛歌1	近代的「唯一絶対的自我」への疑問。多様な自我。「排他的近代」の限界。
6	自由への賛歌2	市と自由1。環太平洋的「マナ」世界と交換の原理。
7	自由への賛歌3	市と自由2。縁切りと変身の原理。
8	自由への賛歌4	変容と変身の原理。俗世界と聖なる世界。
9	自由への賛歌5	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理1。
10	自由への賛歌6	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理2。
11	小さな神仏の世界1	来世利益と現世利益。本堂・本殿と末社・摂社の世界。
12	小さな神仏の世界2	背面信仰と第三項排除理論（差別問題を含む）。
13	小さな神仏の世界3	暗黒世界の神仏と王権。王権と第三項排除理論（差別問題を含む）。
14	総括1	各項目間の関連の確認。
15	総括2	全体のまとめ。

《テキスト》

なし。
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

1. 網野善彦『増補 無縁・公界・楽』、平凡社ライブラリー（大学図書館にあり）
2. 『週刊朝日百科日本の歴史』、朝日新聞社（大学図書館にあり）
3. 福岡大学人文学部歴史学科『歴史はおもしろい』、西日本新聞社

《授業時間外学習》

異なる時代、異なる文化が発している情報に敏感になってください。テレビ、新聞、雑誌、映画、DVD、ゲーム、そして、ネットの板情報、などが発信している、「自分とは異なる感覚・論理」を拒絶するのではなく、受け止める気持を持って情報に接してください。

《備考》

オモチャ箱をひっくり返したような講義に出来たらな、と思っています。重い病苦にあえぐ人、不条理な差別を受ける人なども多数扱います。ご理解の上で御受講くださいませ。

《共通教育科目 歴史と文化》

科目名	文学	科目ナンバリング	HHIL21002
担当者氏名	野田 直恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

文学作品は書き手がことばによって構築する芸術だが、ことば自体が流動的なものであることから、その作品は必然的にさまざまな読み手の目に映じるものとなる。また、読み手が置かれた状況によっても作品は姿を変える。その変容ゆえに作品が読み手にもたらすものを見だし、文学と人との関係を考察する。

《テキスト》

プリントを適宜配付する。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

作品に用いられたことばの意味やそれを書き手が選んだ理由・背景を探ることを通じ、作品やそのことばを生み出した文化についての知見を広める。作品について自分なりの見解を持つようにする。文学全般についての知識を深める。

《授業時間外学習》

プリントの内容に即した小テストなどを、実施日・範囲を予告のうえ実施するので、復習は必須である。また、授業時の発問に対応できるよう、指定範囲の予習をしておくこと。予習の成果が認められる場合には、平常点を加点する可能性がある。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する小テストなどの課題（50%）と定期試験（50%）によって評価する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

中学・高校で使った文学史の教科書や参考書、国語便覧などがあれば、そのうちの1～2種類を初回の授業時に持参してください（どんなものでも可）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業全般についての説明	授業のすすめ方や小テストなどの課題について説明する。
2	「国語」と文学の違い 文学とは何か	高等学校までの「国語」という教科における文学作品の読み方が私たちにもたらしているものについて説明し、文学のあり方を考察する。
3	日本文学の概観 日本語の起源	日本文学の流れと、その表記に用いられる日本語の起源とについて概説する。
4	神話と歴史	『古事記』や『日本書紀』といった奈良時代の文学作品に見られる特質や、それらが後世に及ぼした影響について概説し、実際に作品の一部にふれてみる。
5	詩歌の変遷（歌について）	『万葉集』から『新古今集』までの歌の変遷についておもに概説し、実際にいくつかの作品にふれてみる。
6	物語と日記	平安時代の物語文学の発展について概説し、実際に作品の一部にふれることを通じて物語と日記との差異について考察する。
7	女性文学1	女性による文学作品が生まれた文化的背景について概説する。また、女性による古典作品にふれてみる。
8	女性文学2	女性による近代文学作品の一部にふれ、女性にとっての創作の意義を考察する。
9	文学と宗教	日本文学における仏教の影響について概説し、鎌倉時代の文学に見られる特質について、実際に作品の一部にふれながら考察する。
10	娯楽としての文学	庶民たちのあいだで広まり、受け継がれていった文学について概説し、作品の一部にふれてみる。
11	教育と出版	明治時代になって一般の人々が読み書きの能力を身につけるようになったことと、社会の流れとの関係について概説し、教育が文学にもたらした影響について考察する。
12	文明開化の光と影	日本文化が西洋文化との接触によってどのような影響を受け、それが明治～大正時代の文学にどのように反映したのかを概説する。また、実際に作品の一部にふれてみる。
13	作家と留学	日本の近代という時代に夏目漱石や森鷗外らが与えた影響について、彼らの作品の一部にふれながら概説する。
14	文学史的区切り	昭和時代における文学の変遷について概説し、近代文学と現代文学との境界をどのようにとらえるべきかを考察する。
15	作品と出会う	限られた時間の中で限られた作品しか読めない私たちが、作品とどのように出会い、どのように向き合えばよいのかということについて考察する。

《共通教育科目 歴史と文化》

科目名	芸術	科目ナンバリング	HHIL21003
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート (100%)

※各作家の芸術作品について感想・意見を述べさせ、それに対して講評を行う。

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期バリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	色彩とデザイン		科目ナンバリング	HHIL21004
担当者氏名	稲富 恭			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産活動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを“色”、“かたち”、“素材”の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《テキスト》

「新配色カード129a」日本色研事業(株) (<参考>¥500程度、3回目以降の授業以降使用する。)

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野における一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。提出されたレポートは返却後、授業中に解説を行う。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインの基礎(1):かたち	デザインの要素である“色”、“かたち”、“素材”について理解する。“かたち”について、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。
2	デザインの基礎(2):素材	デザインの素材について、椅子のデザインを例に材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。
3	デザインの基礎(3):色彩の基礎	光と色の関係、色の三属性について理解する。配色カードを利用し、色相環を作成する。
4	デザインの基礎(4):色彩の表現	色の分類、表色系、PCCSについて理解する。配色カードを利用し、等色相面を作成する。
5	デザインの基礎(5):色彩と心理	言葉による色表示、色彩と心理の関係について理解する。配色カードを利用しトーン表を作成する。
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	アーツ・アンド・クラフツからモダニズムに至る19世紀以降のデザインの歴史について概観する。
7	デザインの各分野(1):建築	実用的価値、美的価値、社会的価値といった側面から建築のデザインについて理解する。
8	デザインの各分野(2):ファッションの歴史	20世紀以降のファッションの系譜について解説し、社会の変化とデザインの間わりについて理解する。
9	デザインの各分野(3):ファッションと配色	ファッションの色彩調和とその手法について解説する。配色カードを利用し、ファッションの配色パターンを作成する。
10	デザインの各分野(4):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。
11	デザインの各分野(5):都市	都市のデザインを社会状況・政治体制、産業・エネルギーといった側面から考察する。※学期末レポートの課題を説明する。
12	デザインの各分野(6):和風デザイン	和風のデザインについて真・行・草といった側面から考察する。
13	デザインの各分野(7):デザインと地域性	デザインと地域特性の関係について、アメリカ、南欧、北欧のデザインを例に考察する。
14	デザインと配色	各デザイン分野における配色パターンと効果について考察する。配色カードを利用し、配色パターンの作成を行う。
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。

科目名	地域文化論	科目ナンバリング	HL0L21001
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

播磨地域、特に東播地域の文化特質を考察する。アジア的視座、日本的視座、西国内部の視座、兵庫県内部の視座、からこれを比較検討する。

地理、歴史、文化、民俗、などから問題にアプローチしていきたい。

《授業の到達目標》

自らの属する地域を外部の視点から相対的に考察する能力の第一歩を獲得する事を目標とする。自文化の相対化、とも表現できる。

これは、異文化との共存、多文化共生をなし得る感覚の取得でもある。

《成績評価の方法》

学期末に行う筆記試験を60パーセントとする。毎回の講義への積極的関与度を40パーセントとする。毎回の講義では、様々な質問を提示し、回答してもらい、評価する。講義中に随時「発想力と理解度」をチェックするアンケートを行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の全体像の提示。考え方の提示。
2	考現学的アプローチ1	現代日本社会を席卷する「マイルドヤンキー文化」に関する考察。
3	考現学的アプローチ2	「マイルドヤンキー文化」の「聖地」は、何故「東加古川」なのか。
4	アジアの中で日本を考えてみよう	日本は大国か？小国か？日本は「単一民族国家」なのか？日本文化は均質なのか？などなど、社会常識を再検討する。
5	東は東、西は西	日本の東西文化の極めて大きい差異を、様々な事例から考察する。
6	歴史的アプローチ1	日本文化の中に残る、縄文文化と弥生文化の濃淡を考察する。さらに、日本の「周縁地域」の文化的独自性を考察する。
7	歴史的アプローチ2	播磨、特に東播の古代を再考し、その位相を考察する。日本武尊関連の神話分析も行う。
8	歴史的アプローチ3	播磨、特に東播の中世を再考し、東播の全盛期の位相を考察する。
9	歴史的アプローチ4	播磨、特に東播の文化財を考察する。
10	歴史的アプローチ5	播磨、特に東播の近世・近代を、「産業」に重点をおいて考察する。
11	文化論的アプローチ1	播磨、特に東播の「祭り」「祭祀」を考察する。
12	文化論的アプローチ2	播磨、特に東播の「芸能」を考察する。
13	文化論的アプローチ3	播磨、特に東播の「食」を考察する。第一回。
14	文化論的アプローチ4	播磨、特に東播の「食」を考える。第二回。
15	おわりに	全体の総括。

《テキスト》

なし
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

網野善彦、『東と西の語る日本の歴史』、講談社学術文庫1343。
原田曜平、『ヤンキー経済』、幻冬舎新書335。

《授業時間外学習》

常に地域の文化、自分の文化に関心を払ってください。日常生活の中で、講義内容を時々思い出し、反芻して、納得してください。他地域の文化、異文化への関心を持つように心がけ、情報に接してください。
できれば、参考文献を御一読ください。

《備考》

楽しい講義にしたい、と考えております。

科目名	建築デザインと地域		科目ナンバリング	HL0L21002
担当者氏名	稲富 恭			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

建築・土木構造物(以下、建築)は気候、歴史、宗教、産業といった多くの要素と密接に関係している。本講義では、兵庫県内の建築を通じて、地域社会、地域文化について学びます。

《テキスト》

テキストは用いない。適宜、資料を配付する。

《参考図書》

「昔も今もこれからも 兵庫を築く」兵庫県建設業協会, 2013

《授業の到達目標》

- ・ 建築のデザインに関する基礎的知識を身につける。
- ・ 建築の理解をを通じて、兵庫県の歴史、文化、産業について理解する。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法: シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・ 復習の方法: 授業ノートを制作する。
- ・ 学期末レポート: 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。提出されたレポートは返却後、授業中に解説を行う。

《備考》

・ 出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	兵庫県の建築・土木構造物(以下、建築)について概観する。建築と地域環境の関わりについて理解する。
2	古代の兵庫県と人々のくらし	大中遺跡、五斗長垣内遺跡、五色塚古墳等を取りあげ、縄文時代、弥生時代の建築と生活について理解する。
3	神道の成立と神社建築	長田神社、多田神社等を取りあげ、神道の成立と神社建築の系譜、神社がもつ社会的機能について考察する。
4	仏教の伝来と寺院建築	鶴林寺、浄土寺、朝光寺等を取りあげ、寺院建築の歴史と系譜、木造技術の発展について考察する。
5	幕藩体制と都市・城郭	姫路城等を取り上げ、兵庫県内に存在する江戸時代の城郭建築と都市の形成について理解する。
6	古民家の歴史と技術	箱木家住宅、三木家住宅等を例に、兵庫県の民家建築の歴史と形式について考察する。
7	明治維新と欧米型ライフスタイル	異人館、外国人住宅等を例に欧米型住宅の影響と神戸の景観形成について解説する。
8	西洋古典建築の系譜と神戸の近代建築	ギリシア・ローマ建築の系譜について概観し、旧居留地の近代建築について理解する。
9	阪神間モダニズム	ライト、ヴォーリズ等を例にモダニズム建築の系譜について概観し、阪神間モダニズムについて理解する。
10	戦後の住宅政策と都市開発	ポートアイランド、明舞団地等、戦後の大規模住宅開発を取りあげ、戦後の住宅政策について理解する。
11	地域の産業と土木構造物	加古川橋梁、布引ダム、明石海峡大橋等、兵庫県内の土木構造物を取りあげ、技術発展の歴史と構造手法について理解する。
12	ポストモダニズム社会と建築	F・ゲーリー、安藤忠雄等の建築を例に、ポストモダン建築の思想的背景と表現について考察する。
13	兵庫のまちなみとまちづくり	出石、龍野、篠山等の町並みを例に、兵庫のまちづくりと景観形成について考察する。
14	阪神大震災と今後の防災	阪神大震災とその後の対応、今後起こりうる自然災害を取りあげ、建築、まちづくりの面から考察する。
15	レポート発表	課題レポートの発表と講評を行う。

科目名	地域と文化財		科目ナンバリング	HL0L21003
担当者氏名	金子 哲			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

加古川エリアは文化財の宝庫です。その中の石造物を中心に、発見・評価・保存・活用する方法論を学びます。地域の新しい魅力を発見し、地域の未来に向けての「街創り」に関する視座の獲得を目指します。座学で各種石造物の評価方法・保存活用方法を学び、フィールドワークで実際に石造物の「発見」に挑戦します。拓本(石造物の表面を紙に写し取った物)を採る実習も行います。歴史的石造物の拓本採りにも挑戦します。

《授業の到達目標》

- ・石造物を評価できる基礎的な知識と感覚を獲得する。
- ・石造物を保存活用するための基礎的な知識を獲得する。
- ・石造物を通して、待機の文化や歴史を再発見する視座を獲得する。
- ・拓本を採る初歩の技術を稼得する。
- ・地域の散策が10倍以上楽しくなり、「ここにしかない」地域を愛する感覚を獲得する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、実技・実習等を行います）を60パーセントとします。学期末のペーパーテストを40パーセントとします。演習形式で講義を進め、随時「到達度」をチェックする質問や課題設定を行い、コメントを付けていきます。

《テキスト》

なし
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

考古学調査ハンドブック 5『石造文化財への招待』、坂詰 秀一 監修、石造文化財調査研究所 編集、ニューサイエンス社

《授業時間外学習》

日常的に、地域を散策してみてください。路傍にある身近な文化財（石造物など）を「発見」し、評価してください。次の講義で報告してくれたら嬉しいですよ。
参考として示す「文化財的価値の高い文化財（石造物など）」を現地に足を運んで、積極的に観賞・評価してみてください。

《備考》

体を動かしながら楽しく進めましょう。天候等により、フィールドワーク等の日程は変更となることがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	石造物の面白さ。石造物の価値。石造物をめぐる近年の動向。
2	採拓実習 1	拓本(石造物の表面を紙に写し取った物)を採ってみよう。水をシュシュとふりかけ、墨をつけてポンポン叩いてみよう。
3	中世石造物 1	五輪塔・層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔 1
4	中世石造物 2	五輪塔・層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔 2
5	中世石造物 3	板碑等その他石造物。素材石。龍山石
6	近世・近代石造物	近世力士墓。近代戦死将校兵の墓。など。
7	フィールドワーク 1	大学の近くを散策して、石造物を「発見」しよう。
8	フィールドワーク 2	加古川エリアを散策して、石造物を「発見」しよう。
9	石造物保存	石造物保存の現状と問題点。
10	石造物と街おこし 1	石造物の観光資源化。保存と活用への市民の参画。
11	フィールドワーク 3	石造物をめぐる観光資源化・街おこしの現状を確認。
12	石造物と街おこし 2	石造物をめぐる観光資源化・街おこしの現状の問題点と改善策に関する討議。
13	採拓実習 2	拓本採りに再挑戦。
14	採拓実習 3（フィールド編）	歴史的石造物の実物で拓本を採ってみよう。
15	おわりに	全体の総括。

科目名	地域資料を読む		科目ナンバリング	HL0L21004
担当者氏名	金子 哲			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

ミミズがのたうったような崩し字の解説、を目指す講義ではありません。絵図・地図を中心に、活字化された地域資料（史料）を読み進め、「昔の地域の姿」を探索する方法論を学びます。地域資料（史料）の現状、消失・流出の危機と、保存方法・保存活動の方法を模索します。現物の古文書にも触れ、感触を確かめ、読める字がないか探してみます。フィールドワークを通して、前近代の古文書の保管状態も見学します。

《授業の到達目標》

- ・地域資料（史料）を評価する初歩的能力を獲得する。
- ・地域資料（史料）の保存活用に関する基礎知識を獲得する。
- ・往年の地域の姿を復元する初歩的方法論を獲得する。
- ・地域資料（史料）読解能力の第一歩を獲得する。
- ・地域文化活動の中核となる能力感性の第一歩を獲得する。
- ・地域の一次資料（史料）を通し、「ここにしかない」地域を愛する感覚を獲得する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、実技・実習等を行います）を60パーセントとします。学期末のペーパーテストを40パーセントとします。演習形式で講義を進め、随時「到達度」をチェックする質問や課題設定を行い、コメントを付けていきます。

《テキスト》

なし
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

『文献史料を読む—古代から近代』、青木 和夫・高木 昭作
 佐藤 進一・坂野 潤治 編、朝日新聞社
 『古地図で見る神戸—昔の風景と地名散歩』、大国 正美、神戸新聞総合出版センター

《授業時間外学習》

地域のどこに資料（史料）が保管・保存されるか、生活の中でそれとなく聞いてみて下さい。情報を得られたら、次の講義の際に発表して下さい。
 時間に余裕があれば、博物館・郷土資料館などを見学してみてください。
 また、復習も大切に。

《備考》

楽しくなるように工夫します。クイズ要素をちりばめ、フィールドワークも行います。頭と体を動かしましょう。天候等でフィールドワークスケジュールの変更があり得ます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	全体のガイダンス。地域資料（史料）研究の楽しみに関して。
2	近世絵図・地図 1	近世加古川宿について1。絵図・地図からの復元1。
3	近世絵図・地図 2	近世加古川宿について2。絵図・地図からの復元2。
4	フィールドワーク 1	加古川宿跡の探索。
5	近世加古川エリアの地図・絵図 1	近世加古川地区の名所・寺社。
6	近世加古川エリアの地図・絵図 2	近世加古川地区の用水路とため池。
7	フィールドワーク 2	博物館・資料館見学。
8	近世文書に触れてみよう 1	現物の近世史料の扱い方と読解の第一歩。ため池絵図を中心に。
9	近世文書にふれてみよう 2	現物の近世文書の保存処理体験。
10	フィールドワーク 3	近世文書群の保存・保管状況の見学。
11	フィールドワーク 4	博物館・資料館の保管庫の見学。撮影資料等の見学。
12	地域資料（史料）保存の諸問題 1	地域資料（史料）の現状に関して。
13	地域資料（史料）保存の諸問題 2	地域資料（史料）の保存・活用方法を模索する。特に、対行政問題を中心に。
14	フィールドワーク 5	中世文書群の保存・保管状況の見学。実際に現物の中世文書に触れてみよう。
15	おわりに	全体の総括。

科目名	哲学	科目ナンバリング	HHUL11001
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（30%）および学期末に設定するレポート課題（70%）によって評価を行う。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学の創始 ソクラテス以前の哲学1.	哲学とは何かについて ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について
2	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテス以前の哲学2.	ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について
3	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテスとプラトン1.	アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について 問答法と真理の探究について
4	古代ギリシャの哲学思想 プラトンの哲学2.	プラトンのイデア説について
5	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学1.	アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について
6	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学2.	アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について
7	中世の哲学思想	アウグスティヌスの教父哲学について
8	中世の哲学思想	トマス・アクィナスのスコラ哲学について
9	近世の哲学思想 デカルトの哲学1.	精神および物体の概念について
10	近世の哲学思想 デカルトの哲学2.	心身二元論について
11	近世の哲学思想 カントの哲学1.	カントの批判哲学—『純粋理性批判』について ア・プリオリな判断およびア・ポストエリオリな判断、分析的判断・総合的判断について
12	近世の哲学 カントの哲学2.	カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則） 『判断力批判』について（自然の合目的性）
13	現代の哲学 生の哲学・実存主義哲学	バルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について
14	現代の哲学 プラグマティズムの哲学	ジェームズの哲学思想およびデューイの哲学思想について
15	まとめ	予備およびまとめ

《共通教育科目 現代社会を読み解く》

科目名	法と社会	科目ナンバリング	HSOL21002
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日常生活において問題となりうる典型的事例を法律的側面から解説します。実際の事例に基づいて解説します。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

特に指定しない。

《授業の到達目標》

実際に役立つ法的知識の習得。

《授業時間外学習》

特に指定しない。

《成績評価の方法》

レポート課題

《備考》

※授業到達目標に対し講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり（導入）	日本の法制度の歴史的沿革とその概要。
2	土地と建物の賃貸借契約	土地や建物（住居）を賃借する場合の法律問題。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードを利用した買い物やキャッシュカードを利用した借金の法律問題。
4	住宅ローン・自動車ローン①	住宅の購入に際しての法律問題。
5	住宅ローン・自動車ローン②	住宅ローンや自動車ローンを組むまでの流れ、その仕組み。
6	債務の整理・清算	多額の負債を背負った場合の清算方法。
7	刑事事件①	犯罪の容疑者が逮捕されるまでの流れ。
8	刑事事件②	逮捕された容疑者が有罪判決を受けるまでの流れ。
9	婚姻・離婚	主に離婚時の法律問題。
10	相続	相続人の範囲や法定相続分、その他相続制度の概要。
11	成年後見制度	主に高齢者で判断能力が低下した者の権利擁護制度の概要。
12	交通事故の法律関係	交通事故に遭遇した場合の法律問題。
13	保険制度	損害保険、生命保険、火災保険の仕組みと注意点。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟ではなく、民事訴訟制度の概要。
15	知的財産制度	著作権、特許権等の知的財産制度の概要。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	HSOL21003
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。
 ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史		科目ナンバリング	HSOL21004
担当者氏名	岩本 智依			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%（学期末の最終授業を締切に参考図書を読んだレポート）

なお質問とともに、定期試験やレポート等について事前添削を随時受け付ける。

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社
 砂川秀樹・RYOJI 『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス
 岩本孝樹 『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	人権の歴史とは①	人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。
4	人権の歴史とは②	人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。
5	部落差別と現代社会①	部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。
6	部落差別と現代社会②	「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障がい者差別の歴史と障害者差別解消法について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。
9	いのちと人権③	尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	教育と差別	いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

科目名	政治学		科目ナンバリング	HSOL21005	
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にする事ができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

科目名	社会学		科目ナンバリング	HSOL21006	
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2013，有斐閣アルマ）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000，日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示しますこれについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

○授業内レポート1-2回、ミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45点) ○定期試験により学習達成度を評価する。(配点：理論の理解度、データを読む力、社会問題についての理解、批判的視点等の獲得度55点) ○試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《備考》

この授業では、講義内容をただ知識として暗記するのではなく、現実社会との関係のなかで理解するため、専門用語の図示・図解を行う演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的ものの見方	社会学の成立、個人と社会について理解する
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイバリング、パッシングについて理解する
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類（社会的カテゴリー）について理解する
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイムについて理解する
8	学習の総まとめ (1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	秩序の解説 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する
10	秩序の解説 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する
11	秩序の解説 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する
12	秩序の解説 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する
13	社会の構想 (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する
14	社会の構想 (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する
15	学習の総まとめ (2)	「秩序の解説」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する

科目名	経済学	科目ナンバリング	HSOL21007
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。毎時間提出する授業時の課題については、翌週の授業時に解答例の紹介とともに補足説明を行います。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材（自習用）を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されているビッグデータの活用、高機能ロボットなどについても考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう (3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	現代社会の理解		科目ナンバリング	HSOL21008
担当者氏名	沖野 光二			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

公職選挙法(第9条)が2015年に改正され、年齢満18歳以上の者が選挙権を有し、政治への直接参加(民主主義的手続き)の権利を得ると同時に政治的帰結の責任を担うこととなった。さらに民法(第4条)を改正し、成年とする年齢を18歳に引き下げ、法律行為の能力を有するべく現在調整されている。社会との政治的・法的・経済的関わりについて、課題とそれを解決すべき行動手順(手続き方法)を学生自らが見いだせる能力を養う。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

テーマ毎に関連する文献資料について、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

(1)新聞やニュース記事の具体的事案・事例から抽象度を上げた教科書レベルの概念・理論へ展開することができ、論理的に政治的側面・法的側面・経済的側面から問題点と解決手順を思考できる能力を養う。(2)法律行為の能力(特に契約行為の責任)を有する意味を理解し、不利益を被る場合に自ら解決に向けた思考・行動を起こせるような能力を養う。(3)政治的帰結の責任を理解し、社会を観察し行動できるような能力を養う。

《授業時間外学習》

学生の日々の何気ない行動が、法律問題に直結する形で社会と関わりを持っている。学生諸君が、法律行為の能力を有する者(=法的社会的責任を負う者)であると意識しながら、新聞記事などで社会の動きを観察するように心がけること。日常の何気ない行動であっても、その行為に関わる将来への影響の結果(outcome)が予測・想像できるようになってもらいたい。

《成績評価の方法》

1. 講義回数の3分の1以上の欠席の者は不可とする。
2. テーマに関する専門家(本学教授陣および外部講師)を数回交えて講義を展開するため、確認小テストおよび課題レポートの累計により評価する。

《備考》

ルーズリーフ形式ではなく、A4サイズ(B5サイズではない)のいわゆる大学ノートを必ず用意して、授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ライフサイクルにおける資金計画と時間の貨幣的価値(アルバイトの意味と奨学金制度)
2	労働契約の意義	ブラック・バイトやブラック企業などの劣悪な労働環境の事案からの考察、職業的専門家(労働基準監督官・社会保険労務士)の仕事(魅力)
3	契約の意味	契約の意味、労働契約の意義、職業的専門家(法曹(法律家))の仕事(魅力)
4	選挙制度の意義	選挙制度と国民審査制度の現状・裁判員制度の現状の考察
5	投票への準備	選挙制度と国民審査制度の意義・裁判員制度の意義と問題点、職業的専門家(議員・行政職公務員)の仕事(魅力)
6	政治的帰結の責任	(確認小テスト)
7	メディアと法律・人権	ソーシャルメディア(インターネット接続端末の利用)における人権問題・法律問題の考察
8	メディアと法律・人権	ソーシャルメディアと犯罪・人権侵害の事案からの考察、職業的専門家(都道府県警察本部サイバー犯罪対策課)の仕事(魅力)
9	メディアと法律・人権	(確認小テスト)
10	市民活動と住民活動	ボランティア活動・地域活動と行政(その1)
11	市民活動と住民活動	ボランティア活動・地域活動と行政(その2)
12	市民活動と住民活動	(確認小テスト)
13	人生とお金	ライフサイクルにおけるファイナンシャル・プラン、職業的専門家(ファイナンシャルプランナー)の仕事(魅力)
14	人生とお金	社会におけるお金の役割、所得と租税と資産運用、職業的専門家(国税専門官・税理士)の仕事(魅力)
15	まとめ	(確認小テスト)

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	HNAL21001
担当者氏名	本多 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持って余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。
この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

《テキスト》

講義の時、配布する。

《参考図書》

講義時に指示する。

《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

《成績評価の方法》

- ① 提出レポートの内容について事前にコメントをする。その上での提出を求める。
- ② 授業の参加態度 10%
小課題 20%
学期末レポート 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに／倫理の役割	本講義の概要／倫理とは何か？
2	インフォームド・コンセント①	患者の権利／情報を与えられたうえでの合意
3	インフォームド・コンセント②	何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立
4	安楽死と尊厳死①	安楽死と尊厳死／その違いとは
5	安楽死と尊厳死②	死期を決めるのは誰か？
6	脳死と臓器移植①	医療技術の進歩／脳死と臓器移植の関係
7	脳死と臓器移植②	死の基準について
8	相互インタビュー①	これまでの講義のふりかえり
9	人工妊娠中絶①	国家と命の関係について
10	人工妊娠中絶②	出生前診断は必要か？
11	人工妊娠中絶③	議論の組み立て方
12	遺伝子操作と優生思想①	遺伝子操作の現状
13	遺伝子操作と優生思想②	障害学について
14	遺伝子操作と優生思想③	多様な社会を目指して／レポートのフィードバック
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	心理学	科目ナンバリング	HNAL21002
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト70%，レポート20%，受講態度10%
 ＊授業終了前、テーマに対するミニレポートを求めることがある。そこには授業についての意見や感想も書けるようにする。次の授業で、レポート内容や意見について回答する。
 ＊オフィスアワーなどにおいて、質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 § 1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 § 1~2, § 6~7》
3	覚えているって、どういうこと？(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 § 4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 § 1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 § 5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 § 1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 § 2~4》
8	君って、どんな人？(性格) I	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って、どんな人？(性格) II	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 § 1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 § 2~3》
11	あの人って、きっとこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 § 1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 § 4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 § 4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

科目名	化学	科目ナンバリング	HNAL21003
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。

私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《成績評価の方法》

- 定期試験（80%）および小テスト（20%）により評価します。授業の出席回数が10回以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。
- 小テストは返却し、フィードバックを行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類
10	糖質（2）	二糖類、多糖類、糖質の利用
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質
12	脂質（2）	誘導脂質、生体膜、脂質の利用
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能、タンパク質・アミノ酸の利用
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能

《テキスト》

『コ・メディカル化学』
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人）
『あなたと化学』暮らしを支える化学（裳華房）
『環境・暮らし・いのちのための化学のこころ』（裳華房）
『ビギナーズ有機化学』（化学同人）

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読み、専門用語の意味を理解しておくこと。
- 授業内容の要点をまとめる、演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《備考》

- 質問があれば、授業終了後などに質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動（特に、私語）はしないこと。
- アクティブラーニングゾーンにて授業を行う場合もある。

《共通教育科目 自然と科学》

科目名	生物学	科目ナンバリング	HNAL21004
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版 (南雲保編、羊土社)

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻 (デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳)

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験 (100%) により評価する。
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能について学ぶ。
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質について学ぶ。
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミンについて学ぶ。
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳について学ぶ。
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系について学ぶ。
6	光合成	光合成の機構について学ぶ。
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化について学ぶ。
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化について学ぶ。
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システムについて学ぶ。
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性 (ホメオスタシス)、生体防衛機構について学ぶ。
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病について学ぶ。
12	生態系①	生物と環境について学ぶ。
13	生態系②	環境問題、動物の行動について学ぶ。
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類について学ぶ。
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療について学ぶ。

科目名	身のまわりの科学		科目ナンバリング	HNAL21005
担当者氏名	湯瀬 晶文、穂積 隆広			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-F 自然・健康について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

近年、非常に幅広い分野において、科学的な考え方は分野理解のために不可欠な要素となっている。この授業では科学の考え方を知らず、身の回りの様々な現象からいくつかの事例を採り上げ、「実験、体験、経験」を基本にして、「科学はどのようにものを見るのか」について説明を試みる。

なお、大学からの割り当（実施教室や予算）、および受講生の状態により内容を大きく変更することがある。

《授業の到達目標》

この授業では、身のまわりに生じている様々な現象を、科学の観点から見ようとする姿勢を身に付けることを目標とする。またいくつかの具体例において、科学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

＜実験に際しての注意点＞

自分の身は、自分で守る！

《成績評価の方法》

期末試験による評価の予定だが詳細は初回授業で確定する。

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

＜出席について＞

出席回数が全授業実施回数の3分の2に満たない時は、単位認定できないことがあります。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

授業の内容を生活の中で再確認すること。

日常生活の中で、「これはどうなっているのだろうか？」という疑問を持つようにすること。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、科学的世界観は最も幅広く強力なものの一つです。専門領域にとらわれることなく、ぜひ挑戦してみてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価等についての説明と意思確認を行う。授業内容に関する説明もあるため、履修希望者は必ず出席のこと。
2	選挙速報のふしぎ	開票率1%でも「当選確実」と表示できる理由を考える。手で触って区別がつかないピンポン玉から一部を抽出して全体との比較を行う。
3	GPSの原理	GPSはどうやって場所を突き止めるのかを考える。平面上でロープなどを用いてGPSの仕組みを体験する。
4	コンプガチャ問題 (コンプリートガチャ)	コンプリートガチャでかかる費用とそうなる理由を考える。手持ち資金を設定して、どの程度の費用でどの程度達成できるか実験する。
5	ものの重さと移動	ものの移動を通して、力学の基本とよく言われる事例を考える。力学台車に乗せる重量を変えて、どれくらいの力や時間を必要とするかを体験する。
6	様々なエネルギー	日常で簡単に使っているエネルギーとその大きさについて考える。断熱容器や手回し発電機などを用いて日常利用するエネルギーの大きさを実感する。
7	クルクル回るものたち	回転するものにみられるいくつかの現象を考える。ジャイロや車輪などを用いて回転する物体の意外な現象を実験する。
8	火のないところに煙？	火を使わずに火が出る理由を考える。断熱容器内で急速に圧縮すると発火する実験を行う。
9	おもしろ焼きそば	途中で焼きそばの色が変わる理由を考える。中華そばを調理する途中で調味料により色が変わることを実験する。
10	風で物を浮かべる	強力な送風機でピンポン玉などが浮き続ける理由を考える。ピンポン玉やカップ麺の容器が送風機により一定範囲内に浮揚することを実験する。
11	バスボム	バスボムのようなものを作り、泡が出てくる理由を考える。試薬を調合してバスボムのような入浴剤を作り、実際に発泡することを実験する。
12	小麦粉でボン！	小麦粉が爆発する理由を反応面積などから考える。粉じん爆発や酸素中でのスチールウール燃焼実験を行う。
13	花火のふしぎ	花火の色や酸化の仕組みを考える。炎色反応や花火の燃焼実験を行う。
14	総合演習	これまでの学修内容を振り返る。
15	まとめ	これまでの学修内容と得られた知見を再確認する。

《共通教育科目 暮らしと健康》

科目名	食と健康	科目ナンバリング	HLIL21001
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目的とし、消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示する。国内外での実践事例や教材を紹介し、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをめざす。本授業は兵庫県教育委員会の高連携科目でもある。

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性と意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- 成績評価の方法と基準
毎回の講義後に提出を求めるリアクション用紙（20%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、定期試験（50%）
- フィードバックの方法
わからない事はオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜、資料・プリントを配布する。

《参考図書》

「くらしの豆知識（2017年9月発刊予定）」 国民生活センター
「ハンドブック消費者 消費者庁

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《備考》

- 授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。定期試験の受験資格は実施回数分の2以上の出席（遅刻・早退3回は欠席1回とみなす）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。
2	消費者教育の必要性	消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。
3	消費者市民社会とは	消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。
4	消費者問題と歴史 1	不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
5	消費者問題と歴史 2	食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
6	消費者問題と歴史 3	食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。
7	法から見た消費生活	近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。
8	企業から見る消費者教育	A C A Pの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。
9	海外における消費者教育	ユニセフやA C Eの活動を通して海外における実情を理解することができる。
10	持続可能社会と消費者	持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。
11	エシカル（倫理的）消費 1	エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。
12	エシカル（倫理的）消費 2	消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。
13	エシカル（倫理的）消費 3	消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。
14	エシカル（倫理的）消費 4	エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	HLIL21002
担当者氏名	三宅 一郎			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

毎時間プリントを配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業時間外学習》

<予習方法>
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法>
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。レポートに対しコメントを付して返却する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認すると共に、今後の自己の健康管理に役立ててもらいたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	HLIL21002
担当者氏名	矢野 琢也			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 			

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1. 運動 (トレーニング)、2. 栄養、3. 休養 の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1. 運動 (トレーニング)、2. 栄養、3. 休養 の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出80%、期末の課題レポート20%で評価します。

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング (筋トレ) の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング (筋トレ) の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング (筋トレ) の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング (筋トレ) の必要性や効果を理解する (減量など)。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング (筋トレ) の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養 (リカバリー) の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)		科目ナンバリング	HLIS21003
担当者氏名	徳田 泰伸、西尾 和典			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力			

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)
『からだロジー入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)		科目ナンバリング	HLIS21004
担当者氏名	樽本 つぐみ、徳田 泰伸、矢野 琢也、西尾 和典			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力			

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法>
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	私のためのキャリア設計		科目ナンバリング	HCAL21001
担当者氏名	三上 嘉代子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《成績評価の方法》

1. 平常点(授業への取組姿勢) 50%、
2. レポート 50% (提出遅れは減点) レポートにはコメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

平成29（2017）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	基礎ゼミ I		科目ナンバリング	HOAA11001	
担当者氏名	大平 曜子、多田 章夫、吉田 薫、木下 幸文、朽木 勤、河野 稔、加藤 和代、樽本 吉則		つぐみ、矢野 琢也、米野		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

「基礎ゼミ I」は、知的活動への動機づけを高め、科学研究のためのオリエンテーション機能を果たす科目です。複数のチュータークラスが合同になって1つのゼミを編成し、大学教養の範囲を越えない基礎領域の課題を用いて、大学での学びのスキルを学習します。少人数の演習形式の授業の利点を活かし、学生と教員がコミュニケーションを取り合い、相互に尊重し合い、高め合う効果も期待されます。

《授業の到達目標》

①ノートテーキング、②文章表現やレポートの書き方、③情報収集と文献検索（図書館の利用法を含む）、④口頭発表やプレゼンテーションなど、専門領域の枠を超えて、大学での学びに必要な基礎的な知識と技能を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》

レポートの提出や学習成果の発表など（60%）、授業時の提出物など（40%）
 なお、提出物にはコメントを付して返却し、発表には講評をします。また、オフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、学習方法などを説明します。また、大学での学びと社会との関わりについて考えます。
2	学習のスキル	高校までの学びと大学での学びの違いについて考えます。また、4年間の大学生活や1年間の目標をたてます。
3	ノートテーキング	ノートテイキング（ノートの取り方）の意義について考え、ノートテイキングの技術について学習します。
4	資料の収集	図書館の利用や文献検索について学習します。また、インターネットを活用した情報収集と情報に対する批判的態度について考えます。
5	文書作成の基礎 I	要約の手順と書き方について学習し、短い文章を使って要約の練習に取り組みます。
6	文書作成の基礎 II	キーワードやキーセンテンス、接続詞に注目しながら、要約の練習に取り組みます。
7	文書作成の基礎 III	要約のまとめとして、新聞記事や本の要約に取り組みます。また、要約した文章を相互評価します。
8	レポートの書き方 I	一般的なレポートの書き方やその手順について学習します。また、テーマ（問い）の立て方についても学習します。
9	レポートの書き方 II	レポートのテーマを決定し、インターネットや図書館を活用して、資料を収集します。また、参考文献の書き方や引用の仕方を学習します。
10	レポートの書き方 III	レポートの構成を考えて、アウトライン（骨組み）を作成します。また、ワープロソフトを活用して、レポートを作成します。
11	レポートの書き方 IV	レポートを書くときの作法にしたがって、レポートを作成します。また、作成したレポートを相互評価します。
12	プレゼンテーション I	プレゼンテーションの作り方について学習します。個人発表の準備として、プレゼンテーションのアウトラインを考えて、絵コンテを作成します。
13	プレゼンテーション II	絵コンテの内容をもとに、画用紙などを用いて、プレゼンテーション用の資料を作成します。また、発表の練習に取り組みます。
14	プレゼンテーション III	それまでと異なる組み合わせの複数のチュータークラスが合同になり、個人発表を実施して、相互評価を通して改善点を確認します。
15	総括	全体のまとめとして、これまでの学習で得られた成果をふり返り、総括します。

《テキスト》

適宜プリントを配布します。

《参考図書》

学習技術研究会編著（2015）『知へのステップ 第4版』くろしお出版
 その他の参考図書や資料は、適宜紹介します。

《授業時間外学習》

自らの学習課題を明確にし、授業に主体的に臨めるように、またその課題を克服するように努力して下さい。

《備考》

授業計画は目安です。進捗状況によって進行が異なる場合があります。図書館の利用法は時間に変更される場合があります。アクティブラーニング・ゾーンを使用することがあります。

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	H0AA11002
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

近年、健康志向の高まりによりジョギングやマラソンは人気のスポーツであるが学校体育では苦手なスポーツでもある。本講義では長距離を走るための生理的特性を理解するとともに、トレーニングの効果を自分の身体で体得する。それら長距離走の必要性をレポート作成および発表、表現する(加古川マラソン大会出場)ことが目標である。基礎ゼミⅠで学んだ内容をより深めていくことが必要である。

《授業の到達目標》

(1)長距離走に必要なテーマを挙げ、それぞれについて情報を収集できる。(2)調べた内容を発表し、自分の考えを表現できる。(3)協力して実験を行い、レポートを作成できる。(4)その成果をマラソン大会において発揮する。(5)本講義で学んだ内容を自らの生活に振り返ることで、競技力(パフォーマンス)の向上や生活習慣病改善のための知識を身につけることができる。

《成績評価の方法》

(1)(3)(4)についてはレポート提出、(2)(3)(5)は発表の内容で評価する。評価の割合は、レポート50%、発表50%とし100点満点で60点以上を合格とする。レポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「長距離走者の生理科学」平木場浩二(杏林書院) 「スポーツトレーニング理論」伊藤マモル(日本文芸社) 「ランニング解剖学」ジョー・プレオ著(ベースボール・マガジン社)

《授業時間外学習》

①授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。②長距離走に関する新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。③12に開催されるマラソン大会に出場するとともに、大会を支えているボランティア活動を体験する。そこで「走る、見る、支える」側面からマラソンについて理解し発表する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンで授業を実施する場合もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業担当者を決定し、授業の流れを説明する
2	長距離走とは	長距離を走るための身体の構造を理解する(体組成、脳、肉、骨、ホルモンなど)自分の身体を理解する(体組成測定)
3	トレーニング計画作成	トレーニングの効果を理解し、トレーニング計画を作成する(①ジョギング・ペース走 ②インターバル練習 ③全力走)
4	ジョギング、ペース走の効果	個人にあったペースを算出し、ジョギング、ペース走の効果を理解し実践しレポートを作成する
5	栄養・水分補給の効果	長距離走のための栄養や水分補給の効果について理解する
6	インターバルトレーニングの効果	個人にあったペースを算出し、インターバルトレーニングの効果を理解し実践しレポートを作成する
7	筋力トレーニングの効果	長距離走のための筋力トレーニングの効果について理解する
8	スプリントトレーニングの効果	スプリントトレーニングの効果を理解し実践しレポートを作成する
9	休養の効果	長距離走のための休養の取り方や心理的な効果を理解する
10	全力走の効果	全力走の効果について理解し実践しレポートを作成する
11	環境への適応	環境に適応するためウェアの効果等について理解するとともに大会にピークを合わせるピーキングについて理解しレポートを作成する
12	マラソン大会出場	大会に出場する、ボランティア活動を経験する、応援するこれら3つの側面(する、見る、支える)から調査しまとめる
13	発表(1)	研究および調査した内容を発表する
14	発表(2)	研究および調査した内容を発表する
15	長距離走についてまとめ	長距離走について理解したことをまとめる

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	HOAA11002
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

基礎ゼミⅠで学んだこと、身につけたことを土台に、スポーツに関する専門的なテーマでそれらの能力をより向上させることを目的として展開します。新聞、雑誌、TVなどあらゆる情報からスポーツに関するトピックスを選出し、その内容を理解すると共にそれらをより深く理解するために必要な事項について学びます。その上でプレゼンテーションやレポート等でそれらの理解度を確認します。

《授業の到達目標》

第Ⅰに指導者として必要なプレゼンテーション能力（聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く、発表する）を身につけます。その上で、そのための情報収集の力も身につけることを目標とします。運動生理学やトレーニング論等の基礎知識を学びながら、それらの重要性や学ぶことの重要性を理解することも目標とします。

《成績評価の方法》

レポートと授業における発表で評価します(100%)。レポートの提出は期日厳守です。原則遅れは受け取りません。不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法等を説明する。
2	指導論	スポーツ指導者としてのあるべき姿について討論する。
3	コンディショニング	コンディショニングについてその構成要素等を考える。
4	トレーニング計画	トレーニング計画についてその内容や重要性等を考える。
5	スポーツ障害	スポーツ障害、特にオーバーユースに関して考える。
6	成長期のトレーニング	成長期におけるトレーニングの在り方を考える。
7	スポーツイベント	オリンピックやW杯などからトレーニング計画等について考える。
8	運動生理学（筋）	筋組成（速筋、遅筋）の特性を理解する。
9	運動生理学（パワー）	パワーについてその概念を理解する。
10	運動生理学（筋持久力）	筋持久力に関する基礎知識を理解する。
11	運動生理学（全身持久力）	全身持久力に関する基礎知識を理解する。
12	運動生理学（エネルギー）	エネルギーに関する基礎知識を理解する。
13	運動生理学（性別、エイジング）	女性、高齢者に対するトレーニング効果について理解する。
14	運動生理学（ディ・トレーニング）	ディ・トレーニングに関する基礎知識を理解する。
15	まとめ	これまでの内容をまとめる。必要に応じて情報等を補足する。

《テキスト》

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「入門運動生理学第3版」杏林書院、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「ストレングス&コンディショニング」ブックハウスHD、「スポーツ・健康科学」放送大学

《授業時間外学習》

新聞や雑誌等で積極的に情報を収集するようにしてください。また、実際にスポーツをしたり、観戦するなどスポーツに関わる行動を積極的に行ってください。

《備考》

トレーニング指導者を目指す人のための授業を行います。真剣に学びたい人が、より多く学べるように積極的に展開しますので、皆さんの積極的な姿勢を望みます。

科目名	基礎ゼミⅡ		科目ナンバリング	HOAA11002	
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 			

《授業の概要》

深刻化しているいじめ・不登校・虐待などのメンタルヘルスの問題、飲酒・喫煙・薬物乱用、10代に広がる性感染症など身近な健康問題をテーマに、情報を収集し、課題に対する自分の意見や対策への提言をまとめていくことで心と体の健康への関心を高め、適切な行動化へつなげることをねらいとする。また意見交換の方法、提言を伝えるプレゼンテーションの方法等も身につける。

《授業の到達目標》

- 資料検索方法ならびに適切な資料を丁寧に読み取ることができる。
- レポート作成、発表、意見交換により健康をより科学的に捉える。
- 「自らの健康上の問題や課題」も明らかにし改善することができる。

《成績評価の方法》

発表（50%）レポート（50%）で総合的に評価する。
レポートは、評価コメントを加えて返却する。

《テキスト》

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

「学校保健の動向」平成27年度版
（財団法人日本学校保健会）
その他随時紹介する。

《授業時間外学習》

示されたテーマについて、文献や資料をもとに自分の意見や対策への提言をまとめ、意見交換の場に活かす。

《備考》

発表時の質疑・意見、指導講評をもとに修正した最終レポートを提出する。
アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する
2	現代的健康課題	青少年の現代的健康課題、ヘルスプロモーション
3	情報収集 レポートの書き方	情報収集 リーディング 情報整理、レポートの構成
4	健康課題とその対策を考 える（1）	性感染症 10代に広がるクラミジア 性のネットワーク
5	健康課題とその対策を考 える（2）	AIDS HIV感染症 エイズ教育 エイズと社会
6	健康課題とその対策を考 える（3）	薬物乱用 危険ドラッグ 薬物依存 幻覚 禁断症状
7	健康課題とその対策を考 える（4）	喫煙 肺がん 副流煙 たばこ人形実験
8	健康課題とその対策を考 える（5）	虐待 ネグレクト マルトリートメント
9	健康課題とその対策を考 える（6）	不登校 引きこもり 登校支援
10	プレゼンテーションの 方法（1）	プレゼンテーションとは シナリオの組み立て スライド作成
11	プレゼンテーションの 方法（2）	発表原稿（ノート） リハーサル
12	発表（1）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
13	発表（2）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
14	発表（3）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
15	まとめ	学修内容の確認 レポート修正

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	H0AA11002
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

新聞記事を用いて、教育の現代的課題を考察することを通じて、批判的読解力、情報収集力、情報分析力、表現力、課題発見力の向上を目指す。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

山里 亮太、三田村 昌樹『ニュースの読み方教えます!』ヨシモトブックス、2013年。

《授業の到達目標》

- 情報の概要をまとめ、伝えることができる。
- 必要な情報を収集し、関連性を理解して解釈することができる。
- 他の人の意見に耳を傾け、自分の意見を発表できる。
- 情報を批判的に読み解き、自分の考えをレポートにまとめることができる。
- 情報を総合的に判断し、新たな課題を発見できる。

《授業時間外学習》

テーマに沿った情報収集・調査を行い、自分の考えをまとめたレポートを作成すること。
授業での発表用のレジュメを作成すること。

《成績評価の方法》

受講態度（ディスカッションへの参加度等） 30%

発表 30%

提出物 40%

※提出物はコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、新聞記事の構造と読み方
2	テーマⅠ： 部活の外部委託	新聞記事の読解と要約
3	テーマⅠ： 部活の外部委託	関連する情報の分析と発表
4	テーマⅠ： 部活の外部委託	テーマについての意見交換とまとめ
5	テーマⅡ：児童虐待	新聞記事の読解と要約
6	テーマⅡ：児童虐待	関連する情報の分析と発表
7	テーマⅡ：児童虐待	テーマについての意見交換とまとめ
8	テーマⅢ： 問題児童生徒への対応	新聞記事の読解と要約
9	テーマⅢ： 問題児童生徒への対応	関連する情報の分析と発表
10	テーマⅢ： 問題児童生徒への対応	テーマについての意見交換とまとめ
11	テーマⅣ： モンスターペアレント	新聞記事の読解と要約
12	テーマⅣ： モンスターペアレント	関連する情報の分析と発表
13	テーマⅣ： モンスターペアレント	テーマについての意見交換とまとめ
14	レポートの発表1	各自で選択した新聞記事についてのレポートの提出と発表
15	レポートの発表2 まとめ	各自で選択した新聞記事についてのレポートの提出と発表 まとめと振り返り

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	H0AA11002
担当者氏名	米野 吉則		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

「からだ」を窓口にしなが、健康や教育に関するテーマについて考察し合い、問題解決に向けた提案を具体的に示して発表してもらいます。単に知識を伝達するという授業ではありません。日頃の生活でどのような問題意識をもって課題を見出し、解決に向けた方略を見つけていくのかという、自己や社会の発展に必要な力を身に付けます。

《授業の到達目標》

- ・設定された問題に対して、必要な情報を収集しまとめることができる。
- ・問題意識をもって取り組むべき課題を見出し、根拠のある考えを説明することができる。
- ・他人の意見や仮説に対して、論理的に批判することができる。

《成績評価の方法》

発表(50%)と提出物(50%)のみで評価します。
 ※提出物についてはコメントを記入し返却します。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

「こどもたちのライフハザード」 瀧井宏臣 岩波書店 2004
 「こども大変時代」 産経新聞「生命」取材班 産経新聞 2007
 「「学力」の経済学」 中室牧子 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2015

《授業時間外学習》

評価の対象である発表や提出物の作成は、授業時間外で行います。資料集めや実地調査なども同様です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要等を説明する。
2	利便性と生活(1)	利便性がもたらした生活の変化と心身への影響について問題提起と諸説を述べる。
3	利便性と生活(2)	学生の発表、質疑
4	利便性と生活(3)	再発表、まとめ
5	子どもの食卓(1)	現代の食事の仕方、偏食、アレルギー、食育などについて問題提起と諸説を述べる。
6	子どもの食卓(2)	学生の発表、質疑
7	子どもと食卓(3)	再発表、まとめ
8	早期教育と脳(1)	早期教育の是非について脳科学の視点から問題提起と諸説を述べる。
9	早期教育と脳(2)	学生の発表、質疑
10	早期教育と脳(3)	再発表、まとめ
11	ヒトの進化と身体(1)	ヒトの進化の中でみる身体の不思議について問題提起と諸説を述べる。
12	ヒトの進化と身体(2)	学生の発表、質疑
13	ヒトの進化と身体(3)	再発表、まとめ
14	個別テーマ(1)	個別のテーマ設定しまとめて、発表、質疑する。
15	個別テーマ(2)	再発表、まとめ

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	H0AA11002
担当者氏名	朽木 勤		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

基礎ゼミⅠで学んだこと、身につけたことを土台に、健康づくりに関する一般社会の情勢についてさらに深く学び、専門的な立場として望まれている役割について考え、そのために必要な能力を向上させることの大切さを理解し、今後の学習の方向性を定める一助としたい。特に最近注目される健康経営に関して、その制度や現状を調べ、課題や可能性について理解する。

《授業の到達目標》

指導者として必要なプレゼンテーション能力（聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く、発表する）とそのための情報収集の力を身につけることを目標とする。また、健康経営とはなにか、社会における健康経営の意義と健康づくりの専門的な視点から、身体活動・運動の重要性を理解することも目標とする。

《成績評価の方法》

発表(50%)と提出物(50%)で評価する。
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特に指定なし。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

「健康経営」推進ガイドブック、岡田邦夫（経団連出版）、早死にする仕事、長生きする仕事 働き方を変えれば、寿命は10年延びる！、古井祐司（マガジンハウス）、企業・健保担当者必携！ 成果の上がる健康経営の進め方、森晃爾（労働調査会出版局）、先進10事例に学ぶ「健康経営」の始め方、井上俊明（日経BP社）

《授業時間外学習》

評価の対象である発表や提出物の作成は、授業時間外で行う。資料集めや実地調査なども同様。

《備考》

健康経営は、健康運動実践指導者、健康運動指導士の新たな仕事領域として期待できると考える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法を説明する。
2	健康課題の概観	現代社会の健康課題、健康寿命格差、死因と介護原因と運動の意義
3	健康施策の変遷（1）	厚生労働省の健康施策の特徴、健康運動指導士の役割
4	健康施策の変遷（2）	厚生労働省の生活習慣病対策、特定健診・特定保健指導と健康運動指導士の役割
5	健康施策の変遷（3）	厚生労働省の現在の重点課題、データヘルス計画
6	健康施策の変遷（4）	厚生労働省と経済産業省の取り組み、コラボヘルス、健康経営
7	健康経営の基礎（1）	経済産業省の健康経営戦略、健康経営の意義
8	健康経営の基礎（2）	健康経営の認定（大企業）、健康経営銘柄、健康経営優良法人（ホワイト500）
9	健康経営の基礎（3）	健康経営に認定（中小企業）、健康経営優良法人
10	健康経営の基礎（4）	東京都の健康企業宣言・健康優良企業認定（銀、金）
11	健康経営の基礎（5）	東京商工会議所の取り組み、健康経営アドバイザー（初級、上級）
12	健康経営の事例	大企業、中小企業の事例
13	発表（1）	プレゼンテーションと質疑応答、健康施策としての健康経営の意義
14	発表（2）	プレゼンテーションと質疑応答、健康経営の可能性
15	まとめ	報告書の提出。これまでの内容をまとめる。必要に応じて情報等を補足する。

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	HOAA11002		
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 				

《授業の概要》

「基礎ゼミⅠ」の学習成果をもとに、実践的な活動を通じて、大学での主体的・能動的な学びに必要な「スタディスキル」の定着を目指します。

テーマとして「情報倫理」を扱います。ICT（情報通信技術）が社会や実生活に役立つ側面とトラブルや犯罪などの問題となる側面に着目し、技術的な知識だけでなく倫理的・法規的な知識も深め、情報社会の問題点を指摘し、その解決策を考えます。

《授業の到達目標》

- 自ら設定したテーマについて、多様な情報源を調査できる。
- 収集した情報をもとに、レポート等の資料をまとめられる。
- 発表や意見交換を通じて、新たな問題や課題を発見できる。
- 情報倫理に関する諸問題を、幅広い視点から考察できる。

《成績評価の方法》

ワークシート等の提出物（20%）、口頭発表と相互評価（40%）、調査票および調査結果報告書（40%）で評価します。なお、提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評をします。また、オフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ゼミの進め方について
2	情報倫理の概説(1)	インターネットの光と影／スタディスキルとは？
3	情報倫理の概説(2)	情報社会での最新事情と諸問題
4	情報倫理に関する調査の準備(1)	質問紙調査とは
5	情報倫理に関する調査の準備(2)	テーマの検討、調査対象の検討
6	情報倫理に関する調査の準備(3)	先行研究や統計資料の調査(1) 調査の実施
7	情報倫理に関する調査の準備(4)	先行研究や統計資料の調査(2) 調査結果の発表
8	情報倫理に関する調査の準備(5)	リサーチクエスチョンの検討
9	情報倫理に関する調査の準備(6)	フェイスシートと質問項目の検討、調査票の作成
10	情報倫理に関する調査の準備(7)	予備調査の実施、調査票の調整、調査の依頼
11	情報倫理に関する調査	調査の実施、調査票の回収
12	情報倫理に関する調査の分析(1)	調査結果の集計
13	情報倫理に関する調査の分析(2)	調査結果の分析・考察／報告書の作成
14	情報倫理に関する調査の分析(3)	調査結果の発表、相互評価／報告書の作成
15	授業全体のまとめ	報告書の提出／学習の振り返り

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じて、プリント等の資料を配布します。

《参考図書》

- 情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2014)『インターネットの光と影 Ver. 5』北大路書房。
 - 石村貞夫・加藤千恵子・劉晨・石村友二郎(2014)『Excelでやさしく学ぶ アンケート調査と統計処理2013』東京書籍。
- その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

- 予習では、ゼミで指示された文献・資料について調査し、その成果と自分の意見をまとめます。また、質問紙調査の実施のために、先行研究を調査します。
- 復習では、他の受講生の発表に対する感想や意見を、レポートにまとめます。また、質問紙調査の実施のために、先行研究やゼミでの討論をもとに、質問項目を検討します。

《備考》

ゼミ形式の授業は、参加者間のコミュニケーションをお互いの学びあいに発展させる、大学での学びの基礎になるものです。意欲的に参加する態度を希望します。

科目名	生物基礎	科目ナンバリング	HBAS31005
担当者氏名	市村 豊		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）		

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深める基礎基本となる講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して評価します。※三度実施する小テストをコメントして返却し定期試験にフィードバックさせる。定期試験の得点率を考察し次年度の到達目標に反映させる。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物とは 細胞の構造と機能	生物体の特徴（生物と無生物）について学ぶ。 生体内への物質の出入り
2	生命体を構成する物質	主役はタンパク質 生体元素と生体を構成する化合物について学ぶ。
3	酵素と化学反応	酵素は生体内のさまざまな化学反応を促進する触媒について学ぶ。 いろいろな酵素（消化とは）
4	代謝と呼吸 小テスト	生体内での物質交代とエネルギー交代について学ぶ。 呼吸とは生きるためのエネルギーを獲得すること
5	生殖とは	配偶子の形成とヒトの性決定について学ぶ。 親から子へ形質は伝わる（メンデル性遺伝）
6	ヒトの遺伝	血液型・赤緑色覚異常・染色体異常・遺伝子変異 などについて学ぶ。
7	遺伝子の本体と タンパク質合成	DNAの構造と複製について学ぶ。 遺伝子からタンパク質へ 転写と翻訳
8	体液とその働き 小テスト	体液の種類と循環のしくみについて学ぶ。 酸素の運搬・血液凝固
9	肝臓・腎臓の働き	ものを作り、蓄え、分解する化学工場の肝臓について学ぶ。 体液を浄化し尿を生成する腎臓
10	神経系の構造と働き	刺激から反応まで 神経伝達物質による刺激の伝達について学ぶ。
11	自律神経系と内分泌系	自律神経はアクセルとブレーキ（拮抗的作用） 内分泌系（ホルモン）による持続的な調節について学ぶ。
12	体温・血糖量等の調節 小テスト	自律神経とホルモンの連携による体内環境の調節（フィードバック調節）について学ぶ。
13	生体防御免疫	免疫・体を外敵から守るしくみ。 体液性免疫と細胞性免疫について学ぶ。
14	免疫と疾患	疾患と医療（予防接種・自己と非自己・エイズ など）について学ぶ。 抗原抗体反応と血液型
15	まとめ アチーブメントテスト	学習の総括と評価

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

「タンパク質の一生 ー生命活動の舞台裏」永田和宏（岩波新書）
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫（岩波ジュニア新書）
「DNAがわかる本」中内光昭（岩波ジュニア新書）
「カラー図説アメリカ版大学生物の教科書」全5巻 グレイグ・H・ヘラー他著（ブルーバックス）

《授業時間外学習》

授業で使用する図解はかなり高度な内容であり、ヒトの生命について判りやすく解説してあります。授業中に指摘したポイントを図解を利用してしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。分からないについては授業終了後に質問を受け付けます。

《備考》

ヒトの生活に必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、人体の構造・機能を中心に基礎的な知識を習得します。

科目名	健康科学序論		科目ナンバリング	HOAA11003	
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》

健康と疾病は連続性を持っている。普段は当たり前のように考えがちな「健康状態」は、実は壮大かつ精巧な生体メカニズムによって維持されている。健康科学序論の授業においては、健康状態およびその維持についてのメカニズムを理解することで「健康であること」の大切さを再認識し、疾病予防や健康づくりに役立てる。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 生体が健康を維持するためのメカニズム（恒常性の維持、調節機構等）を理解する。
- 2 生体の健康維持機能の破綻によって疾患が発生するメカニズムを理解する。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること。
- 3 日頃から、健康状態について関心を持つよう心掛けること。

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する。
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる。

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること。

小テスト終了後、解説を行い、また、閲覧可能とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の科学的な解明	健康状態について科学的に解明するためのポイント（ホメオスタシス、生体防御、再生と分化、遺伝子発現等）の概略を理解する。
2	個体の調節機構	生体の内部環境の恒常性を保つホメオスタシスの概念を説明でき、血圧、体温、血糖値の恒常性について概略を理解する。
3	体温の調節機構	自律神経系や内分泌系による体温の調節（発汗、ふるえ、血管収縮、代謝）を理解する。
4	血糖値の調節	生体内において血糖値を調節するホルモンの種類や、自律神経によるホルモン分泌調節機構を説明できる。
5	細胞と細胞周期	生体における細胞の種類（上皮細胞、骨細胞、神経細胞等）や細胞周期におけるそれぞれの時期（M期、G0-G2期、S期）の意味合いを理解する。
6	組織の再生、細胞の分化	組織・臓器の再生及び医学において用いられる幹細胞（胚性幹細胞や体性幹細胞）の利点・欠点やiPS細胞について説明できる。
7	骨の形成	骨の成分や形成経路、成長期の骨の形成、思春期の女性ホルモンと骨代謝、成熟期や高齢期の骨の変化について説明できる。
8	遺伝子発現	遺伝の概念、遺伝子（特にDNA）の構造、遺伝情報の概念、遺伝子の転写機構、mRNAから蛋白質への翻訳機構を説明できる。
9	タンパク質	アミノ酸、生体における蛋白質の構造や種類（構造蛋白質、酵素、輸送タンパク質、免疫グロブリン等）とそれらの機能について理解する。
10	酵素と健康	酵素の持つ性質や機能を説明でき、さらに、日常生活において酵素が活用されている例をあげることができる。
11	生体防御（自然免疫）	免疫の概念、自然免疫の概念、主な自然免疫機構について説明できる。
12	生体防御（獲得免疫）	自然免疫との相違、獲得免疫の樹立のメカニズム、獲得免疫を担う細胞について説明できる。
13	生体防御（常在菌）	常在菌の概念、腸内や口腔内における常在菌叢の年齢的な変化、部位別相違、常在菌の持つ意義（特に病原菌感染予防）を説明できる。
14	生体リズム	生体リズム（概日リズム）の概念を理解し、人間のもつ体内時計や生体リズムを調節するメカニズムを説明できる。
15	記憶	スクワイアの記憶分類、長記憶の分類、長期記憶の忘却、原因、記憶の過程、学習について説明できる。

科目名	解剖学	科目ナンバリング	H0AA21006
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）		

《授業の概要》

ヒトが正常な機能を営み、生きていくために、からだの中では極めて多くの精密な構造・機能が複雑に絡み合っており、からだ全体としての調和をとっている。その基準となる正常な構造・機能を十分理解しなければその変化である種々の異常を知ることには不可能である。生涯にわたる人間の健康の維持増進に寄与・貢献していくために不可欠な知識を学んでいく。

《テキスト》

イラストで学ぶ解剖学 松村譲児 医学書院

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 主要な臓器・筋肉・骨格・神経・血管の位置・構造を理解する。
- 2 呼吸、循環、消化・吸収など生理現象がどの臓器を用いて行われるかを説明できる。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し概要を把握しておくこと。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解すること。

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する。
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる。

《備考》

本科目は教員免許必須科目であるため、講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守り、可能な限り欠席のない学生の履修登録が望ましい。

小テスト終了後、解説し、また、閲覧可能とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞・組織	人間の組織・臓器を構成する細胞の基本的な構造やそれぞれの構成要素の機能について説明できる。
2	骨と筋肉	骨や筋肉の基本的な構造が説明でき、身体における主要な骨や筋肉の名称を挙げる事ができる。
3	上肢の骨格や筋肉	肩関節の構成、肩甲骨・鎖骨・上腕骨の解剖学的位置、肩甲挙筋・僧帽筋・大胸筋の起始・停止部や機能について説明できる。
4	下肢の骨格や筋肉	股関節や膝関節を構成する骨、主要な腸腰筋の起始・停止部や神経支配や運動、大腿四頭筋の起始・停止部や神経支配や運動を説明できる。
5	背中の骨と筋肉	背骨の構成、脊椎の構造、広背筋・上後鋸筋・下鋸筋・回旋筋・腸筋の起始・停止部や神経支配や主な機能を説明できる。
6	頭部の骨と筋肉	咀嚼筋の起始・停止部、神経支配、機能、頭蓋を構成する骨、顔面を構成する骨について説明できる。
7	呼吸器系	胸郭を構成する骨、呼吸運動に働く筋肉（横隔膜、肋間筋）の機能、各呼吸器の解剖学的な関係について説明できる。
8	心臓・循環器系	心臓の解剖学的な位置、構造、機能、心筋の特徴、体循環、肺循環、栄養動脈、刺激伝導系、神経支配について説明できる。
9	動脈・静脈系	動・静脈の構造・機能に関する相違、主な動脈の走行部位、栄養を与える臓器、脈拍を触れやすい動脈、主な静脈の走行について説明できる。
10	消化器系（1）	消化管、口腔、咽頭、食道、胃について、それぞれの解剖学的位置、構造、機能について説明できる。
11	消化器系（2）	消化管、口腔、咽頭、食道、胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸（盲腸、結腸、直腸）についてそれぞれの解剖学的位置、構造、機能について説明できる。
12	腹部臓器	肝臓、胆嚢、膵臓の解剖学的位置、形態、構造、栄養動脈、機能、腎臓の形態、構造、解剖学的位置、腎小体、糸球体、ボウマン嚢、尿の生成過程について理解する。
13	中枢神経系（1）	髄膜、脳室、脳に分布する動脈の走行、大脳皮質の各部位（前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉）それぞれの機能について説明できる。
14	中枢神経系（2）	間脳、脳幹（中脳、橋、延髄）、脊髄、小脳の解剖学的位置やそれぞれの機能について説明できる。
15	末梢神経系・感覚器	中枢神経・脳神経・脊髄神経・感覚神経・運動神経について説明できる。感覚器の構造について説明できる。

科目名	生理学	科目ナンバリング	H0AA21007
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）		

《授業の概要》

生理学は、生命維持に必要な人体の仕組み、あるいは、身体運動を含む生命活動を維持している人体の基本的な機能を追及する学問領域である。これらの仕組みと機能について体系的な知識を習得するとともに、運動、呼吸、循環などの生命維持に不可欠な機能の統合的な制御を学習する。

《テキスト》

「人体生理学ノート」松根幹朗、岡田隆史 金芳堂

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 神経興奮伝達メカニズム、中枢神経による運動制御機構を説明できる。
- 2 末梢神経から中枢神経への情報伝達、中枢神経からの生体活動指令の伝達経路を説明できる。
- 3 呼吸、循環、消化・吸収、体温調節、内分泌など生体のホメオスタシスの維持に必須の機能を説明できる。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し概要を把握しておく。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解すること。
- 3 人体の生理現象を身近な問題として捉えるよう日頃から心がける。

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する。
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる。

《備考》

本科目は教員免許及び衛生管理者(第一種)必須科目であるため、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守り、可能な限り欠席のない学生の履修登録が望ましい。

小テスト終了後、解説を行い、また、閲覧可能とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生命現象	生物が生命を維持する上で必要な生理現象として循環、呼吸、代謝、神経伝達、消化・吸収等の概念を理解する。
2	細胞膜の興奮	静止状態にある細胞の膜電位及びそれを形成する細胞内外のNa ⁺ 、K ⁺ 濃度及び、刺激を受けた細胞膜に流れるイオン電流と電位変化を説明できる。
3	神経の伝達	細胞、特に神経細胞に発生した細胞膜の興奮が隣接する細胞や筋肉にどのような機序で伝達するかを説明できる。さらに、興奮伝達の三原則を説明できる。
4	骨格筋の収縮	神経細胞から伝達された興奮は神経・筋接合部でどのように伝達されるか、筋細胞に伝達された興奮により筋肉が収縮する仕組みを説明できる。
5	末梢神経	末梢神経には体性神経（運動神経、感覚神経）と自律神経があることを理解し、自律神経の特徴や自律神経における興奮伝達物質について説明できる。
6	中枢神経（脊髄、脳幹、視床下部、小脳）	脊髄反射、中脳、延髄それぞれが司る生命維持に重要な機能、視床下部が調節するホメオスタシス機構、小脳の司る知覚・運動統合機能を説明できる。
7	中枢神経（大脳）	大脳皮質の古皮質・新皮質が司る高次脳機能（知覚、随意運動、思考、記憶等）や一次運動野の分布、そして錐体路と錐体外路との相違について説明できる。
8	血液	それぞれの血球細胞（赤血球、白血球、血小板）の有する機能について説明できる。
9	心臓・循環器系	心臓の有する機能、体循環、肺循環経路、刺激伝導系、心筋の活動電位、心臓のポンプ作用、心拍量について説明できる。
10	血液循環	呼吸の概念（外呼吸と内呼吸）、呼吸運動に関与する臓器・組織、呼吸器量、呼吸の化学的調節や神経性調節について説明できる。
11	呼吸	呼吸の概念（外呼吸と内呼吸）、呼吸運動に関与する臓器・組織、呼吸器量、呼吸の化学的調節や神経性調節について説明できる。
12	消化・吸収（口腔、咽頭、食道、胃）	口腔内消化における咀嚼筋、3大唾液腺、唾液の役割、嚥下運動、胃内消化における胃液の性状、胃液中に分泌されるホルモンや消化酵素について説明できる。
13	消化・吸収（小腸、大腸）	小腸での消化において分泌される膵液、胆汁、腸液に含まれるホルモンや消化酵素やそれらの生理活性、小腸における栄養素吸収、大腸内消化について説明できる。
14	内分泌	体内に分泌される調節性ホルモン及び機能性ホルモンの概念を理解し、主要なホルモンの生理作用を説明できる。
15	尿排泄	尿が生成・排泄されるまでの機構及び、尿排泄を調節するホルモンについて説明できる。

科目名	栄養学	科目ナンバリング	HOAA21010		
担当者氏名	細川 敬三、宇野 裕美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） <input type="radio"/> 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） <input checked="" type="radio"/> 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）			

《授業の概要》

豊かな人生にとって健康は重要な要素であり、その健康を維持・増進あるいは逆に悪化させるのは栄養である。したがって、栄養を知ることは、健康あるいは疾患時のケアを行う上で必要不可欠である。そこで本講義では、日常的に摂取する食品とその栄養素に関する基本を理解し、さらに体内での働きや健康の維持・増進、人のライフステージごとの栄養、あるいは疾病との関わりについても理解を深めることを目指す。

《授業の到達目標》

- (1) 食品とそこに含まれる栄養素の関係について説明できる。
- (2) 健康の維持・増進と栄養の関わりについて、基本的事項を説明できる。
- (3) 食事摂取基準や運動基準について意義を説明できる。
- (4) 種々の評価指標から対象者の栄養状態を推測できる。
- (5) 各ライフステージにおける生理的特徴と栄養管理について、要点を簡潔に説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験 (100%)

*分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

必要に応じて適時プリントを配付する。

《参考図書》

『食品学Ⅰ(第2版)』菅原龍幸・福澤美喜男編、建帛社
 『日本人の食事摂取基準(2015年版)』厚生労働省、第一出版
 『栄養学 第12版』小野 章史、杉山 みち子、鈴木 志保子、外山 健二、中村 丁次、医学書院

《授業時間外学習》

復習：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

健康を考える上で、食品と栄養に関心を持つことは大切です。日常の食生活の中で「？」と感じてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに（食品成分の概要）	食品と食品に含まれる成分の概要について理解する。
2	炭水化物（糖質）	炭水化物の種類について理解する。
3	脂質	脂質の種類について理解する。
4	たんぱく質	たんぱく質の種類について理解する。
5	ビタミンとミネラル	ビタミンとミネラルの種類について理解する。
6	機能性成分	機能性成分について理解する。
7	食品の表示	食品の表示について理解する。
8	食事と食品	食品と栄養素の関係、日常の活動と栄養の関係を理解する。
9	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	食物の消化、栄養素の吸収、栄養素の代謝、食品のエネルギー、体内のエネルギーについて理解する。
10	食事摂取基準と健康づくり	食事摂取基準、運動指針を理解し、生活習慣病の予防、健康づくりに活かす方法を考える。
11	ライフステージと栄養①	妊娠・授乳期の栄養の重要性について理解する。
12	ライフステージと栄養②	新生児から思春期にかけての栄養の重要性について理解する。
13	ライフステージと栄養③	成人・高齢期の栄養上の問題点と生活習慣病との関連についても理解する。
14	栄養素による生体機能調節、疾病と栄養	栄養と免疫や運動パフォーマンス、疾病との関連について理解する。
15	栄養状態の評価	栄養状態の評価の目的と方法について理解する。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	食品学	科目ナンバリング	HOXA21011		
担当者氏名	土井 裕司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）			

《授業の概要》

食品は健康維持に必要な多種多様な成分の集合体である。人は食品から成長や健康の維持に必要な様々な栄養素を摂取している。ここでは食品成分について科学的に理解し、基本的な知識を修得することを目的としている。

《テキスト》

森田潤司・成田宏史編「食品学総論」第3版、化学同人

《参考図書》

小関正道・佐藤隆一郎編「わかりやすい食物と健康 1」三共出版、佐藤隆一郎・高畑京也・渡邊 悟編著「わかりやすい食物と健康 2」三共出版

《授業の到達目標》

食品成分の種類や特徴を科学的に理解し、得られた知識を他人に説明できるようになることを目標としている。教職課程履修学生には、学修内容を当該の教科内容および教材に関連づけて理解し、活用できるようになることを目標としている。

《授業時間外学習》

予習として、事前にテキストに目を通しておくこと。また、毎回の授業内容について必ず復習をすること。

《成績評価の方法》

1. 授業への積極的な取り組み(10%)
 2. 課題レポート(20%)
 3. 定期試験(70%)
- わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

化学の知識が必要ですから、高校で学んだ化学を見直しておくこと。授業時には前列から座るように心がけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食品とは	有機化学の基礎を概説したあと、食品・食物・栄養素といった言葉の定義を理解する。
2	水	水の構造や性質を解説し、食品中で水がどのように存在しているかを理解する。また、水が生体中や食品中でどのような機能を持っているかを理解する。
3	タンパク質	アミノ酸の構造・種類を説明したあと、タンパク質の構造や形状による分類を説明する。酵素がタンパク質であることを説明し、タンパク質の変性について理解する。
4	炭水化物	糖質の分類について言及する。次いで単糖や多糖の構造を説明する。糖質と炭水化物の違いを説明し、糖質や食物繊維の機能について理解する。
5	脂質	種々の脂肪酸の構造を説明する。次いで油脂の構造と性質について理解する。
6	無機質	無機質の食品中での働きを概説した後、この無機質の食品加工での役割や生体への機能を理解する。
7	ビタミン	このビタミンの生体への機能について理解する。
8	食品のおいしさに関わる成分	味に関わる成分、香りに関わる成分、色に関わる成分について理解する。
9	食品中の有害物質	植物由来の有害成分、動物中の有害成分、微生物由来の有害成分、アレルギー反応について理解する。
10	食品の機能	食品中に存在している生体調節機能を有した成分が、人の健康にどのように影響するかを理解する。
11	食品表示制度	日本での食品表示制度について理解する。
12	油脂の酸化	油脂が酸化していくメカニズムについて理解する。酸化した油脂の摂取が人の健康にどのように影響するかを理解する。
13	タンパク質・でんぷんの変化	食品中のタンパク質やデンプンが構造変化を引き起こすことを理解する。それらの変化が栄養的にどのような変化となったかを理解する。
14	褐変	食品の色の変化について理解する。その変化は食品の性質にどのような変化をもたらすかを理解する。
15	酵素による変化	食品成分が酵素によってどのように変化させられるかを理解する。酵素反応による生成物が人の食生活とどのように関わっていくかを理解する。

科目名	衛生学	科目ナンバリング	H0AA21013
担当者氏名	内田 勇人		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

衛生には生命を衛るという意味がある。本講義では衛生に関わる今日の動向、諸課題を中心として、歴史的な側面にも目を向け、体系的に検討する。具体的には日本人の健康を取り巻く背景の変化、高齢社会、国際保健、健康政策、疫学、年齢階層別保健行政の実際について考えていく。受講生自身が日常生活習慣や国・地方公共団体の衛生行政への関心を高め、生涯にわたる健康の実現に向けた知識を養うことを目的とする。

《テキスト》

「衛生学および公衆衛生学」（担当教員作成）

《参考図書》

衛生・公衆衛生学関連書籍、現代健康学（九州大学出版会）等

《授業の到達目標》

今日の日本人の健康に関わる諸課題を理解し、いかにして個人と集団の疾病罹患を予防し、健康の維持・増進を図れるかについて説明できる。また日本人の疾病構造、食生活、労働態様、人口構成がどのように変化してきたのか、疾病の原因とその予防策、国外の動向、ライフステージ毎の保健行政の実際等について正しく理解し、実生活への応用の仕方について説明できる。

《授業時間外学習》

履修にあたっては、十分に予習・復習をして講義に出席すること。特に新聞、ニュース等で報じられる国内外の衛生、健康、予防医学、福祉、社会保障等に関するトピックスへ関心を払い、最新の医療・健康・福祉の行政施策等の動きについて、学習しておくこと。

《成績評価の方法》

講義ごとに講義内容に関するレポートを課し、その記載内容を評価する。レポートの成績全体に占める評価の割合は20%。学期末試験を実施。学期末試験の成績全体に占める評価の割合は70%。受講態度（成績全体に占める評価の割合は10%）を含め総合的に評価する。わからないことはWISAR等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション：衛生学への誘い	衛生学の定義、国民衛生の動向、日本人の健康を取り巻く背景の変化、健康政策、疫学、各年齢階層の保健行政の概略について説明することができる。
2	疾病構造の変化、食生活の変化	過去75年の間の疾病構造の変化（感染症から生活習慣病へ）、および食生活の変化（粗食から飽食へ）の各実態について説明することができる。
3	労働態様の変化、人口構成の変化	わが国の労働態様の変化（労働強度の時代から労働密度の時代へ）、人口構成の変化（多産多死から少産少死へ）の各実態について説明することができる。
4	個人レベルの健康を取り巻く背景	個人レベルの健康（主体要因、生物学的要因、物理・化学的要因、生活習慣的要因、社会・経済・心理的要因）の背景について説明することができる。
5	集団の健康問題を構成する背景	集団の健康（人口動態・人口構成、疾病構造、産業構造、生活水準、衛生状態、社会・文化的な慣習）の背景について説明することができる。
6	発展途上国、先進工業国、高齢社会における特	発展途上国、先進工業国、高齢社会における健康課題について理解し、それぞれの健康政策の相違点について説明する事ができる。
7	集団と個人の健康指標	集団の健康指標（平均寿命、乳児死亡率、年齢調整死亡率等）と個人の健康指標（身体・精神的健康度等）について理解し、それらの特徴について説明することができる。
8	オッズ比、リスク比の考え方	疫学の定義、疫学の歴史、疾病と要因の関連の強さを評価するオッズ比とリスク比の考え方、計算方法について説明することができる。
9	スクリーニングの考え方	スクリーニング（疾病の重症化や死亡を予防するために人々に対してある検査を行い有病者を拾い上げる医療行為）、感度と特異度等について説明することができる。
10	母子保健と小児保健	母子保健・小児保健の歴史、児童福祉法、母体保護法の内容、健やか親子21における具体的な課題について説明することができる。
11	学校保健	学校保健の歴史、学校保健安全法の内容、WHOが推奨しているHealth Promoting School、児童の疾病・異常の被患率、薬物汚染の実態について説明することができる。
12	公害・産業保健	産業保健・公害の歴史、最近の産業保健活動、メンタルストレスの問題、自殺予防の実際、職業病、公害について説明することができる。
13	地域保健	地域保健の歴史、保健所と保健センターの違い、地域住民の健康の保持増進施策について説明することができる。
14	高齢者保健	高齢者保健の歴史、高齢者医療法、地域包括支援センターの役割、特定健診、特定保健指導について説明することができる。
15	まとめと評価（到達度の確認）	乳幼児から高齢者に至る全ての年齢階層の健康課題や健康管理の方法、保健福祉施策について説明することができる。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体育原理	科目ナンバリング	H1BX21001
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

体育原理という言葉は、PrincipleまたはFoundationに由来するものである。Principleには原理、原則。Foundationには、基礎、土台、根拠、出発点などの意味がある。体育原理は、体育はどのような原理・原則に基づいて考えられ、実践されなければならないか、正しい体育のあり方を学習する。

《テキスト》

資料配布および授業において紹介する。

《参考図書》

授業において適宜紹介する。

《授業の到達目標》

体育原理という講義を通じて体育（教育）の目標内容・方法の一貫性を原理として学んでいき、現代の健康スポーツに関する問題点を観察し説明ができる。

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出レポート、課題小テスト（20%）、各分野の学習後に課すレポート課題（60%）、平常点（20%）レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1 5週の授業内容について説明する
2	身体の哲学的観察	身体の哲学的観察、身体の構造的把握、社会的身体
3	身体と体育	身体と体育、現代教育における身体的問題
4	体育の定義	体育の定義、体育という語の由来、体育とは身体活動の意義、体育の分野
5	体育の分野別課題	体育の分野別課題、幼児期の体育、少年期の体育、青年期の体育、壮年期の体育、老年期の体育
6	体育の必要性	体育の必要性（科学的原理の根拠）、社会的側面、運動生活的側面（生物学的）、社会の中のスポーツについて学ぶ
7	体育の成立	体育の成立、体育の成立事情、体育の成立事例、体育の成立の発展、体育の成立条件、体育の指導者、体育の可能性と限界、我が国のスポーツ振興政策についても学ぶ
8	体育の目標	体育の目標、発達の目標、生活的目標、民主的人間：我が国のスポーツ振興政策に関連して学ぶ
9	学校体育の内容	学校体育の内容、学校における教育活動、学校体育の内容：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
10	体育の内容と学習活動	体育の内容と学習活動、体育内容の編成（カリキュラム）：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
11	体育の方法	体育の方法、教育方法の原理、生理学的原理、トレーニングの生理学的原理、具体的トレーニング
12	スポーツと人権	心理学的原理、社会的な原理、内容に即した方法原理、体育の実践形態、スポーツと人権
13	学習の指導段階	学習の指導段階（週2～12までのまとめと課題）
14	スポーツの大衆化	スポーツの大衆化、子供の運動遊び、スポーツと人権について、える
15	学習	学習のまとめ

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動の基礎		科目ナンバリング	H1BB11002
担当者氏名	木下 幸文			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期 1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）			

《授業の概要》

これから運動やスポーツに関する事項を多く学んでいくことになるが、「運動の基礎」はその始めとなる科目の1つである。そのことから、本演習では「身体を動かす意味」について考えていきたいと思う。具体的には、呼吸循環器や運動器が身体活動時にどのように作用（機能）しているのかを考えていく。すなわち本科目は、実際に身体を動かして体験しながら、じっくりと観察し、分析していく体験学習型の演習科目である。

《テキスト》

健康運動実践指導者養成用テキスト（公益財団法人健康体力づくり事業財団）

《参考図書》

演習内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

この演習では実習とそれに関する講義を交えながら進めていく中で、身体を動かすことの意義を理解し、考えることができるようになる。また、これから運動に携わる者として、身体活動の重要性を説明することができるようになる。

《授業時間外学習》

課題作成にあたっては資料などを参考にしながら、自分なりの意見がまとめられる様に意識的訓練を行うこと。

《成績評価の方法》

定期試験（50%）、課題提出（40%）、演習への取り組み（10%）とし、100点満点で60点以上を合格とする。提出したレポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

出席状況は毎回確認するとともに、課題の提出も頻繁に求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動とは何か？	みんなで運動（身体活動）の必要性について考えてみよう（グループ学習）
2	運動の在り方について考える	身体を動かすことの意義について考えることができる
3	身体活動に伴う生理的な変化を調べる	身体を動かすによって変化する生理的な変化（脈拍数の測定）について考えることができる
4	行動を継続する能力について（1）	運動における全身持久力の役割について理解する（循環器の機能と運動）
5	行動を継続する能力について（2）	運動における全身持久力の役割について理解する（呼吸器の機能と運動）
6	骨格筋を効率よく使う方法について考える	バネのような機械的なエネルギーをもつ骨格筋について考えることができる
7	行動を起こす能力について（1）	運動における骨格筋の構造とその機能について理解する
8	速く走るための方法を考える	勢いよく走りきるための骨格筋と腱の役割について考えることができる
9	行動を起こす能力について（2）	運動における骨格筋の構造とその機能について理解する
10	身体を継続して動かす方法について調べる	身体を動かしている時に使われている栄養素について考えることができる
11	運動を行う際の栄養素の役割について	糖質、脂質やタンパク質といった栄養素と運動の関係について理解する
12	意欲的に運動を行うための方法を調べる	選手の実力を発揮させる方法について考えることができる（スポーツ指導者の役割について理解する）
13	運動指導における心理学の役割	運動を指導する上で必要となるスキル（コミュニケーションスキル）について考えることができる（指導者の心構え・視点について理解する）
14	競技力を向上させるための手段について考える	一貫した理念のもとに個人の特性や発達段階に応じて最適な指導を行うための方法について考えることができる（競技者育成プログラムの理念について）
15	身体を動かすことの意味について考える	健康を保つために必要な運動について説明することができる（グループ学習）

科目名	幼児運動実践演習		科目ナンバリング	H1BX11039	
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 				

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を交えながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。この授業を通して得た知識を、今後の運動・スポーツ指導に有効に活用できる事を望む。

《授業の到達目標》

幼児期の運動遊びを適切に援助できる能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動遊びの考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期に適した運動実践の在り方や援助方法を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。
 毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。ノート、レポート、テストに対してコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ方等を説明する。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動遊びの必要性、援助における問題点の対策について
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動遊びと留意点の理解
4	精神面の発達特徴	各年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション方法
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた運動発達の特徴と運動遊び
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動遊び
8	移動系運動の発達	移動系運動の発達特徴と運動遊びの実際
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	操作系・非移動系＜平衡系＞運動の発達と運動遊びの実際
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法と測定結果の活用方法
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動遊びプログラムの実際と援助方法
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと運動遊びプログラム
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方をと運動遊びプログラム
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方をと運動遊びプログラム
15	まとめ	各年代における運動発達特徴の確認。場面に応じた運動実践方法。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
 「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）
 「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）
 “Motor Development and Movement Experiences for Young Children” DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 ＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ史（体育史を含む）		科目ナンバリング	H1BX21011
担当者氏名	徳田 泰伸			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

古代から現代にいたるスポーツと教育の関係を、社会的・文化的・技術的・理論的視点から学習する。

《テキスト》

特に指定しない。講義中に参考資料の配付及び参考図書を紹介をする。

《参考図書》

必要に応じて参考資料を配付する。

《授業の到達目標》

運動・スポーツの歴史的研究の意義と方法を通じて、体育・スポーツの成り立ちや歩みを理解することができる。

《授業時間外学習》

スポーツ史に登場する遺跡や人物等の展示会があれば見学すること。また、テレビ等で取り上げられる番組があれば視聴するようにする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出物、レポート課題小テスト（20%）、各分野の学習後に課すレポート課題（60%）、平常点（20%）
レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1 5 週の授業内容について説明する。
2	人類文明と身体的技能職の成立	資料・文献を通じて学習していく、文化としてのスポーツについて学ぶ
3	古代文明のスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
4	中世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
5	近世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
6	近代体育理論の成立と展開	資料・文献を通じて学習していく
7	近代スポーツの展開	資料・文献を通じて学習していく
8	近代オリंपリズムの成立過程	資料・文献を通じて学習していく
9	学校体育の制度化とスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
10	体育の科学的発展	資料・文献を通じて学習していく
11	生涯スポーツの歴史的展望	資料・文献を通じて学習していく
12	スポーツの概念	スポーツの概念と歴史について学ぶ
13	ディスカッション	各グループ別によるディスカッション（課題提供）
14	レポート	レポートによる小テスト
15	学習	学習のまとめ

科目名	体力測定と評価		科目ナンバリング	H1BB11016
担当者氏名	木下 幸文			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）			

《授業の概要》

近年、体力と健康の関係が重要視されるようになった。体力測定は様々な項目を計測することによって、自分自身の現時点における体力の状態を把握することが目的となっている。また、児童・生徒のみならず中高年者の体力の実態を正確に把握することは、発育発達や年齢に応じた運動プログラムを提供していく上で重要となる。本演習では自身の体力測定を行うだけでなく、体力測定の実際とその評価方法について学んでいく。

《授業の到達目標》

児童・生徒から高齢者まで、さらにはトップアスリートの体力を正確に測定することが出来る。また、体力を測定することの意義を考えながら、得られた測定結果をもとにして適切な体力評価が行えるようになる。

《成績評価の方法》

定期試験（50%）、課題提出（40%）、演習への取り組み（10%）とし、100点満点で60点以上を合格とする。講義時に提出した課題は、コメントをつけて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	体力測定の意義について	体力が健康に及ぼす影響について理解する
2	体力とは	行動体力と防衛体力について理解する
3	体力測定の指標について	体力の測定に用いられている様々な指標について理解する（新体力テスト、ADLテスト、健康づくりのための身体活動基準ほか）
4	身体組成の測定法と実際	体密度と体脂肪量の測定法とその評価方法について理解する
5	体力の測定方法と実際について（1）	骨格筋の力（筋力）を評価する（筋力と握力、背筋力について） ※中年期も含む
6	体力の測定方法と実際について（2）	骨格筋の有する力（筋持久力・筋パワー）について評価する（上体起こし、垂直跳び、立ち幅跳びなど） ※中年期も含む
7	体力の測定方法と実際について（3）	骨格筋の有する力（筋パワー）について評価する（50m走、ソフトボール投げなど） ※中年期も含む
8	体力の評価方法について	各自の測定データを処理（平均値、標準偏差など）し、体力の判定基準などと照らし合わせて分析することが出来る
9	体力の測定方法と実際について（4）	心肺の機能（全身持久力）を評価する（20mシャトルラン、6分間歩行など） ※中年期も含む
10	体力の測定方法と実際について（5）	バランス能力や調整力（柔軟性、敏捷性、平衡性）を評価する（長座体前屈、反復横跳びなど） ※中年期も含む
11	年代別（高齢者）の体力評価について（1）	高齢者のフィールドテスト（10m障害物歩行など）により体力を評価することが出来る
12	年代別（高齢者）の体力評価について（2）	高齢者のフィールドテスト（開眼片足立ち、ファンクショナルリーチなど）により体力を評価することが出来る
13	介護予防に関する体力測定法について	介護予防における体力測定の意義について理解する
14	介護予防に関する体力測定の実際	体力の測定法を用いて、介護予防における体力について評価することが出来る
15	体力評価について（まとめ）	演習全体のまとめ

《テキスト》

健康運動実践指導者養成用テキスト（公益財団法人健康体力づくり事業財団）、「新体力テスト実施要領（6～79歳）」（文部科学省）

《参考図書》

演習内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

様々な測定指標について、正確に測定するための方法について測定開始時まで事前学習をしておくこと。

《備考》

出席状況は毎回確認するとともに、課題の提出も頻繁に求めます。本演習では自分自身の体力測定も行います。測定の際は更衣を済ませておくこと。

科目名	スポーツ実践演習 I		科目ナンバリング	H1CX21041	
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を体験する。この授業を通して体得したものが、Ⅱ期開講のスポーツ実践Ⅱに有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

主として体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールの理解及び審判方法を体得すると共に、学校体育における実施種目の実戦を通して段階的な指導方法を学ぶ。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。レポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ボーレット著『中学校学習指導要領解説（保健体育編）』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。<復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	体づくり運動の考え方と実践（1）	青少年期における動きの発達とスキルの獲得のための方法 青少年期の静的レジスタンストレーニング
3	体づくり運動の考え方と実践（2）	青少年期における専門スポーツのスキル獲得のための方法 青少年期の動的レジスタンストレーニング
4	器械運動の考え方と実践（1）	マット運動における特性の理解と実践（その1）
5	器械運動の考え方と実践（2）	マット運動における特性の理解と実践（その2）
6	球技の考え方と実践（1）	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と実践（その1）
7	球技の考え方と実践（2）	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と実践（その2）
8	球技の考え方と実践（3）	バレーボールにおける特性・ルールの理解と実践（その1）
9	球技の考え方と実践（4）	バレーボールにおける特性・ルールの理解と実践（その2）
10	水泳の考え方と実践	水泳及び水中運動における種目特性の理解と実践（青少年期における専門スポーツのスキル獲得のための方法）
11	陸上競技の考え方と実践（1）	短距離における種目特性の理解と実践
12	陸上競技の考え方と実践（2）	リレーにおける種目特性の理解と実践
13	格技の考え方と実践（1）	剣道における特性の理解と実践（その1）
14	格技の考え方と実践（2）	剣道における特性の理解と実践（その2）
15	まとめ	授業のまとめをする

科目名	スポーツ実践演習Ⅱ	科目ナンバリング	H1CX21042
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）		

《授業の概要》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を体験する。各自がこの授業を通して体得したものが、2年次以降のスポーツ関連科目で有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

主として体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールの理解及び審判方法を体得すると共に、学校体育における実施種目の実戦を通して段階的な指導方法を学ぶ。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。レポートにコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	器械運動（1）	跳び箱運動における特性の理解と実践（その1）
3	器械運動（2）	跳び箱運動における特性の理解と実践（その2）、指導計画書の作成および指導
4	器械運動（3）	鉄棒運動における特性の理解と実践（その1）
5	器械運動（4）	鉄棒運動における特性の理解と実践（その2）、指導計画書の作成および指導
6	球技（1）	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得（コーディネーショントレーニングを含む）
7	球技（2）	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得（コーディネーショントレーニングを含む）
8	ダンス	ダンスにおける種目特性の理解と実践、指導計画書の作成および指導
9	陸上競技（1）	走り幅跳び・走り高跳びにおける種目特性の理解と実践
10	陸上競技（2）	正しいウォーキング・ジョギング長距離走における種目特性の理解と実践 指導計画書の作成および指導
11	球技（1）	サッカーにおける特性・ルールの理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得
12	球技（2）	サッカーにおける特性・ルールの理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得
13	格技（1）	柔道における特性の理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得
14	格技（2）	柔道における特性の理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得
15	まとめ	まとめを行う

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ボーレット著『中学校学習指導要領解説（保健体育編）』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 <復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	陸上競技 I	科目ナンバリング	H1CX21046
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

陸上競技は走・跳・投の運動で、より速くより遠くより高くといった自己の記録を高めたり、定められた条件やルールの中で他人と競争するところに楽しさや喜びを味わえる競技である。この授業では、陸上競技に必要な基礎体力の向上と技術を高めるための指導法について学び実践する。

《テキスト》

特に指定はしません。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

この授業では、走・跳・投の特性を理解し、技術の修得および設定記録に到達できることを目標とする。

《授業時間外学習》

到達目標に達するために個人でトレーニングを行うこと。

《成績評価の方法》

授業の内容等をまとめたノートおよびレポートの提出（50%）
 基本的な体力、技術、設定タイムの到達度（50%）
 ノートおよびレポートにコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する。
2	短距離走	短距離の特性理解（スタート技術、加速走、中間走、フィニッシュ）
3	短距離走	練習方法と指導法、タイムトライアル
4	リレー	リレーの特性理解（バトンパス等）
5	リレー	練習方法と指導法、タイムトライアル
6	ハードル走	ハードルの特性理解（ハードリング、インターバル等）
7	ハードル走	ハードルの実践練習
8	ハードル走	練習方法と指導法
9	ハードル走	練習方法と指導法、タイムトライアル
10	走り幅跳び	幅跳びの特性理解（助走、踏切、空中動作、着地）
11	走り幅跳び	練習方法と指導法
12	走り幅跳び	練習方法と指導法、タイムトライアル
13	走り高跳び	高跳びの特性理解
14	走り高跳び	練習方法と指導法
15	走り高跳び	練習方法と指導法、タイムトライアル

科目名	球技 I	科目ナンバリング	H1CX21047
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）		

《授業の概要》

中学校学習指導要領解説「保健体育編」を理解すること。特に球技の教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

「中学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省

《参考図書》

必要に応じて紹介する

《授業の到達目標》

球技における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 ＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。
 毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（20%）。各種目技能の習熟度を確認する実技テスト（30%）。
 提出されたノートやレポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。スポーツ活動に相応しい服装で参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	バスケットボール（1）	バスケットボールの特性とルールの理解
3	バスケットボール（2）	ボールの操作と攻撃・守備の実践（1）シュート練習、パス、ドリブルの練習
4	バスケットボール（3）	ボールの操作と攻撃・守備の実践（2）シュート練習、パス、ドリブルの練習
5	バスケットボール（4）	ボールの操作と攻撃・守備の実践（3）シュート練習、パス、ドリブルの練習
6	バスケットボール（5）	ゲーム形式の総合練習
7	バレーボール（1）	バレーボールの特性とルールの理解、個人技能（パス、サービス）の練習
8	バレーボール（2）	個人技能の修得、連携プレイへの発展（1）
9	バレーボール（3）	個人技能の修得、連携プレイへの発展（2）
10	バレーボール（4）	個人技能の修得、連携プレイへの発展（3）
11	バレーボール（5）	ゲーム形式の総合練習
12	バドミントン（1）	バドミントンの特性とルールの理解、基本的な技能練習
13	バドミントン（2）	基本的技能の修得とゲームへの発展（1）
14	バドミントン（3）	基本的技能の修得とゲームへの発展（2）
15	バドミントン（4）	ゲーム形式の総合練習

科目名	陸上競技Ⅱ		科目ナンバリング	H1CX21048	
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 			

《授業の概要》

陸上競技は走・跳・投の運動で、より速くより遠くより高くといった自己の記録を高めたり、定められた条件やルールの中で他人と競争するところに楽しさや喜びを味わえる競技である。この授業では、陸上競技に必要な基礎体力の向上と技術を高めるための指導法について学び実践する。

《テキスト》

特に指定はしません。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

この授業では、走・跳・投の特性を理解し、技術の修得および設定記録に到達できることを目標とする。

《授業時間外学習》

到達目標に達するために個人でトレーニングを行うこと。

《成績評価の方法》

授業の内容等をまとめたノートおよびレポートの提出（50%）

基本的な体力、技術、設定タイムの到達度（50%）
ノートおよびレポートにコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する。
2	短距離走とハードル	200mや400m、400mハードルの特性理解
3	短距離走とハードル	練習方法と指導法、タイムトライアル
4	リレーとハードル	マイルリレーやスウェーデンリレー等の特性理解
5	リレーとハードル	練習方法と指導法、タイムトライアル
6	中距離走	800mや1500mの特性理解
7	中距離走	練習方法と指導法
8	中距離走	タイムトライアル
9	長距離走	5000mや10000m、マラソンの特性理解
10	長距離走	練習方法と指導法
11	長距離走	タイムトライアル
12	砲丸投げ	砲丸投げの特性理解
13	砲丸投げ	練習方法と指導法、測定
14	ジャベリックスロー	ジャベリックスローの特性理解
15	ジャベリックスロー	練習方法と指導法、測定

科目名	球技Ⅱ	科目ナンバリング	H1CX21049
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

球技における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《テキスト》

「中学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省

《参考図書》

必要に応じて紹介する

《授業の到達目標》

球技における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。
 毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50％）。随時課題に対するレポート（20％）。各種目技能の習熟度を確認する実技テスト（30％）。
 提出されたノートやレポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。スポーツ活動に相応しい服装で参加すること（スパイクの使用は禁止とします）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	ソフトボール（1）	ソフトボールの特性とルールの理解
3	ソフトボール（2）	個人技能の修得、連携プレイへの発展
4	ソフトボール（3）	ゲーム形式の総合練習（課題の話し合い）
5	ソフトボール（4）	まとめのゲーム
6	サッカー（1）	サッカーの特性とルールの理解、基本的な技能練習
7	サッカー（2）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（ボール遊び）
8	サッカー（3）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（ボールコントロール1）
9	サッカー（4）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（ボールコントロール2）
10	サッカー（5）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（ボールコントロール3）
11	サッカー（6）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（ボールコントロール4）
12	サッカー（7）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（スペースの活用1）
13	サッカー（8）	基本的技能の修得と連携プレイへの発展（スペースの活用2）
14	サッカー（9）	ゲーム形式の総合練習（課題の話し合い）
15	サッカー（10）	まとめのゲーム

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	武道 I	科目ナンバリング	H1CX21050
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 		

《授業の概要》

学習指導要領解説 保健体育編 を理解すること。特に教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導的、確かな行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する

《授業の到達目標》

武道を通して技能や伝統的な行動の仕方を理解し、課題に応じた取り組み方を段階的に修得することができるようにする。

《授業時間外学習》

毎授業で実践したことを復習し、反復練習をして身につける。ノートにまとめておくことも今後の指導にとって重要である。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）20%
 実技テスト（達成度）80%
 実技テストは評価にコメントを付し個人に伝える。
 レポートはコメントを付して返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、身体運動文化の追求とスポーツを通して自己を高めていこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 柔道 基本動作①	すり足、歩み足、継ぎ足 ～体の移動
2	基本動作②	受け身、前回り受け身、横受け身、後ろ受け身
3	基本動作③	反復練習
4	基本となる技①	投げ技（膝車→支え釣り込み足、大外刈り→小内刈り、体落とし→大腰）
5	基本となる技②	固め技（けさ固め、横四方固め、上四方固め）
6	基本となる技③	反復練習、投げ技、固め技
7	まとめ	練習試合
8	オリエンテーション 剣道 基本動作①	竹刀の持ち方、構え方、体さばき
9	基本動作②	①の反復練習、基本打突の仕方、受け方
10	基本となる技①	①しかけ技 二段の技（面一胴、小手一面、二段の技）引き技（引き面、引き胴） ②応じ技（抜き技）
11	基本となる技②	両抜き胴、小手抜き面
12	基本となる技③	かかり練習、約束練習
13	基本となる技④	しかけ技、応じ技、自由練習、試合
14	自由練習・試合	技を確かめる 総合的な技の出し合い
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護概説 I	科目ナンバリング	H2XC21003
担当者氏名	加藤 和代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

これまで児童生徒側から捉えてきた養護教諭像、保健室のイメージを、学校教育の視点から、教師性、専門性を再構築することを目指す。また学校の教育課題や児童生徒の健康課題に関心を持ち、対策を検討することで養護教諭としての児童生徒観を育てる。

《テキスト》

『新養護概説』 采女智津江編集 少年新聞社

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ① 「養護教諭の職務」「保健室の機能」の概観を説明することができる。
- ② 児童生徒の健康課題に関心を持ち、現状や対策を擁護活動の視点から考えることができる。
- ③ 養護教諭が学校教育として担う「養護」について考えをまとめることができる。

《授業時間外学習》

テキストを通読すること。
授業の始めに小テストを実施するので前回のポイントを整理しておくこと。

《成績評価の方法》

レポート発表（20%）小テスト（20%）定期テスト（60%）
レポートは評価コメントを加えて返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の進め方
2	養護教諭の職制の歴史的背景	学校看護婦として始まった歴史を踏まえ、時代とともに教育職員として養護教諭の果たす役割が拡大され、職制が改善されてきたことを理解する。
3	学校教育と養護教諭	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法などの教育関係法令、中央教育審議会・保健体育審議会等の答申などから学校教育で求められる養護教諭の資質、能力を考える。
4	養護教諭の専門性とその職務内容（1）	教育職員としての職務内容、養護教諭の専門領域における職務内容から、養護教諭の担う養護とは何かを考える。（1）
5	養護教諭の専門性とその職務内容（2）	教育職員としての職務内容、養護教諭の専門領域における職務内容から、養護教諭の担う養護とは何かを考える。（2）
6	保健教育、保健管理に関わる学校組織	学校保健関係職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の役割分担とその職務内容から学校保健計画、学校保健組織活動を概観する。
7	子どもの発育発達の現状と健康課題（1）	児童生徒の発育発達の現状、健康課題の推移を理解する。
8	子どもの発育発達の現状と健康課題（2）	現代的健康課題に対して養護教諭が行なう保健指導や支援を考える。
9	保健室の機能と保健室経営（1）	保健室の機能と教育上の役割を踏まえ、保健室経営について理解する。
10	保健室の機能と保健室経営（2）	学校種・学校規模による保健室経営の違いを考える。
11	心のケアと養護教諭	災害時の心のケアを含めて、養護活動として児童生徒への対応、保護者への対応、地域の関係機関との連携を考える。
12	特別支援教育と養護教諭	特別支援教育のシステム、障害の理解とその支援、保護者や関係機関との連携から、保健室でのユニバーサルデザイン、合理的配慮を考える。
13	小学校の保健室経営の実際	小学校保健室を訪問し、養護教諭の実践から小学校の保健室経営、養護活動を考える。
14	中学校の保健室経営の実際	中学校保健室を訪問し、養護教諭の実践から中学校の保健室経営、養護活動を考える。
15	まとめ	養護教諭の専門性を活かした教育活動とは

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護概説Ⅱ		科目ナンバリング	H2XC21004	
担当者氏名	米野 吉則				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

養護概説Ⅰで学んだ内容をさらに発展させ、養護教諭の役割と活動に対する認識を深める。また養護教諭の専門性を形成する人間観と科学性を再認識し、実践の学問としての位置づけを明確にする。

《テキスト》

「新養護概説」 采女智津江 少年写真新聞社

《参考図書》

「新版・養護教諭執務のてびき」 植田誠治監修 石川県養護教諭研究会編 東山書房

《授業の到達目標》

- ・養護教諭の職務の目的や内容、法的位置づけを理解する。
- ・養護活動の理論や方法を理解し、求められる専門性や資質・能力について述べるができる。
- ・学校教育における養護教諭の存在理由を述べるができる。

《授業時間外学習》

2回目以降はシラバスにより授業時のテーマや内容を把握し、事前に必ず予習しておくこと。また、授業内容についての質問を準備しておくことと良い。復習についても最低限、毎授業内容を見返しておくことを求める。

《成績評価の方法》

- ・定期試験40%、グループ課題20%、個別課題30%
- ※グループ及び個別課題はコメントを記入し返却します。

《備考》

免許選択科目である。養護教諭免許の取得を目指す学生は意欲的・積極的に受講すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業概要の説明および養護概説Ⅰにおける学びの確認を行う。
2	保健管理	保健管理領域における救急処置、健康診断、健康観察、疾病予防、学校環境衛生のそれぞれの概要と目的について理解する。
3	救急処置	学校における救急処置の特性、必要となる能力と技術について理解する。
4	健康診断	健康診断の種類と項目、それぞれの留意点や実施の流れについて理解する。
5	健康観察	健康観察の重要性と評価方法について理解する。
6	疾病予防	子ども個別の健康課題への対応や学校感染症の予防と管理について理解する。
7	学校環境衛生	学校環境衛生の目的、法的根拠、基準について理解する。
8	保健教育（1）	保健学習、保健指導の目的、内容、法的な位置づけについて理解する。
9	保健教育（2）	全校朝礼を想定した保健指導の指導計画や内容を発表する。
10	健康相談	学校における健康相談の概要とその中での養護教諭の役割について理解する。
11	保健組織活動	学校における保健組織や組織活動の必要性について理解する。
12	学校における危機管理と養護教諭	学校という場における日常の安全管理と災害時の危機管理について基本的な考えと養護教諭の役割について理解する。
13	養護教諭のジェンダー	男性養護教諭の課題からみる養護教諭の課題について討議する。
14	養護教諭に必要な資質能力	養護教諭に求められている資質と能力、果たすべき役割について討議する。
15	課題の発表、及びまとめ	これまでの学習で得られた知見を再確認し、養護教諭に関わるテーマで個人発表を行う。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健 I（小児保健・学校安全を含む）		科目ナンバリング	H2BB11007
担当者氏名	未定			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

「学校保健」は、こども達の健康の保持増進や安全を確保するとともに、将来にわたっての健全な心身の健康を保持増進させるための能力を形成することを目的とする。近年、児童生徒を取り巻く様々な健康問題が多発し、健康な心身を脅かす等、大きな社会問題ともなっている。学校においては、その指導の中心となる保健体育科教諭・養護教諭の果たす役割は重要であり、学校保健の基礎知識・技能を習得する必要がある。

《テキスト》

「改訂 学校保健」 東山書房

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①学校保健の意義や概要について理解できる。
- ②学校保健・学校安全を支える「学校保健安全法」の概要が理解できる。
- ③学校保健に関する問題に興味・関心を持ち、自ら、情報を収集し、まとめることができる。

《授業時間外学習》

予習：あらかじめ、テキストに目を通す。

《成績評価の方法》

- ①定期試験 70%
(中間試験を含む。試験は、テキスト等の持ち込みは不可)
 - ②各授業後の理解度テスト 30%
- *わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

授業内容は、保健体育科教諭及び養護教諭を目指す人のための内容です。また、教員採用試験に向けての情報や学校現場での事象等を紹介する等、教員を目指す人のサポートをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション「学校保健」の概要と重要性	・授業概要、成績評価等の説明について ・学校保健の目的と内容について
2	学校保健の歴史 ヘルスポモーション	・学校保健の歴史的変遷について ・新しい健康観について
3	これからの学校保健	・学校保健関係者の職務と責任について ・学校保健の組織活動について
4	学校経営と学校保健	・学校経営と学校保健の関係について
5	学校保健経営と人権	・児童生徒を取り巻く人権環境について
6	「学校保健計画」と「学校安全計画」	・「学校保健計画」と「学校安全計画」の意義と内容について
7	こどもの発育と学校保健	・現代のこどもの心身と体力等の発育発達状況について
8	学校保健活動	・健康観察 健康診断 健康相談と健康相談活動について
9	課題を有する子どもへの支援	・こどもに発症しやすい疾病とその対策について
10	感染症予防	・近年の感染症について その予防について
11	学校安全と学校の危機管理①	・学校事故災害の発生要因と実態及びその防止について
12	学校安全と学校の危機管理②	・安全教育及び安全管理について
13	学校環境衛生	・学校を取り巻く環境について
14	食育と学校給食	・望ましい食習慣の形成と定着について
15	まとめ	・「ヘルスポモーションの視点と教職員の役割の明確化」について

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	基礎看護学		科目ナンバリング	H2XB21014	
担当者氏名	大平 曜子、細井 八千代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

看護の理念を確認しつつ、看護の対象、歴史、機能と役割、看護過程等について学びます。受講者は、基礎看護技術に触れながら、看護実践の基本を習得します。幅広い人間理解と科学的思考、健康生活の理解など、確固たる人間観や基礎的学習能力を養い、看護学への理解を深めます。看護の「人間と健康に対するまなざし」「相手の立場」の理解などを通して、看護の心を考えていきます。

《授業の到達目標》

- 看護の概念を理解し、説明できる。
- 健康レベルからみた看護について説明ができる。
- 基礎技術を理解し、説明できる。
- 看護行為の基本を理解・実践し、評価することができる。
- 看護過程を理解し、科学的・論理的に展開することができる。

《成績評価の方法》

最終試験（60%）、演習の課題（40%）
演習評価の内容に関する質問には随時応じる。レポートにはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について
2	看護の概念	看護とは、健康とは 看護の概念を明らかにするとともに養護教諭の専門性との関係性を理解する。
3	看護の対象	看護の対象（疾病の成り立ちと回復） 看護の対象を理解し、看護活動について考える。
4	看護の歴史	看護の概念とその歴史
5	看護の機能と養護教諭	学校で必要とする看護能力、養護教諭の専門性と看護
6	看護の基本となるもの	各種の看護理論から看護の基本となるものを理解する。
7	看護の基礎技術 1. 環境整備	ベッドの整備、ベッドの条件
8	看護技術の基礎 2. 姿勢と体位	姿勢の保持、基本的な体位
9	看護技術の基礎 3. バイタル測定	バイタルサインの意味、測定方法
10	看護技術の基礎 4. バイタル測定その2	バイタルサインの測定
11	看護技術の基礎 5. コミュニケーション	コミュニケーションの概念、構成要素、方法
12	看護技術の基礎 6. 観察	観察の目的、視点
13	看護過程 1	看護理論と看護過程、構成要素、情報、アセスメント、判断、計画立案、実施と評価
14	看護過程 2	看護活動、記録
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

『養護教諭のための看護学』（三訂版）藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江 編（大修館書店）

《参考図書》

- ①『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
 - ②『基礎看護技術 I』（医学書院）
- その他適宜紹介する

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。復習をしっかりおこない、正確な知識の習得に努める。医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

養護教諭免許取得希望者の必須科目であり、演習科目として出席（参加状況）を重視する。主体的取り組みを期待している。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	HTAL41001
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の「教師の仕事」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉えるとともに、法的な位置づけや立場を理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《授業の到達目標》

- 教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解している。
- 教員養成と教員免許制度について理解している。
- 教員の任免と服務について理解している。
- 教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
- 教員に求められる資質能力と研修について理解している。
- 自分なりの教職観を持ち、自身の課題を省察することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
 - ②提出物（提出の回数と完成度等） 30%
 - ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- *提出物はコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教職とは何か、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、自分自身の教職観、教員像を獲得する。
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。
5	教員の職務①：教員の種類と職務、校務分掌	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力について理解する。
6	教員の職務②：学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。
7	教員の職務③：保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。
8	教員の職務④：アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。
9	教員の人事管理①：服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。
10	教員の人事管理②：任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。
11	教員の人事管理③：教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。
15	学習のまとめと振り返り	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

- ・東京都教職員研修センター（監修）『教職員ハンドブック 第3次改訂版』 都政新報社、2012
- ・石村卓也『教職論 これから求められる教員の資質能力』 昭和堂、2008年。
- ・『新任教師のしごと 中学校・高校版』 小学館、2007年。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容に関連したミニレポートを作成し提出する。配布された資料をあらかじめ読んでおく。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	HTAL41002
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。
 広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
 - ②課題の提出と完成度 30%
 - ③授業中のミニテスト 40%
- *提出物はコメントを付して返却する。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育
2	教育の概念と本質	・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界
3	子どもの発達と教育	・発達とは何か ・発達における教育の役割
4	教育の目的、形態と機能	・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割
5	主な西洋教育思想とその系譜①	・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容
6	主な西洋教育思想とその系譜②	・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響
7	公教育制度の成立と発展①	・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生
8	公教育制度の成立と発展②	・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展
9	教育の内容と方法	・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法
10	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで）
11	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後）
12	教育における「ケア」	・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」
13	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応
14	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン
15	まとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	HTAL42005
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
 - ②課題の提出と完成度 20%
 - ③定期試験 60%（持ち込み不可）
- ※提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

授業中に指示する。

《参考図書》

- 1) 『解説教育六法 2017年度版』三省堂。
- 2) 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子、山田 知代『図解・表解教育法規-“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2014年。
- 3) 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver.3』昭和堂、2015年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。e-ラーニングを受講すること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育行政の基本原則
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	学校運営①：開かれた学校	・開かれた学校の意義 ・地域との連携とコミュニティ・スクール制度
14	学校運営②：アカウンタビリティと学校評価	・学校アカウンタビリティとマネジメント・サイクル ・学校評価の意義と評価の形態
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）		科目ナンバリング	HTAL41011
担当者氏名	原 志津			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	履修カルテ参照			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐめる問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
 授業内容の理解 50%

- ・レポートはコメントを付けて返却する
- ・最終回の「まとめ」は、全体的な講評を伝える

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話しをきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験し、自分自身のテーマを知る
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	いじめの被害者・加害者への理解と対応	いじめは、学校で学ぶ権利を奪うだけでなく命を奪うことさえある。学校と教育の場がいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える
9	特別支援教育を必要とする子どもたち	本人が努力しているにも関わらず、発達に凸凹があり、できることとできないことの差が大きく日常生活に困難を抱えている子どもたちを理解し、支援する方法を学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返り、今後活かすべきことは何かを考える

《テキスト》

教育相談ワークブック 子どもを育む人になるために 桜井・斎藤・森平 北樹出版

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとり読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日までに提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

平成28（2016）年度入学者

専門教育科目

科目名	健康科学		科目ナンバリング	HOAA12004	
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）				

《授業の概要》

健康な状態を維持するために、普段からの健康的な生活が重要である。日常生活が健康に及ぼす影響や各年代において健康を保持増進させるのに重要な因子を理解し将来に役立てることを目的とする。運動、食生活、睡眠、休養などの日常生活と健康との関連や各年代における健康に影響を及ぼす生理的な現象等を科学的な理解を深める講義を行う。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 運動、栄養などの生活習慣が健康に及ぼす影響を理解する。
- 2 各年代において健康を維持する因子を理解する。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること。
- 3 日頃から、健康状態について関心を持つよう心掛けること。

《成績評価の方法》

- 1 定期試験 85%、小テスト15%の割合で評価する。
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる。

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう気をつけること。第1-8週、15週は衛生管理者（第一種）免許に必要なテーマである。

小テスト終了後、解説を行い、閲覧可能とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本人の健康状態	日本人の死亡統計および疾患別患者数統計から、日本人の主な死亡原因は何か、どんな疾患の患者数が多いかが理解できる。
2	日本人の生活習慣	国民健康栄養調査結果から、日本人の生活習慣（運動、食事、休養、喫煙、飲酒等）の現状が理解できる。
3	運動と健康	運動とがん、糖尿病、循環器疾患との関連及び「健康づくりのための運動指針2006」について説明できる。
4	食事と健康	三大栄養素の単位重量当たりのエネルギー、エネルギー代謝（特に基礎代謝）、食事摂取基準量について説明できる。
5	睡眠・休養と健康	睡眠時間と健康の関連、レム睡眠とノンレム睡眠、睡眠障害の分類、不眠症の分類及び原因について説明できる。
6	喫煙と健康	喫煙による健康被害（能動喫煙および受動喫煙それぞれ）やタバコに含まれる有害物質について説明できる。
7	飲酒と健康	飲酒が及ぼす健康への効用及び悪影響について説明できる。さらに、適度な飲酒量や胎児性アルコール症候群を理解する。
8	ストレス	ストレス学説、ストレスの発生メカニズム（自律神経を中心とした）、ストレスの評価法について説明できる。
9	咀嚼と健康	咀嚼が脳の認知機能や肥満に及ぼす影響やその生理学的なメカニズムについて説明できる。
10	乳幼児期の健康	乳幼児期の腸内細菌叢の変化、出生直後の免疫、脳の発達、乳幼児期の睡眠、発育と発達の相違について説明できる。
11	少年期の健康	少年期の発育・発達の特徴（特に脳の発達）、遊びの必要性、ゴールデンエイジについて説明できる。
12	妊婦の健康	妊婦における運動の必要性、妊婦に適した運動、妊婦の喫煙や飲酒による胎児への影響について説明できる。
13	青・壮年期の健康	青年期の健康問題として無理なダイエットや朝食欠食による体への悪影響、壮年期の健康問題として内臓肥満・メタボリックシンドロームについて説明できる。
14	老年期の健康	老化の定義、老化現象、老化による筋肉の減少の仕方及び筋トレ、痴呆および痴呆予防について説明できる。
15	労働と健康	職業病の種類やその原因、職業病と作業関連疾患の相違、これらの疾患に対する対策を理解する。

科目名	健康統計の基礎		科目ナンバリング	HOAA12005	
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

コンピュータを利用して、健康科学を学ぶ上で必要となる、統計手法の基礎を身につけることを目指す。具体的には、調査・実験から得られた資料（データ）を整理し、資料の特徴をあらわす数値を求めたり、確率を利用して資料のもととなる集団の特徴や傾向を推測する手法について学ぶ。また、実際の統計処理で使用される、表計算ソフトを利用した演習を通して、理論だけでなく実際の処理のながれを理解する。

《授業の到達目標》

- 基礎統計量を計算して、データの特徴を説明できる。
- 基本的な統計手法を用いて、データを解析し説明できる。
- 表計算ソフトを使用して、資料の整理や基本的な統計解析ができる。

《成績評価の方法》

課題やレポートなどの提出物（40%）、小テスト（10%）、定期試験（50%）で評価する。
 なお、提出物や小テストにはコメントを付して返却するとともに、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

石村貞夫・劉晨・石村友二郎(2013)『Excelでやさしく学ぶ統計解析2013』東京図書。

《参考図書》

- 石村貞夫(2006)『入門はじめての統計解析』東京書籍。
- 菅民郎(2013)『Excelで学ぶ統計解析入門 -Excel2013/2010対応版』オーム社。
- 涌井良幸・涌井貞美(2010)『統計解析がわかる（ファーストブック）』技術評論社。

《授業時間外学習》

- 予習では、事前に教科書の授業範囲を読んでおくこと。また、基礎統計量や統計処理については、表計算ソフトを使う手順を確認しておくこと。
- 復習では、定期試験に向けて、公式や統計手法を扱えるように練習しておくこと。また、表計算ソフトを使用する際に、関数を使わずに公式による計算ができるようにしておくこと。

《備考》

主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。とくに表計算ソフトが苦手な学生は、自主的に練習しておいてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	統計の必要性、記述統計と推測統計
2	表計算ソフトの利用(1)	データの入力と修正、表の作成と編集
3	表計算ソフトの利用(2)	データの検索、並び替え、関数の利用
4	1変数のグラフ表現	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、レーダーチャート
5	1変数の統計量	代表値（平均値、最大値、最小値など）、散布度（分散、標準偏差など）
6	2変数のグラフ表現と統計量	散布図の作成、相関係数
7	回帰直線による予測	回帰直線
8	時系列データの推移	移動平均
9	度数分布表とヒストグラム	度数分布表の作成、ヒストグラムの作成
10	確率分布とその数表	標準正規分布、カイ2乗分布、t分布、F分布
11	区間推定	母平均の区間推定、母比率の区間推定
12	仮説検定の基礎(1)	2つの母平均の差の検定
13	仮説検定の基礎(2)	対応のある母平均の差の検定
14	クロス集計と仮説検定	クロス集計表、独立性の検定
15	まとめ	全体の学習のふり返り

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	微生物学	科目ナンバリング	HOXA22008
担当者氏名	土井 裕司		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）		

《授業の概要》

生命科学の知見は、大部分が微生物の研究から得られたものである。そこで、微生物にはどのようなものがあるか、微生物はどのような働きをしているかを理解することから授業を展開していく。私たちの体には恒常性を維持し、疾病を制御する巧妙な能力が備わっている。他方、微生物の中には人の健康を損なうものがある。本科目では、微生物学の基礎と生体が病原体と戦う仕組みについて理解を深める。

《授業の到達目標》

① 微生物の種類や分類を説明できる。 ② 主要な病原微生物による感染症の病態と特徴を理解・説明できる。 ③ 主な感染症の予防対策を提言できる。 ④ 病原体と戦う免疫現象を理解・説明できる。

《成績評価の方法》

① 定期試験 70%
 ② レポート提出 20%
 ③ 授業への積極的な取り組み 10%
 わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

林 修 編著「新版 微生物と免疫」建帛社

《参考図書》

田爪 正氣 他4名著「新・感染と微生物の教科書」研成社、
 西條政幸著「新訂版 微生物学」サイオ出版、今西二郎著
 「免疫学の入門」金芳堂

《授業時間外学習》

① 予習： あらかじめテキストに目を通し、どのような授業が展開されるかを予想してみる。
 ② 復習： 授業内容を再確認するため、参考図書等を参考に自分で調べ、整理してまとめる。

《備考》

自分の健康管理に関する知識を身につけるよう心がける。話題になっている微生物感染症に関心をもつよう心がける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	微生物とは	微生物へのいざない。「微生物」とは、どのようなものであるかを理解する。
2	微生物学の概要と歴史	顕微鏡の発明と微生物の発見といった微生物に関連する事柄を知り、微生物自然発生説が否定されていることを理解する。腐敗と発酵の違いを理解する。
3	微生物の特徴と分類	生物界の分類と生物界における微生物の位置、ならびに微生物の分類を理解する。
4	細菌学総論	細菌の概要、細菌の代謝と分類、細菌の分類、細菌の培養等、細菌に関する基礎事項を理解する。
5	ウイルス類総論	ウイルスの形態と構造、主なウイルスの分類、ウイルスの増殖と培養等、ウイルスに関する基礎事項を理解する。
6	真菌学総論	真菌の形態、真菌の生活環と分類、真菌による主な疾患と原因真菌等、真菌に関する基礎事項を理解する。
7	原虫学総論	原虫の形態と分類、原虫の増殖、主な病原原虫と生活環等、原虫に関する基礎事項を理解する。
8	生活に身近な微生物	腸内フローラ、プロバイオティクスとプレバイオティクス、微生物を利用した食品、カビの害など、生活の中で微生物が関与している事項を理解する。
9	中間でのまとめとレポート作成	第1回から第8回までのまとめ、重要ポイントについて理解を深める。学習事項の理解を助けるため、与えられた課題に対するレポートを作成する。
10	感染 一発症と予防一	感染と発症、感染症法、感染における宿主と微生物の相互関係、感染源と感染経路等、感染に関する事項を理解する。
11	免疫学総論	免疫とは、免疫を担当する器官と細胞、免疫応答等、免疫に関する基礎事項を理解する。
12	アレルギーと自己免疫疾患	過敏症反応の分類と機序、主な自己免疫疾患等、アレルギーに関する基礎事項を理解する。
13	栄養と免疫	栄養摂取と免疫、食品の生体調節機能等、食生活と健康の維持に関する事項を理解する。
14	感染と生体防御	感染初期に機能する自己免疫、感染防御効果の発現等について理解する。
15	まとめ	授業全般での重要なポイントについての理解を深める。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	生化学	科目ナンバリング	HOXA22009
担当者氏名	長尾 憲樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）		

《授業の概要》

生命とは、物質代謝によって自己の構造を維持し、積極的に行動しているものと定義されている。生化学は、端的にいえば生命の営みを化学的に理解する学問である。生化学の基礎知識が人間の運動と健康を考える上で必要不可欠である。

《テキスト》

配布資料を使用する。

《参考図書》

必要が生じた際に紹介する。

《授業の到達目標》

生化学の基礎知識を習得し、できうる限りの実体感を得る。

《授業時間外学習》

これまで学習してきた理科に関する復習を行う。

《成績評価の方法》

定期試験70%

レポート30%

毎回提出する出席兼用のペーパーに、質問に対する解答を記述します。その理解度を考えて、次の講義に必ず反映させます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生命とは？	生命の起源についての学説を概観する。
2	生化学の始まり	発酵現象の歴史的意義
3	解糖系 I	微生物・植物について
4	解糖系 II	動物・人間について
5	生体のエネルギー	ATPの発見
6	脂質	脂質の種類と構成要素
7	TCAサイクル	ミトコンドリア内の化学反応
8	電子伝達系	ATPのカウントについて
9	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸の種類とタンパク質の多様性
10	乳酸	乳酸の考え方
11	細胞	40兆の細胞とネットワーク
12	遺伝情報	ゲノム解析から
13	エピジェネティクス	環境要因と遺伝
14	運動と生化学	どのような点に興味を持ちますか。
15	まとめ	これまでの学習を振り返ってまとめる。

科目名	公衆衛生学		科目ナンバリング	HOAC22014	
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

公衆衛生学は、人々が生活する環境において健康の障害となる要因を明らかにし、社会の組織的な活動により集団の疾病予防と健康の保持・増進を目指す学問である。衛生統計や疫学手法などを用い、宿主・病因・環境の相互関係から健康を理解し、集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶことが求められる。

《テキスト》

社会・環境と健康 公衆衛生学 柳川洋・箕輪眞澄 編著

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（厚生統計協会）
各单元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 主な統計指標、疫学的研究を理解する。
- 2 健康増進や各ライフステージでの保健対策を理解する。
- 3 生活習慣病の疫学および予防を理解する。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること。
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること。

《成績評価の方法》

- 1 定期試験 85%、小テスト15%の割合で評価する。
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる。

《備考》

本科目は教員免許必須科目であるため、授業の障害となったり、風紀を乱すことがなく、可能な限り出席できる学生が履修登録することが望ましい。

小テスト終了後、解説を行い、閲覧を可能とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の概念、公衆衛生の概念と歴史	健康や公衆衛生が持つ意味合い、そして公衆衛生学カバーする領域、公衆衛生学が発達してきた歴史的な経緯。
2	保健統計・人口統計	国勢調査、人口動態調査、患者調査、国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査等の保健統計について、調査実施方法、法的根拠、調査内容。
3	保健統計指標	出生率、合計特殊出生率、老年化率、老年化指数等の保健統計指標、罹患率と有病者率との相違、死亡率、年齢調整死亡率、平均寿命、平均余命等の保健統計指標。
4	疫学の概念・バイアス・交絡因子	疫学の概念、疫学における因果関係、バイアスと交絡因子、研究デザインにおける交絡因子のコントロール。
5	疫学の方法・疫学の指標	記述疫学、生態学的研究、コホート調査の手法、特徴、利点欠点を説明でき、相対危険度。
6	疾病の予防と健康づくり	疾病予防の段階（一次予防、二次予防、三次予防）、健康づくりの定義及び健康日本21、健康増進法。
7	地域保健	保健衛生行政及び地域保健法施行後の保健所と保健センターの業務の相違。
8	母子保健	母子保健の目的、水準、母子保健施策、子育て支援。
9	学校保健	学校教育と保健管理、健康診断、学校環境づくり、保健学習、学校給食。
10	産業保健	労働災害・事故、職業病、安全衛生対策、職場における健康診断と健康増進。
11	成人保健	老人保健法から高齢者の医療の確保に関する法律への変遷。
12	悪性新生物の疫学	がん死亡と罹患状況、主要な悪性腫瘍（胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がん等）の疫学、リスク要因、一次予防、二次予防。
13	循環器疾患の疫学	循環器疾患による死亡や罹患状況、主要な循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患）についてリスク要因や予防法。
14	糖尿病の疫学	代謝性疾患による死亡や罹患状況、主要な代謝性疾患（糖尿病、高脂血症、痛風）についてリスク要因や予防法。
15	保健・医療・福祉	医療制度の仕組み、医療法、医療圏、医療計画、医療提供施設、医療従事者、病院機能評価。

科目名	健康心理学	科目ナンバリング	HOAB22017
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）		

《授業の概要》

心理学としては異色の「身体的な健康」と「精神的な健康」とを根元的な結びつきの中で捉えようとしていることと、障害や疾病状態ではなく健康を中心課題としているところに特徴があります。心理的要因の心身の健康への影響を理解し、自他の健康アプローチに関心を払い、運動指導や生活習慣の改善・行動変容に生かす態度・能力の育成を目指します。授業では、健康への認知行動的アプローチに基づく実際を学びます。

《授業の到達目標》

- 健康心理学の領域を理解し、説明できる。
- 健康心理学の基礎となる心理学の概念を理解し、代表的な理論について説明ができる。
- 健康なパーソナリティについて、考えを述べるができる。
- 健康習慣や健康行動について理解しまた、その指導ができる。

《成績評価の方法》

レポート課題に対する取り組みの成果 20%、
 定期試験 60%、
 中間におこなう確認テスト 20%
 レポートは、コメントを付して返却する。中間テストについては、採点后、要点の解説をおこない知識の定着を図る。

《テキスト》

『新版 健康心理学』 野口京子著 金子書房

《参考図書》

『現代心理学シリーズ 健康心理学』島井哲志編 培風館他
 授業の中で適宜紹介

《授業時間外学習》

健康生活を実践し、健康習慣に関して、自分の意見をまとめておく。テキストを通読し、健康心理学の領域を理解する。課題のレポート作成には、必ず文献を探す。

《備考》

健康運動指導士や健康運動実践指導者の資格を目指す人はいうまでもなく、意欲的な参加と主体的な学習態度を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	健康心理学の歴史と他学問領域との関係
2	健康心理学の基礎理論(1)	精神分析、学習理論、行動理論
3	健康心理学の基礎理論(2)	発達理論、認知理論、人間主義理論
4	健康行動の理解	健康行動とは 予防と治療とリハビリ
5	パーソナリティと健康行動(1)	健康なパーソナリティ
6	パーソナリティと健康行動(2)	疾病とパーソナリティ
7	生活習慣と健康	健康な生活習慣 生活習慣病の予防と健康行動
8	健康への認知行動的アプローチ(1)	認知の行動の関わり、認知行動療法
9	健康への認知行動的アプローチ(2)	社会的要因と個人的要因 健康関連行動について
10	ヘルスケアシステム	健康心理アセスメント
11	健康におけるソーシャルサポートの働き	ソーシャルサポートの測定
12	健康心理カウンセリング	基礎理論 理性感情行動療法、交流分析、自律訓練法
13	健康教育活動	禁煙、薬物防止、食行動の変容などについて
14	行動変容や習慣改善への試み	集団力学・グループダイナミクス、個人指導
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

科目名	教育特論 I	科目ナンバリング	H0CC12019
担当者氏名	河野 稔		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 		

《授業の概要》

キャリア（生涯にわたっての仕事や社会とのかかわり方）への明確な課題意識を持ち、進路の実現に向けて主体的に能力を開発することは、社会的・職業的に自立する上で重要である。そこで、アクティブ・ラーニングを中心とする活動を通じて、自己のキャリア実現への目標を明確にし、目標達成のための課題に取り組む力を養うことを目指す。授業はオムニバス形式（専任教員が入れ替わりで担当）である。

《授業の到達目標》

- 自分の特性や働き方に対する考え方を理解し、社会の中で自分が果たす役割について説明できる。
- 自分の進路に対する具体的な目標を設定し、その実現に向けての個人的課題を説明できる。
- 自分の進路実現における課題を克服するための計画を具体的に立案できる。

《成績評価の方法》

ワークシートやレポート等の提出物（40%）、グループワークでの成果発表（40%）、グループワークでの相互評価と貢献度（20%）で評価する。
 なお、提出物にはコメントを付して返却し、成果発表には担当教員から講評を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、スケジュールの説明などを説明する。
2	キャリアとは(1)	ライフデザインの観点からキャリアとは何かについて考える。また、職業レディネス・テストの体験とその結果から、職業適性における職務分析について考える。
3	キャリアとは(2)	キャリア実現に向けたステップとスケジュールを確認する。また、職業レディネス・テストの体験とその結果から、職業適性における作業者個人の特性について考える。
4	キャリア形成の現状と課題(1)	健康に関わる分野で活躍する社会人による講演から、幅広い観点でキャリア形成を考える。
5	キャリア形成の現状と課題(2)	卒業生の体験談から、グループ活動として、キャリア形成と職業観について考える。
6	キャリア形成の現状と課題(3)	グループでまとめたキャリア形成と職業観を発表し、相互評価する。
7	学科での学びと社会との関わり(1)	グループ活動として、健康に関わる進路を提案する。
8	学科での学びと社会との関わり(2)	グループ活動として、自分たちの気質や将来への考え、大学で学んだことをふり返り、それらに関わる新たな進路を提案する。
9	学科での学びと社会との関わり(3)	グループ活動として、提案する新たな進路をより具体的に発表準備をする。
10	学科での学びと社会との関わり(4)	グループで提案する新たな進路をより発表し、相互評価をする。
11	健康システム学科生のキャリアデザイン(1)	自分のこれまでの学習成果や社会経験をふり返り、将来のキャリア実現のための計画を立てる。
12	健康システム学科生のキャリアデザイン(2)	キャリア実現のための計画を相互にアドバイスし合い、より具体的な計画に練り直す。
13	健康システム学科生のキャリアデザイン(3)	自分たち自身を客観視するために、グループ活動として、健康システム学科の学生のキャリアを設計する。
14	健康システム学科生のキャリアデザイン(4)	グループで設計した健康システム学科の学生のキャリアを発表し、相互評価をする。
15	将来の進路の実現に向けて／まとめ	授業全体についてふり返り、将来のキャリア実現に向けた課題を考える。

《テキスト》

オムニバス形式の授業であるため、適宜授業の中でプリントを配布する。

《参考図書》

オムニバス形式の授業であるため、参考となる文献や資料は、適宜授業の中で紹介する。

《授業時間外学習》

あらかじめ、自分の進路に必要となる知識や能力を把握して、自主的に情報収集や習得を進めておくこと。
 授業後は、活動結果や配布資料等をもとに学習した成果をふり返っておくこと。また、グループ活動において、授業時間外に情報交換や議論するように努めて、授業時間中に成果発表ができるようにしておくこと。

《備考》

オムニバス形式の授業であるため、授業計画は目安です。担当教員の都合により進捗が異なることがあります。また、アクティブラーニング・ゾーンにて授業を実施する場合もあります。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動生理学		科目ナンバリング	H1BC22003	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

身体運動が人体機能にどのような応答をもたらすのか、また継続して身体活動を行った場合にはどのような適応を示すのかなど、その生理学的な機序を学習していく。講義で学習する主な点は、(1) 運動と健康との関係について (2) 人が運動する場合の生理・生化学的機構について (3) 運動による人体機能の応答・適応についてであり、これらの内容についてそれぞれ詳細に講述していく。

《授業の到達目標》

この講義は、運動やスポーツなどの身体活動にともなう人体の生理機能の変化やその機序についての知識を身につけることができるとともに、運動することにおいて大切な基礎的知識について説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験の結果（80%）と毎講義ごとに行う確認テスト（10%）、事前学習課題（10%）によって評価する。100点満点で60点以上を合格とする。授業内で実施する確認テストは、時間内に解答解説する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康と運動	健康と体力、運動の効果について
2	運動適応のメカニズム (1)	運動時のエネルギー発生仕組みについて理解する（動作による人体の機能の変化を含む）
3	運動適応のメカニズム (2)	有酸素能力と無酸素性作業閾値について理解する
4	運動適応のメカニズム (3)	運動と呼吸について理解する
5	運動適応のメカニズム (4)	運動と循環について理解する
6	運動適応のメカニズム (5)	運動と筋・骨格系①について理解する
7	運動適応のメカニズム (6)	運動と筋・骨格系②について理解する
8	運動適応のメカニズム (7)	運動と神経系①について理解する
9	運動適応のメカニズム (8)	運動と神経系②について理解する
10	運動適応のメカニズム (9)	運動と自律神経・内分泌系について理解する
11	運動適応のメカニズム (10)	運動と体温調節について理解する
12	運動適応のメカニズム (11)	運動と環境（内部・外部）の関係について理解する（環境条件と人体の機能を含む）
13	運動適応のメカニズム (12)	発育発達期における運動の役割について理解する
14	運動適応のメカニズム (13)	運動強度・量の表し方について理解する
15	健康のための運動処方	様々な環境下での有酸素性運動の在り方について説明できる（疲労及びその予防を含む）

《テキスト》

「現代栄養科学シリーズ18 運動生理学」池上晴夫著（朝倉書店）2003年

《参考図書》

「新運動生理学（上巻）」宮村実晴編（真興交易（株）医書出版部）2001年、「新運動生理学（下巻）」宮村実晴編（真興交易（株）医書出版部）2001年、「身体活動と不活動の健康影響」郡司篤晃、川久保清、鈴木洋児編（第一出版）1998年、「運動生理学」Astrand, PO and Rodahl, K.（大修館書店）1990年

《授業時間外学習》

テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。毎講義ごとに前回講義の復習を兼ねて確認テストを実施しますので、各自で復習学習しておくこと。また、事前の課題を学習しておくこと。

《備考》

第2、12、15週は第1種衛生管理者免許に関する内容を含む。

科目名	運動生理学演習		科目ナンバリング	H1CX22004
担当者氏名	木下 幸文			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 			

《授業の概要》

身体運動時の生理反応の基礎と本質を演習を通じて学習していくとともに、運動中の生理現象を詳細に記録や観察し、測定時に得られたデータを解析することによって身体の生理学的な適応反応の意義を理解できるようにする。主なテーマとして、(1)呼吸循環機能に及ぼす身体活動の影響(2)筋力や筋持久力に及ぼす身体活動の影響(3)運動負荷試験の実際と解釈について、評価していく。

《授業の到達目標》

運動生理学演習では、2年次 I 期開講の運動生理学の講義で学んだ知識について実習を通して再確認していくとともに、運動生理学の分野において用いられる基礎的な測定方法を習得することができる。また演習を通じて、身体活動時にみられる人体機能の複雑で巧妙な適応機能について説明できる。

《成績評価の方法》

演習中のレポート課題（80%）と演習の参加意欲（作業シート（20%））により評価する。なお、提出期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。レポート課題については、コメントをつけて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方について
2	体組成の評価	様々な機器や方法を用いての体組成計測法について学び、あらゆる場面において体組成測定が出来るようになる
3	心肺運動負荷試験(1)	有酸素性作業能力の測定方法と心肺運動負荷試験による間接法と直説法について理解する
4	心肺運動負荷試験(2)	直接法による酸素摂取量の測定が出来るようになる
5	心肺運動負荷試験(3)	直接法による酸素摂取量の測定が出来るようになる
6	運動中の呼吸循環機能の評価(1)	換気亢進のメカニズム（運動強度の違いによる換気量の変化を評価する）
7	運動中の呼吸循環機能の評価(2)	換気亢進のメカニズム（運動強度の違いによる換気量の変化を評価する）
8	運動中の呼吸循環機能の評価(3)	運動時の心拍数の変化について理解する（運動中の心拍変動を分析する）
9	運動中の呼吸循環機能の評価(4)	運動時の血圧調節について理解する（運動中の血圧変化を分析する）
10	運動中の呼吸循環機能の評価(5)	酸素負債と酸素借について理解する
11	運動中の体温調節機構について(1)	運動と熱放散反応（運動時の体表面温を分析）
12	運動中の体温調節機構について(2)	運動と熱放散反応（運動時の体表面温を分析）
13	運動中のエネルギー代謝について	飲料水摂取後の血中グルコース濃度を測定し、糖質の代謝とその機能について理解する
14	運動時の筋活動機能の評価(1)	筋電図の測定（1）
15	運動時の筋活動機能の評価(2)	筋電図の測定（2）

《テキスト》

本演習用の手引きを配付し、それに応じて演習を進めて行く。また、必要に応じて関連するプリントを配布する。

《参考図書》

「運動負荷心電図 第2版—その方法と読み方」川久保清著（医学書院）2009年、「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法」西園秀嗣著（大修館書店）2004年、「改訂最大酸素摂取量の科学」山地啓司著（杏林書院）2001年、「運動処方指針—運動負荷試験と運動プログラム—」アメリカスポーツ医学会編（南江堂）2001年

《授業時間外学習》

演習で得られた測定記録を整理しながら、レポート作成のための資料を収集しておくこと。また、参考図書などを参考に生理機能の仕組みについて理解しておくこと。

《備考》

身体活動を評価するための実験を行いますので、演習にふさわしい服装（靴も含む）で参加すること。演習活動を妨げるような服装の場合には本演習を受講する必要はない。

科目名	運動栄養学		科目ナンバリング	H1BX22005	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

われわれ人類の健康を維持したり増進させたりするためには、栄養・運動・休養の三要素が必要である。特に栄養は毎日の生活の基礎である食事や食生活のあり方につながるだけに重要であり、健康やスポーツに携わる者にとり基本的な栄養知識は必須である。そこで、栄養と運動や健康の関わりを中心に、栄養学の基礎と運動時のエネルギーや栄養素摂取のあり方と問題点について述べる。

《授業の到達目標》

栄養と運動は車の両輪のようなものである。生活習慣病の数々は、運動と栄養のバランスの乱れに起因している。また、スポーツを行うにあたり、パフォーマンスを高めるための土台となる栄養素の働きについて理解できるようになることが重要である。この運動栄養学の講義を通じて、栄養学の基本的な内容を説明できるようになり、運動や身体活動時のエネルギーや栄養素摂取のあり方についての基礎的な知識を説明できる。

《成績評価の方法》

成績評価は定期試験の結果（80%）、各單元ごとに行う確認テスト（10%）、レポート課題（10%）によって評価する。100点満点で60点以上を合格とする。レポート課題はコメントをつけて返却する。確認テストは時間内に解答解説を行う。

《テキスト》

「スポーツと健康の栄養学」（第3版）下村吉治著（NAP）2010年、また必要に応じて関連した資料も配付する。

《参考図書》

「健康づくりと競技力向上のためのスポーツ栄養マネジメント」鈴木志保子（日本医療企画）2011年、「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平、樋口満編（第一出版）2006年、「実践的スポーツ栄養学」鈴木正成著（文光堂）2006年、「身体運動・栄養・健康の生命科学Q&A 栄養と運動」伏木亨他著（杏林書院）2001年

《授業時間外学習》

テキストの指定箇所を事前に読んでおくとともに、1年時開講の「栄養学」で学んだ内容についてよく理解しておくこと。また、單元ごとに復習を兼ねて確認テストを実施する予定にしていますので、各自で学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の概念と栄養	栄養と運動や健康の関わりについて理解する
2	栄養学の基礎(1)	運動時の炭水化物・脂質・蛋白質の働きについて理解する
3	栄養学の基礎(2)	運動時のビタミン・無機質の働きについて理解する
4	栄養学の基礎(3)	エネルギー産出と筋運動時のエネルギー
5	栄養学の基礎(4)	生活活動とエネルギー消費
6	運動時の栄養補給(1)	運動時の糖質代謝（スタミナと炭水化物ローディング）について理解する
7	運動時の栄養補給(2)	運動時の脂質代謝について理解する
8	運動時の栄養補給(3)	運動時の蛋白質代謝について理解する
9	運動時の栄養補給(4)	運動時のビタミン・無機質の代謝、生体内での役割について理解する
10	運動と栄養素の消化・吸収	運動中の栄養素の消化・吸収について理解する
11	活性酸素と運動・栄養	抗酸化剤（サプリメント）の効果について理解する
12	トレーニング期と試合期の食事	筋肉づくりのための食事タンパク質の摂取方法について説明できる
13	栄養・食事アセスメント(1)	栄養状態の判定と評価
14	栄養・食事アセスメント(2)	運動期間中の食事アセスメントの方法と実際
15	日本人の食事摂取基準(栄養所要量)	栄養素摂取量の現状と運動時の活用法について説明できる

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	ジュニアスポーツ I		科目ナンバリング	H1BB12006	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） 				

《授業の概要》

日本体育協会ジュニアスポーツ指導員養成としての基本を学ぶ。運動指導にあたって、子どもの発育発達特徴を理解した上で、幼児期・児童期前半期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。

《テキスト》

「公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト（理論編）（実践編）（ノート）」計3冊組 ¥7,800+税。あわせて必要に応じて資料等も配布する。

《参考図書》

「マイネル スポーツ運動学」大修館書店、「疾走能力の発達」杏林書院、「スポーツ生理学」化学同人、「幼児の有酸素性能力の発達」杏林書院、「こどもスポーツ外来」全日本病院出版会

《授業の到達目標》

日本体育協会ジュニアスポーツ指導員養成としての基本を学ぶ。運動指導にあたって、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期・児童期前半期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期・児童期前半期に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくこと。実技に関する事は、事前に取り組むこと。<復習方法> 学んだ内容をノートにまとめる。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《成績評価の方法》

毎時間積極的且つ真剣に授業に参加する事を望む。評価は、随時出される課題に対するレポート（30%）、実技課題（10%）。学期末に理解度を確認するテスト（60%）。不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

指導者養成を目的として授業を行いますので、その心構えを持って望むこと。指導者を目指す者として積極的に必要な知識を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ等の説明。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性、指導における問題点の対策について。からだの発育発達の特徴と心理的特徴
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動・スポーツの理解（コーディネーション能力、オーバートレーニング防止、スポーツの在り方、望ましいライフスタイルとの関係等について）
4	精神面の発達特徴	年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション（コミュニケーションスキルにおける基本的項目：観察・傾聴・洞察）体力と運動機能の発達と特徴
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴（運動指導におけるコミュニケーションスキルのための観察・傾聴・洞察）
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた幼児・児童の運動発達の特徴と全身運動
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動
8	移動系運動の発達と指導法と指導プログラム	移動系運動の発達と実際（スポーツスキルの習得：1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	指導方法及び指導プログラム（スポーツスキルの習得：1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法及び測定結果の活用方法（スポーツスキルの習得および上達のためのデータ活用）
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動指導プログラムの実際と指導法（コミュニケーションの3Vの法則：言語、聴覚、視覚を踏まえたアドバイス等）
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと指導プログラム（1人・親子・グループゲーム）集団ゲームゲームスキル獲得のための方法と実際。コーディネーション能力トレーニングを含む）
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方と指導プログラム（1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方と指導プログラム（1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
15	まとめ	幼児期及び児童期前半の発育発達特徴を踏まえた運動指導プログラム。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	ジュニアスポーツ II		科目ナンバリング	H1CX22007	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

公認ジュニアスポーツ指導員の養成を目的に授業を実施し、以下の能力の獲得をめざす。①発育発達期の身体的・心理的特徴を理解する ②基本動作の習得のためのプログラムが活用できる ③「あそび」のプログラムが活用できる ④コーディネーション能力を高めるプログラムが活用できる ⑤コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の獲得

《授業の到達目標》

児童期から青年前期にかけての子どもを対象に発育発達特徴を理解した上で運動・スポーツの基本的な知識を学ぶ。具体的なスポーツスキルの獲得に至る迄の各段階での運動・スポーツ指導の方法、心構え全般を理解し身につける。

《成績評価の方法》

随時課題に対するレポート提出（30%）
 学期末に理解度を確認するテスト<筆記及び実技>（70%）
 レポート等の提出物の期日、時間の厳守。期日を過ぎた提出物は原則受け取りません。
 不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

「公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 理論編」「公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 実践編」日本体育協会
 ＊必要に応じて資料も配付する。

《参考図書》

「疾走能力の発達」宮丸凱史(杏林書院)、「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘(杏林書院)、「発達運動論」臼井永男(放送大学)、「体力を高める運動75選」神家一成(東洋館出版)、「コーディネーション運動65選」東根明人(明治図書)

《授業時間外学習》

事前にテキスト等、該当箇所を予習することを望む。あわせて実際に該当する運動等を行うこと。

《備考》

指導者養成を目的として実施するので、その心構えを持つ事。あわせて、自ら積極的に専門分野の学習を行うことを強く望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する。
2	移動系運動①	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ（移動系運動①）
3	移動系運動②	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際を学ぶ
4	操作系運動①	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
5	操作系運動②	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
6	操作系運動③	操作系運動を中心とした運動遊び・ゲームの実際を学ぶ。コーディネーション能力を含む
7	非移動系運動①	非移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
8	非移動系運動②	非移動系運動を中心とした運動遊び・ゲームの実際について学ぶ（コーディネーション能力トレーニングを含む）
9	対人ゲーム（1）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
10	集団ゲーム（1）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
11	集団ゲーム（2）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
12	小学校体育（1）	低学年における体育指導の考え方と実践方法（スポーツスキル獲得のための方法と実践）
13	小学校体育（2）	中学年における体育指導の考え方と実践方法（スポーツスキル獲得のための方法と実践）（コーディネーション能力を含む）
14	小学校体育（3）	高学年における体育指導の考え方と実践方法（スポーツスキル獲得のための方法と実践）（コーディネーション能力を含む）
15	まとめ	スポーツスキルの上達のためのデータ活用等を学ぶ

科目名	スポーツ心理学	科目ナンバリング	H1BX22009
担当者氏名	堤 俊彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）		

《授業の概要》

スポーツの場面の心理・行動学的な視点理解を深めるに、スポーツを通じた発達、心理とパフォーマンスとの関係、競技不安やストレスマネジメント、動機づけのメカニズムと方法、スポーツパーソナリティ、対人認知、メンタルコンディショニング、などについて考究する。あわせて、スポーツ選手のパフォーマンスを支援する心理サポートの理論的背景を行動科学的な視点からの応用技法を学習する。

《授業の到達目標》

スポーツ場面における心理・行動学的な基礎的な事項について説明できる。
 スポーツにおける各種心理的支援の行い方について知識を得る。
 行動変容に必要なとなるカウンセリングに関する知識を学び技法を習得する。

《成績評価の方法》

フィナルテスト(50%)、予習レポート(30%)、毎講義後のふり返り(20%)を総合して評価とする。レポートにはポイント及びコメントを付与して返却する。フィナルテストに関しては別の用紙にコメントを記入して配布する。授業の到達目標に対しては、講義振り返りペーパーを通して講評を行い、質問や疑問に答えると共に次年度に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	スポーツ心理学が生まれた背景から発展してきた歴史的背景が説明できる。
2	メンタルトレーニングの必要性	心理的スキルのトレーニングとしてメンタルトレーニングについて概観できる。
3	コーチングの心の作業	スポーツチームを作る上で選手を良好な関係を築くための「心の作業」について知る。
4	スポーツと人間性	チーム力の強化をはかる上で必要となる人間性やチームファーストの論理を理解する。
5	情動コントロール	いかに練習や試合に集中し、効果をあげるかに関し、フロー（ゾーン）とアローザルコントロールの観点から学ぶ。
6	情動統制	いかにやる気を引き出し、継続させるかについて、最新の情動のコントロール法を学ぶ。
7	やる気の育て方	日々の練習や試合の場面で力を発揮するための、やる気を引き出すコーチングについての理論と実践を学ぶ。
8	チームマネジメント	チーム作りを行う上での、チームとしての最大限の力が発揮できるための組織作りについての知見を得る。
9	スポーツと発達	スポーツを通して人間的な成長へと導くための必要となる、ヒトとしての発達の基盤を知る。
10	コミュニケーション	選手との良好な関係を築き、試合や練習での動機づけを高めるための傾聴を中心とする様々な技法を習得する。
11	スポーツパーソナリティ	スポーツの競技場面に影響を及ぼす可能性のある個々のパーソナリティの特性の把握の仕方を知る。
12	目標設定	チーム全体として選手個人としての目標をどのように、効果的に行うかの理論と実践法を学ぶ。
13	チームビルディング	チームワークの理論と向上のためのトレーニング、チームビルディングの方法論について学ぶ。
14	行動コーチング	行動理論を基として、成功体験を積み重ねることによる行動パターンの育成について強化の原理を中心に学ぶ。
15	まとめ	これまでの授業で行ってきた内容を振り返り、個々の理論やスキルなどについての再確認を行う。

《テキスト》

授業ごとに資料を配布します。

《参考図書》

スポーツメンタルトレーニング教本、日本スポーツ心理学会編、大修館書店

《授業時間外学習》

講義の前に指定箇所を必読し、その要約とコメントを予習レポートとして提出すること。
 復習課題が出ます。テーマに即した要約とそれに対するコメントをレポートとしてまとめて下さい。

《備考》

本クラスではパフォーマンスやメンタルマネジメントに関し実践的な内容を習得します。それらを、実践の場で応用できるように期待しています。

科目名	トレーニング科学 I		科目ナンバリング	H1BX22014	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ◎ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

トレーニング指導において必要な基礎知識（運動生理学、解剖学、トレーニング理論、方法論等）の習得をレジスタンストレーニングを中心にを行います。実際にレジスタンストレーニングを行い理解を深めます。（時間配分：理論習得に約70%、実技習得に約30%）基本はテキストを中心に解説し、必要に応じてトピックス等を追加します。数回のレポート課題があります。

《授業の到達目標》

トレーニング指導において必要なレジスタンストレーニングの基礎知識の獲得を行います。健康運動実践指導者におけるレジスタンストレーニングの基本知識ならびに基本技術を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》

・数回のレポートと筆記テスト(70%)、実技テスト(30%)の結果のみで評価します。
 ・レポートは期日厳守です。原則遅れは受け取りません。不明な点等が、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

「健康運動実践指導者用テキストー健康運動指導者の手引きー」（財）健康・体力づくり事業財団

《参考図書》

「NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識」森永製菓（株）健康事業部、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「筋力をデザインする」杏林書院、「筋力トレーニングの理論と実際」大修館書店、「スポーツ・健康科学」放送大学、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

・該当する箇所はテキストを事前に読んで理解しておく事。
 ・実技に関しては、自ら時間を作って練習ならびに実践を行うことを強く希望します。

《備考》

実際にレジスタンス運動を行います。運動指導者を目指す学生が、より多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講者は必ず出席すること。
2	指導者について	トレーニング指導者における必要な素養や技術等について学び理解する。
3	スポーツ障害について	スポーツ障害の発生について理解する。あわせていかに予防するかをレジスタンストレーニングの視点から考える。
4	レジスタンストレーニングとは	静的、動的筋収縮における基本的なレジスタンストレーニングについてその特徴や理論を理解する。
5	レジスタンストレーニングの種類	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングの種類とその特徴について理解する。
6	トレーニングのプログラムとは	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム作成のための計画について理解する。
7	トレーニングのプログラム評価	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム評価のための指標について理解する。
8	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-1。下腿のトレーニング種類と特徴を理解する。
9	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-2。上肢のトレーニングの種類と特徴を理解する。
10	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-3。体幹のトレーニングの種類と特徴を理解する。
11	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-4。話題性の高いレジスタンストレーニングについてその効果等を知る。
12	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-5。高齢者を対象としたレジスタンストレーニングについて理解する。
13	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮における成長期におけるレジスタンストレーニングについて理解する。
14	レジスタンストレーニング	レジスタンストレーニングと栄養に関する事項をサプリメントの活用等から理解する。
15	まとめ&実技テスト	実技のチェック（テスト）&総まとめを行う。

科目名	トレーニング科学Ⅱ		科目ナンバリング	H1BX22015	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》

筋力トレーニングをテーマにその理論と実践を学びます。基本的な運動生理学、解剖学、運動栄養学の知識を取得している者を対象とし、筋力トレーニング指導において必要な基礎知識（運動生理学、解剖学、トレーニング理論、方法論等）の習得を行います。授業は、各回テキストの1章のスピードで解説を行いながら随時トピックス等を追加します。適宜レポート課題あり。

《授業の到達目標》

ストレングスコーチの養成を目標とします。レジスタンストレーニング指導において必要な基礎知識の獲得を行います。その結果、基本的なレジスタンストレーニングのメニューや指標作り、ならびにトレーニング評価が出来るレベルを目指します。

《成績評価の方法》

レポートとテスト(100%)の結果のみで評価します。レポート提出は期日厳守です。原則遅れは受け取りません。*加点主義です。努力した分は積極的に評価します。不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

「筋力トレーニングの理論と実践」大修館書店
¥2,900+税
*必要に応じて資料も配布します

《参考図書》

「ストレングストレーニング&コンディショニング」ブックハウスHD、「レジスタンストレーニングのプログラムデザイン」ブックハウスHD、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「臨床スポーツ医学」医学映像教育センター、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に指定された内容の箇所をテキストを読んで、「わからない点」を明確にしておくことを求めます。そのわからないところやわかりにくい点ならびに重要箇所を中心に解説します。

《備考》

ストレングスコーチを目指す人が、より多くのことを学べるよう積極的に授業を展開します。テキストの予習をした上での積極的な姿勢を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業方針や評価方法等について説明します。受講者は必ず出席すること。
2	トレーニング理論について	トレーニング理論の基本概念の解説と理解を行う。
3	特異性について	運動課題に応じた特異的な筋力について学ぶ（筋力の決定要因に関する内容）
4	最大筋力について	スポーツ競技に応じた特異的な筋力について学ぶ（最大筋力に関する内容）
5	トレーニング強度について	筋力トレーニングの強度について学ぶ（トレーニング強度に関する内容）
6	トレーニング計画について	筋力トレーニングのタイミングについて学ぶ（トレーニング計画に関する内容）
7	トレーニングの種類について	筋力トレーニングの種類について学ぶ（方法の選択に関する内容）
8	障害予防について	障害の予防について学ぶ（筋力トレーニングと障害予防に関する内容）
9	目的に応じたトレーニングについて	目的に応じた筋力トレーニングについて学ぶ（筋力、パワー、持久力の向上に関する内容）
10	性差や健康増進について	女性のための筋力トレーニングについて学ぶ（性差や健康の維持増進に関して生理学的、解剖学的な面から理解する）
11	ジュニア期におけるトレーニングについて	ジュニアのための筋力トレーニングを中心に学ぶ（発育発達における適時性や特性に加えて健康づくりの促進に関する内容を学び理解する）
12	高齢者など加齢や健康について	シニアのための筋力トレーニングについて学ぶ（加齢、可塑性、健康の維持増進等に関する内容について学び理解する）
13	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ1（使用する筋の名称や位置に関する内容）
14	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ2（目的に応じた選択に関する内容）
15	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ2（目的に応じた選択に関する内容）

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり実践演習 I	科目ナンバリング	H1CX21043
担当者氏名	朽木 勤		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

運動実践を通して、健康づくりの運動指導者としての能力を養うことを目標とする。特に健康に関連する体力要素について、有酸素運動を正しく実践する。また、年代によって異なる健康のための体力を理解し、その運動を実践する。各自がこの授業を通して体得したものが、次年度以降の授業に有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

この演習では、運動の指導者としての能力を身につけるために、実践してみることが目的である。各テーマについてその意義を理解し、健康づくりとしての効果が期待できるように実施することが重要である。

《成績評価の方法》

演習中に行う確認テスト(30%)と課題レポート(10%)、実技テスト(20%)、最終確認試験(40%)により評価する。確認テストにより生じる課題レポートは提出期限を守ること。期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	健康に関連する体力	健康に関連する体力とスキルに関連する体力を理解する
3	健康づくり運動の実際(1)	ウォームアップの実践
4	健康づくり運動の実際(2)	クーリングダウンの実践
5	健康づくり運動の実際(3)	ウォーキングの実践
6	健康づくり運動の実際(4)	ジョギングの実践
7	健康づくり運動の実際(5)	一連の有酸素運動プログラム実践
8	年代に応じた体力づくり(1)	児童期における健康のための体力づくりの実践
9	年代に応じた体力づくり(2)	青少年期における健康のための体力づくりの実践
10	年代に応じた体力づくり(3)	成人期における健康のための体力づくりの実践
11	年代に応じた体力づくり(4)	中高年期における健康のための体力づくりの実践
12	年代に応じた体力づくり(5)	高齢者における健康のための体力づくりの実践
13	体力レベルに応じた体力づくり(1)	介護予防の運動指導法(1)
14	体力レベルに応じた体力づくり(2)	介護予防の運動指導法(2)
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）2016年、「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2016年

《参考図書》

「ライフスタイル療法<1>第4版生活習慣改善のための行動療法」,足達淑子（医歯薬出版）

《授業時間外学習》

毎時間、確認テストを行う。確認テスト不合格の場合はレポート課題を課す。専門用語について、事前に各自で意味を理解しておくこと。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり実践演習Ⅱ		科目ナンバリング	H1CX21045
担当者氏名	朽木 勤			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 			

《授業の概要》

運動実践を通して、健康づくりの運動指導者としての能力を養うことを目標とする。健康・体力づくり実践演習Ⅰで実践したことをベースとして、特に健康に関連する体力要素について、有酸素運動を正しく実践する。また、年代によって異なる健康のための体力を理解し、その運動を実践する。

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）2016年、「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2016年

《参考図書》

「ライフスタイル療法<1>第4版生活習慣改善のための行動療法」,足達淑子（医歯薬出版）

《授業の到達目標》

この演習では、運動の指導者としての能力を身につけるために、指導者の立場になってグループで実践することが目的である。健康・体力づくり実践演習Ⅰで実践したことをベースとして、指導法の要点を意識してコミュニケーションをとることが重要である。また互いに指導者としての課題を指摘する。

《授業時間外学習》

毎時間、確認テストを行う。確認テスト不合格の場合はレポート課題を課す。専門用語について、事前に各自で意味を理解しておくこと。

《成績評価の方法》

演習中に行う確認テスト(30%)と課題レポート(10%)、実技テスト(20%)、最終確認試験(40%)により評価する。確認テストにより生じる課題レポートは提出期限を守ること。期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	年代に応じて必要な体力	年代に応じた健康と体力の意義
3	健康づくり運動の実際 (1)	ウォームアップの指導法
4	健康づくり運動の実際 (2)	クーリングダウンの指導法
5	健康づくり運動の実際 (3)	ウォーキングの指導法
6	健康づくり運動の実際 (4)	ジョギングの指導法
7	健康づくり運動の実際 (5)	一連の有酸素運動プログラム作成
8	年代に応じた体力づくり (1)	児童期における健康のための体力づくりの指導法
9	年代に応じた体力づくり (2)	青少年期における健康のための体力づくりの指導法
10	年代に応じた体力づくり (3)	成人期における健康のための体力づくりの指導法
11	年代に応じた体力づくり (4)	中高年期における健康のための体力づくりの指導法
12	年代に応じた体力づくり (5)	高齢者における健康のための体力づくりの指導法
13	体力レベルに応じた体力づくり (1)	介護予防の運動指導法 (1)
14	体力レベルに応じた体力づくり (2)	介護予防の運動指導法 (2)
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	器械運動 I		科目ナンバリング	H1CX22051	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）			

《授業の概要》

「学習指導要領解説 保健体育編」を理解すること。特に器械運動の教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

期間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

器械運動における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。<復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。
 毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（20%）。各種目技能の習熟度を確認する実技テスト（30%）。
 提出されたノートやレポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。スポーツ活動に相応しい服装で参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	マット運動（1）	回転系／接転／前転・後転
3	マット運動（2）	回転系／はん転／倒立回転・倒立回転跳び・はねおき
4	マット運動（3）	巧技系／平均立ち／片足平均立ち・倒立
5	マット運動（4）	回転系・巧技系の基本技、条件を変えた技、発展技を組み合わせる
6	鉄棒運動（1）	支持系／前方支持回転／前転・前方足かけ回転
7	鉄棒運動（2）	後方支持回転／後転・後方足かけ回転
8	鉄棒運動（3）	懸垂系／懸垂・懸垂振動→後方後跳び降り等
9	平均台運動（1）	体操系／歩走・前方歩き・後方歩き
10	平均台運動（2）	体操系／跳躍・伸身跳び（両足踏切）・開脚跳び（片足踏切）
11	平均台運動（3）	バランス系／ポーズ・立ち、座臥, 支持ポーズ
12	跳び箱運動（1）	切り返し系／切り返し跳び／開脚伸身跳び
13	跳び箱運動（2）	切り返し系／切り返し跳び／かかえ込み跳び→屈伸跳び
14	跳び箱運動（3）	回転系／回転跳び／頭はね跳び
15	跳び箱運動（4）	切り返し系・回転系の基本技、条件を変えた技、発展技を組み合わせる

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	武道Ⅱ	科目ナンバリング	H1CX22052
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

学習指導要領解説 保健体育編 を理解すること。特に教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導的、確かな行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する

《授業の到達目標》

武道を通して技能や伝統的な行動の仕方を理解し、課題に応じた取り組み方を段階的に修得することができるようにする。

《授業時間外学習》

毎授業で実践したことを復習し、反復練習をして身につける。ノートにまとめておくことも今後の指導にとって重要である。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）20%

実技テスト（達成度）80%

実技テストは評価にコメントを付して個人に伝える。

レポートはコメントを付して返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、身体運動文化の追求とスポーツを通して自己を高めていこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 剣道 基本動作①	すり足、歩み足、継ぎ足 ～体の移動
2	基本動作②	受け身、前回り受け身、横受け身、後ろ受け身
3	基本となる技①	反復練習
4	基本となる技②	投げ技（膝車→支え釣り込み足、大外刈り→小内刈り、体落とし→大腰）
5	基本となる技③	固め技（けさ固め、横四方固め、上四方固め）
6	基本となる技④	反復練習、投げ技、固め技
7	自由練習・試合	練習試合
8	まとめ	竹刀の持ち方、構え方、体さばき
9	オリエンテーション 柔道 基本動作①	①の反復練習、基本打突の仕方、受け方
10	基本動作②	①しかけ技 二段の技（面一胴、小手一面、二段の技）引き技（引き面、引き胴） ②応じ技（抜き技）
11	基本動作③	両抜き胴、小手抜き面
12	基本となる技①	かかり練習、約束練習
13	基本となる技②	しかけ技、応じ技、自由練習、試合
14	基本となる技③	技を確かめる 総合的な技の出し合い
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	ダンス／水泳 I	科目ナンバリング	H1CX22053
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

ダンス及び水泳の教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。ダンスでは、基礎的なダンス理論や身体の使い方を理解し、創作ダンスやフォークダンスなどの基礎的な技能を習得する。水泳では各種泳法について学習し、水泳の基礎的な技能を習得する。また、安全で効果的な水泳指導法について理解する。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する。

《授業の到達目標》

ダンス及び水泳における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《授業時間外学習》

実技の技能向上を目指し、各自で準備を行っておくこと

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）、レポート50%、実技テスト（達成度）50%
提出したレポートには、コメントをつけて返却する。

《備考》

ダンスでは、実技に適したウェアを必ず着用すること。
水泳では、ピアスなど水着以外のものは必ず外しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	創作ダンス	多様なテーマから表したいイメージをとらえ、表現できる
3	創作ダンス	動きに変化を付けて即興的に表現できる
4	創作ダンスのまとめ	変化のあるひとまとまりの表現にして踊ることができるようになる
5	フォークダンス	各国の踊り方の特徴をとらえることができる
6	フォークダンス	音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ることができるようになる
7	現代的なリズムのダンス	ロックやヒップホップなどのリズムの特徴をとらえることができる
8	現代的なリズムのダンス	変化のある動きを組み合わせることでリズムに乗って全身で踊ることができるようになる
9	クロール	手と足、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができるようになる
10	平泳ぎ	手と足、呼吸のバランスをとり長く泳ぐことができるようになる
11	クロールと平泳ぎ	タイムトライアル及び持久泳
12	背泳ぎ	手と足、呼吸のバランスをとり、泳ぐことができるようになる
13	バタフライ	手と足、呼吸のバランスをとり、泳ぐことができるようになる
14	背泳ぎとバタフライ	タイムトライアル及び持久泳
15	まとめ（水泳）	4泳法を用いてタイムトライアル及び持久泳

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	器械運動Ⅱ		科目ナンバリング	H1CX22054	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）			

《授業の概要》

「学習指導要領解説 保健体育編」を理解すること。特に器械運動の教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

時間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

器械運動における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。
 毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（20%）。各種目技能の習熟度を確認する実技テスト（30%）。
 提出されたノートやレポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。スポーツ活動に相応しい服装で参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	マット運動（1）	回転系／開脚前転→伸膝前転・倒立前転→跳び前転・開脚後転→伸膝後転等
3	マット運動（2）	回転系／側方倒立回転→側方倒立回転跳び1/4ひねり等
4	マット運動（3）	巧技系／片足平均立ち・片足正面水平立ち→片足側面水平立ち、Y字バランス
5	マット運動（4）	回転系・巧技系の基本技、条件を変えた技、発展技の組み合わせを考える
6	鉄棒運動（1）	支持系／前方支持回転→前方伸膝支持回転・支持跳び越し下り
7	鉄棒運動（2）	支持系／後方支持回転→後方伸膝支持回転・後方浮き支持回転
8	鉄棒運動（3）	支持系・懸垂系の基本技、条件を変えた技、発展技の組み合わせを考える
9	平均台運動（1）	体操系／前方ツーステップ・前方走・後方ツーステップ
10	平均台運動（2）	体操系／かかえ込み跳び・開脚跳び下り・前後開脚跳び等
11	平均台運動（3）	体操系とバランス系の基本技、条件を変えた技、発展技を組み合わせる
12	跳び箱運動（1）	切り返し系／開脚跳び→開脚伸身跳び等の反復練習
13	跳び箱運動（2）	切り返し系／かかえ込み跳び→屈伸跳び等の反復練習
14	跳び箱運動（3）	回転系／前方屈腕倒立回転跳び→前方倒立回転跳び等
15	跳び箱運動（4）	切り返し系・回転系の基本技、条件を変えた技、発展技を組み合わせる

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	ダンス／水泳 II		科目ナンバリング	H1CX22055
担当者氏名	木下 幸文			
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

ダンス及び水泳の教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。ダンスでは、様々なダンス技術を学びながら、創作ダンスやフォークダンスなどを通じてダンスにおける表現の技能も習得する。水泳では泳法の技能についても学習し、水泳の基礎的な技能の向上を図る。また、安全で効果的な水泳指導法について理解を深める。

《授業の到達目標》

ダンス及び水泳における各種目の特性やルールを理解し（知識・思考・判断）、必要な能力（技能）を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み（態度）、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）、レポート50%、実技テスト（達成度）50%
技能、態度、知識・思考・判断の3つの到達目標をもとに授業ノート、レポート、実技テストより評価する。
レポートについては、コメントをつけて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	創作ダンス	表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で表現できる
3	創作ダンス	緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現できる
4	創作ダンスのまとめ	簡単な作品にまとめて踊ることができるようになる
5	フォークダンス	各国の踊り方の特徴をとらえ、表現できる
6	フォークダンス	音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ることができる
7	現代的なリズムのダンス	ロックやヒップホップなどのリズムの特徴をとらえることができる
8	現代的なリズムのダンス	変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って全身で踊ることができる
9	クロール	手と足、呼吸のバランスを保ち安定したペースで速く泳ぐ、長く泳ぐことができる
10	平泳ぎ	と足、呼吸のバランスを保ち安定したペースで速く泳ぐ、長く泳ぐことができる
11	クロールと平泳ぎ	タイムトライアル及び持久泳ができるようになる
12	背泳ぎ	手と足、呼吸のバランスをとり安定したペースで泳ぐことができる
13	バタフライ	手と足、呼吸のバランスをとり安定したペースで泳ぐことができる
14	背泳ぎとバタフライ	タイムトライアル及び持久泳ができるようになる
15	まとめ（水泳）	4泳法を用いてタイムトライアル及び持久泳

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

実技の技能向上を目指し、各自で準備を行っておくこと。

《備考》

ダンスでは、実技に適したウェアを必ず着用すること。
水泳では、ピアスなど水着以外のものは必ず外しておくこと。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	発育発達概論		科目ナンバリング	H2BB12019
担当者氏名	米野 吉則			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

発育発達に伴うからだところの変化の特徴をライフステージごとに理解する。健康の基本的な考え方となる「心身の成長」について、人間を身体と精神の両面から総合的に捉えて、具体的なデータを示しながら展開する。

《授業の到達目標》

- ・発育発達と健康の関係について理解し説明することができる。
- ・人間の形態的な発育と機能的な発達を理解し、ライフステージにおける標準的なプロセスを説明することができる。
- ・発育発達に関わる諸問題から、発育発達が影響される環境要因について理解し説明することができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート(20%)、グループワーク発表内容(10%)、定期試験(70%)
- ※レポートにはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション及び発育発達の基礎理論	授業の概要等の説明ならびに発育発達の基礎理論について説明する。発育と発達の違い、年齢と時代、可塑性、臨界期と敏感期など。
2	発育発達と健康、ヒトの発育発達のな特徴	発育発達と健康の関係、進化から見たヒトの心身の発達の特徴について理解する。
3	乳児期の発育発達①	乳児期の形態の質量変化、乳歯の萌出、粗大運動、微細運動、原子反射について理解する。
4	乳児期の発育発達②	乳児期の感覚運動、動作の協調、発語、模倣、情緒の安定について理解する。
5	幼児期の発育発達①	幼児期の形態の質量変化、歩行、道具の操作、平衡機能について理解する。
6	幼児期の発育発達②	幼児期の言語発達、概念発達、遊びの機能、自我、他者理解について理解する。
7	学童期の発育発達①	学童期の運動能力と認知機能について理解する。
8	学童期の発育発達②	学童期の自尊感情、仲間関係、自己制御について理解する。
9	青年期の発育発達①	青年期の運動能力、思春期の身体の変化や生理について理解する。
10	青年期と発育発達②	青年期のアイデンティティの確立、職業選択、健康観について理解する。
11	成人期と生涯発達	成人期の身体的な変化、家族の形成、世代性、仕事と余暇、人格の安定について理解する。
12	老人期と生涯発達	老人期の認知機能、体力の低下、老化、死の受容について理解する。
13	発育発達に関わる諸問題(I) からだ	子どものからだを窓口にして、最近の健康課題、発育発達のな課題を提示し、グループで討議する。
14	発育発達に関わる諸問題(II) 発達と障害	子供の発達と障害について提示し、グループで討議する。
15	発育発達に関わる諸問題(III) 性教育	子どもの性に関する課題を提示し、グループで討議する。

《テキスト》

「人間発達学」 福田恵美子 中外医学社

《参考図書》

「人間発達学ヒトはどう育つのか」 竹下研三 中央法規
 「写真でみる乳児の運動発達—生後10日から12か月まで」
 Lois Bly 協同医書出版社
 「生涯人間発達学」 上田礼子 三輪書店

《授業時間外学習》

2回目以降はシラバスにより授業時のテーマや内容を把握し、事前に必ず予習しておくこと、また、授業内容についての質問を準備しておくこと良い。復習についても最低限、毎授業内容を見返しておくことを求める。

《備考》

学科必修科目であり、教員免許、健康運動指導士等の必修科目でもある。学生は意欲的・積極的な態度で受講すること。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健II		科目ナンバリング	H2BC22008	
担当者氏名	加藤 和代、米野 吉則				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 				

《授業の概要》

学校保健は子どもの命と健康を守るために必要な教育活動であり、学校教育にかかわる者に必要な使命である。学校保健Iの学修内容をもとに学校保健活動の実際の理論と方法を学び、児童生徒の健康づくりを考えることをねらいとしている。学校安全を含めた保健管理の領域を中心に、必要な知識や技術を修得するとともに児童生徒の心身の健康について演習や実習を通して具体的に学ぶ。

《授業の到達目標》

- 学校保健の領域を構造的にとらえることができる
- 児童生徒の健康・安全に対する教師の役割や責任について説明できる
- 学校保健活動の根拠となっている法律や制度を説明することができる

《成績評価の方法》

レポート等(20%) 定期試験(70%) で総合的に判断する
レポートは評価コメントを加えて返却する

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健活動の構造及び展開	学校保健と学習指導要領、保健教育・保健管理・保健組織活動、学校保健計画
2	学校保健活動の構造及び展開	子どもの健康問題の推移、現代的健康課題、ヘルスプロモーション
3	健康実態把握の方法	文部科学省学校保健統計、健康観察、保健調査、健康診断
4	児童生徒の健康診断(1)	学校行事としての健康診断、計画から事後措置
5	児童生徒の健康診断(2)	実習、技術的基準 身体測定、視力検査、聴力検査 教育活動としての健康診断
6	メンタルヘルスケアとその体制	健康相談、校内組織体制、スクールカウンセラー 心のケア サポートシステム
7	感染症・食中毒の予防と管理	学校で予防すべき感染症、出席停止、臨時休業、食物アレルギーへの対応
8	学校環境衛生活動	学校環境衛生基準
9	学校環境生成活動の実際	日常の点検活動 定期検査 飲料水の検査 プール水の検査 残留塩素 照度検査
10	学校における危機管理、安全管理	学校危機管理 安全点検、危機管理マニュアル、避難訓練
11	学校管理下での事故や災害	学校事故発生状況、不審者侵入 突然死への対応 災害共済給付制度
12	学校給食と食育	学校給食法、食育基本法、栄養教諭
13	学校保健計画、学校安全計画	学校保健・安全計画の目的意義 作成手順・評価
14	学校保健組織活動	学校と地域社会との連携、学校保健委員会
15	まとめ	学修内容確認

《テキスト》

「学校保健ハンドブック」 教員養成系大学保健協議会編
東山書房

《参考図書》

学校保健の動向（平成27年度版）

《授業時間外学習》

学校教育、学校保健に関するトピックスを提示するので、「読み取る」「調べる」などして自分の意見をまとめ次回に提出する

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健Ⅲ		科目ナンバリング	H2DC22009	
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） 				

《授業の概要》

学校では、全職員が協力して児童生徒の健康安全を推進していくことが求められている。特に保健体育教諭、養護教諭はその専門的な立場から協力して積極的に役割を担い活躍することが期待される。ここでは保健教育、安全教育の指導の場面を中心に、児童生徒の健康課題の解決に向けた模擬授業等の体験、演習をとおして実践力を身につけることをねらいとしている。

《授業の到達目標》

- 児童生徒の現代的な健康課題について説明することができる。
- 「教科保健」の学習と「保健指導」の相違点を説明することができる。
- 保健指導の指導案作成、模擬授業等をとおして役割を担う指導力、実践力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

課題レポートの内容評価・グループワークの発表内容（50%）
定期試験（50%）により、総合的に評価する。
レポートは評価コメントを加えて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	社会の変化と児童生徒の健康課題、ヘルスプロモーションと保健教育
2	教育課程と保健教育	学習指導要領、保健学習と保健指導 特別活動、学級活動（ホームルーム活動）、学校行事
3	歯、口の健康づくり	歯・口の健康実態、指導計画、指導体制、学校歯科医、実践事例
4	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（1）	喫煙・飲酒・薬物乱用実態、指導計画、指導体制
5	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（2）	指導実践例
6	学校における性教育、エイズ教育（1）	性の問題行動の実態、指導計画、指導体制
7	学校における性教育。エイズ教育（2）	指導実践例、ビデオ教材
8	ライフスタイルと保健指導（1）	生活習慣の実態、指導計画、指導体制
9	ライフスタイルと保健指導（2）	指導実践例
10	学習指導案の作成	学習指導案作成の意義、形式、学習指導要領との関連、教科学習との関連
11	学習指導案の作成	保健指導学習指導案作成の実際
12	保健指導模擬授業（1）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
13	保健指導模擬授業（2）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
14	保健指導模擬授業（3）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
15	まとめ	学修内容、到達目標確認

《テキスト》

『学校保健ハンドブック』（ぎょうせい）小学校学習指導要領解説文部科学省体育偏、特別活動編（東洋館出版）中学校学習指導要領解説保健体育偏、特別活動編（東山書房、ぎょうせい）

《参考図書》

楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（文部科学省 国立教育政策研究所）
「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き（文部科学省）
「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き（文部科学省）
学校保健の動向（平成28年度版）（日本学校保健会）

《授業時間外学習》

ワークシート、資料をこまめに整理して復習するとともに、児童生徒の健康課題に関心をもって情報を収集すること。

《備考》

「学校保健Ⅰ」、「学校保健Ⅱ」を履修していることが望ましい。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康行動論			科目ナンバリング	H2BC22011
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

健康行動理論のそれぞれの考え方や特徴、方法を理解し、地域や学校で、対象者が健康に良い行動をとる可能性を高める働きかけについて考える。

また事例を通してアセスメント、介入計画、実行、評価など健康教育へのモデルの応用を目指す。

《テキスト》

『医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎』
松本千明著 医歯薬出版株式会社

《参考図書》

適宜参考図書を紹介する。

《授業の到達目標》

- 健康行動論、健康行動モデルの考え方、特徴を説明できる。
- 地域や学校で、対象者の健康に関する行動変容と維持に関して、筋道を通して考えることができる。

《授業時間外学習》

予習、課題に関するレポートは、必ず提出すること。

《成績評価の方法》

課題レポート、発表（40%）、定期試験（60%）で評価する。
課題レポートは、評価コメントを加えて返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の基本的な視点 授業の概要 学習動機づけ 評価等の説明
2	健康行動と健康教育	健康行動と研究の進歩、健康教育の研究・実践の重要性
3	健康信念モデル	(ヘルスベリーフ・モデル) 危機感に対する行動のプラス面とマイナス面 ケースへの応用
4	社会的認知理論	健康行動と個人・環境との相互作用 ケースへの応用
5	変化のステージモデル	(トランスセオリアルモデル) 5つのステージ ケースへの応用
6	プリシード・プロシードモデル	(健康行動理論を使って企画するためのモデル) モデルの概観 ケースへの応用
7	計画的行動理論	やる気に影響する3つの要素 ケースへの応用
8	自己効力感 ストレスコーピング	自己効力感と健康行動 ストレスコーピングと健康行動
9	健康行動変容プログラム (計画)	健康行動理論を用いて、自らのQOLをアセスメントし、健康行動変容プログラムを立案し実践する
10	性と健康行動 (1)	若者の性行動、望まない妊娠、性感染症 ピアカウンセリング
11	性と健康行動 (2)	課題のプレゼンテーションとディスカッション
12	運動と健康行動 (1)	体力低下、運動不足、肥満 運動実践指導
13	運動と健康行動 (2)	課題のプレゼンテーションとディスカッション
14	健康行動変容プログラム (実践発表)	健康行動変容プログラム実践発表
15	まとめ	到達目標の確認

科目名	健康統計学		科目ナンバリング	H2XC22012
担当者氏名	河野 稔			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

2年I期「健康統計の基礎」の学修成果をもとに、統計学の考え方や手法を身につけることを目指す。具体的には、基本統計量（平均値、分散、標準偏差など）や資料整理の方法、相関と回帰分析、確率分布、区間推定や仮説検定（カイ2乗検定、t検定、F検定など）まで、統計学全般について学ぶ。また、表計算ソフトを用いた演習にも取り組むことで、実践的な統計解析の手法についても学ぶ。

《授業の到達目標》

- 基本統計量を求めたりグラフを作成したりして、データ全体の特徴を把握できる。
- 統計的手法を用いて、標本から母集団の特徴を推測したり、複数の母集団の特徴を比較したりできる。
- 表計算ソフトなどを用いて、データの整理と分析ができる。
- 統計的に分析した結果を論文やレポートとして適切に表現できる。

《成績評価の方法》

小テストの結果（20%）、課題などの提出物（30%）、中間試験および定期試験の総合的な結果（50%）で評価する。なお、小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	統計の必要性、記述統計と推測統計
2	データの尺度、統計資料の整理	尺度、度数分布表、ヒストグラム
3	代表値と散布度(1)	平均値、中央値、最頻値など
4	代表値と散布度(2)	分散、標準偏差、範囲、変異係数など
5	相関と回帰分析(1)	相関係数、順位相関係数
6	相関と回帰分析(2)	回帰直線
7	確率、順列と組み合わせ	加法定理と乗法定理、順列、組み合わせ
8	中間試験	中間試験（ここまでのふり返り）
9	確率変数と確率分布	確率変数、確率分布（二項分布、正規分布、カイ二乗分布、F分布など）
10	区間推定(1)	母集団と標本、母平均の推定
11	区間推定(2)	母比率の推定、母相関係数の推定
12	仮説検定(1)	1つの母集団の統計値の検定（母平均、母比率、母相関係数）
13	仮説検定(2)	2つの母集団の統計値の検定（z検定、t検定など）
14	仮説検定(3)	クロス表の検定（適合度の検定、独立性の検定など）
15	仮説検定(4)／まとめ	その他のノンパラメトリックな検定／全体の学習のふり返り

《テキスト》

石村貞夫(2006)『入門はじめての統計解析』東京書籍.

《参考図書》

- 石村貞夫・劉晨・石村友二郎(2013)『Excelでやさしく学ぶ統計解析2013』東京図書.
- 菅民郎(2013)『Excelで学ぶ統計解析入門 -Excel2013/2010対応版』オーム社.
- 高木廣文(2009)『ナースのための統計学 第2版』医学書院.

《授業時間外学習》

- 予習では、事前に教科書の授業範囲を読んでおくこと。また、グラフ作成や関数の利用など、表計算ソフトの操作や手順を確認しておくこと。
- 復習では、小テストや定期試験に向けて、定義や公式、手法を確認しておくこと。とくに、データの整理や手法を実際に行えるように練習しておくこと。

《備考》

授業での学習だけでなく、身の回りにある「データ」に関心を持ち、学習した成果を興味のある分野に生かそうという意欲を持って、授業に参加してください。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学 I	科目ナンバリング	H2XC22015
担当者氏名	細井 八千代		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

受講者は、医学的根拠をもって病気の経過や症状、訴えを知り、健康の回復や増進のために看護者は何ができるかを考える。実習においては基礎看護技術を習得し、よりよいケアにつながる看護知識、態度を学び養護教諭にとっての看護実践を理解する。

《テキスト》

指定しない。
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

- ①『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
- ②『実践基礎看護学』中西監修（建帛社）
- ③『基礎看護技術 I』（医学書院） その他適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 看護の基礎技術を理解する。
- 基礎的な技術を習得し、実践できる。
- 心身の健康障害を理解し援助の方法を考える。

《授業時間外学習》

- ・実習室を利用して積極的に練習をする。
- ・解剖・生理学が基本となるので復習をしておく。
- ・復習をしっかり行い不明な点は質問をすることによって解決する。

《成績評価の方法》

最終試験(60%)、課題レポート(40%)提出期限厳守のこと
(課題レポートは評価をして講義最終日に返します。)

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目です。演習を随所に取り入れるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢が必要です。2コマ連続開講で11回+45分の授業となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について 基礎看護学の復習
2	病気の経過に伴う看護	急性疾患、慢性疾患、リハビリテーション、予後
3	治療・処置に伴う看護	安静療法、食事療法、薬物療法、運動療法、放射線療法、外科的治療
4	訴えや症状に対する理解と看護	必要な情報、訴えや症状に対する看護
5	基礎看護 1. 環境整備	看護技術とは、 ベッドの整備、ベッドの条件
6	2. 安楽な体位 3. 移送	基本的な体位、救急時の体位 車椅子、担架、松葉杖、ストレッチャーによる移送・移動
7	4. 衣服の着脱 5. 身体の清潔	衣服の着脱方法、衣類の環境 清潔の意義、身体各部の清潔、発汗の処置
8	6. 排泄の援助 (中間のまとめ)	安楽な体位、プライバシー保持を考えた排泄の援助・介助
9	7. 食生活の援助 8. 電法	食と生活、食事介助、 電法の目的、電法の種類と効果、電法の実施
10	9. 薬についての知識 10. 感染予防	与薬の目的、保健室の薬 消毒と滅菌、感染予防の基礎、手指洗浄
11	11. バイタル測定 12. 包帯法	バイタルサインの測定 創傷処置基本の理解 包帯の目的、包帯の種類、包帯の巻き方、三角巾の使い方
12	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知識を再確認し、成果を発表する。
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	看護学Ⅱ	科目ナンバリング	H2XC22016
担当者氏名	富安 俊子、東 久子、森田 富士子		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）		

《授業の概要》

人間の発達段階における特徴と各期において罹りやすい疾患の病態生理・治療・看護について学習する。
 各発達段階に応じた健康の保持・増進に必要な観察方法・予防法・看護技術の演習を行う。

《テキスト》

各回必要な使用を配布する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

1. 人間の発達段階（小児期・思春期・成人期・老年期）における特徴を理解することができる。
2. 各発達段階にある対象の健康状態を評価するための観察ができる。
3. 各発達段階の対象に健康の保持・増進を目的とした保健指導を行うことができる。

《授業時間外学習》

演習には事前準備をして臨む。

《成績評価の方法》

小児期（50%）、思春期周産期（25%）、成人期老年期（在宅）（25%）筆記試験およびレポートなどで総合的に判断する。
 小テストやレポートに対してコメントを付し返却する。
 全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

演習は、ポロシャツ・ジャージに更衣する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 女性のライフサイクル	授業内容・担当教員の紹介 女性のライフサイクル、リプロダクティブヘルツ/ライツ
2	母性看護の意義および看護発達段階看護	母性看護の実際、女性の発達段階の特徴と主な疾患・病態生理・治療・看護
3	周産期に必要な援助	妊娠・分娩・産褥・新生児の特徴、主な疾患・病態生理・治療・看護演習
4	周産期 まとめ	産婦人科での看護技術、フィジカルアセスメントの実際を演習の実際 まとめ 小テスト
5	養護教諭の執務と看護 小児看護の基礎知識	養護教諭の倫理、看護行為の基本、小児看護の基礎知識
6	乳幼児期の発達及び健康障害と看護	乳幼児期の発達の特徴、乳幼児の主な疾患と病態生理及び看護
7	学童期の発達及び健康障害と看護	学童期の発達の特徴、学童期の主な疾患と病態生理及び看護
8	思春期（中学高校生）の発達及び健康障害と看護	中学高校生期の発達の特徴、中学高校生期の主な疾患と病態生理及び看護
9	眼科疾患と看護、耳鼻咽喉科疾患と看護	眼に関する基礎知識及び疾患と看護、耳・鼻・咽頭・喉頭に関する基礎知識及び疾患と看護
10	皮膚疾患と看護、学校における救急看護	皮膚に関する基礎知識及び疾患及び疾患と看護、救急処置の意義と過程及び必要な技術
11	障がいのある児童生徒の理解と看護 小テスト	病虚弱の子どもの教育と看護、肢体不自由の子どもの教育と看護、発達障害の理解、まとめの小テスト
12	呼吸器疾患についての看護	呼吸器の形態機能を理解する。呼吸の観察及び、在宅酸素療法、吸引について演習する。
13	循環器疾患についての看護	循環器の形態機能を理解する。血圧測定及び、点滴の固定・抜針について演習する。
14	消化器疾患についての看護	消化器の形態機能を理解する。経管栄養、ストマ交換について演習する。
15	感染症、認知症、寝たきり等の看護 小テスト	衛生的な手洗い、認知症の病態・症状、床ずれについて理解する。まとめの小テストを行う。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	臨床看護実習		科目ナンバリング	H2XC22017
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則			
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力） 			

《授業の概要》

看護学の最終段階として、これまで学んできた知識や技術を確認すると共に、臨床での人間関係を通して、養護教諭に必要な看護的専門性を確認します。受講者は、担当患者の看護ケアを通して看護過程の実際に触れることができます。医療的ケアをはじめ、現代的医療の実際や特別なケアにも触れます。人間を深く理解し、科学的な視点で必要なケアを考えるなど、臨床ならではの主体的学びが求められます。

《授業の到達目標》

- 実習目標や内容を明確にし、その成果の報告ができる。
- 対象者を理解し、心身の状況について、観察した内容を端的に報告することができる。
- 看護学の専門性を理解し、専門(学校看護)への応用について考えを述べるができる。
- 自ら習得しなければならない学習内容が分かり、実習計画を立てることができる。

《成績評価の方法》

事前指導から事後指導（実習報告会）まで、いっさいの欠席は原則として認めない。実習ノートの記録(40%)、指導者による実習評価(20%)、事前指導と事後指導の活動状況(40%)、100点満点で採点。評価は、すべての実習が終了した時点で行う。実習内容の講評はその都度おこなう。

《テキスト》

本学作成の『実習記録のノート』配布プリント類

《参考図書》

- 『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
- 『養護教諭のための看護学』藤井・山口・佐藤編（大修館書店）
- 『基礎看護技術Ⅰ』藤崎郁著、医学書院
- その他、適宜紹介する

《授業時間外学習》

実習に向けて、文献等での知識の確認と定着に努める。実習室等を積極的に活用し、基礎技術の習得に努める。実習期間中の生活時間帯を想定し、平素より、規則正しい生活習慣を確立する。

《備考》

事前指導から事後指導まですべてを含んで臨床実習と称する。出席状況・準備状況により実習の可否を学科内委員会が判断する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導1 オリエンテーション	臨床（臨地）実習の意義・目的および内容の概略について
2	事前指導2	実習の内容を確認し、各自の目標を決める。
3	事前指導3	実習中の注意事項、心構え等を確認する。
4	実習 1日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。オリエンテーション。 詳細は実習要項参照
5	実習 2日目	病院における実習計画に則り、臨地実習 詳細は実習要項参照
6	実習 3日目	病院における実習計画に則り、臨地実習 詳細は実習要項参照
7	実習 4日目	病院における実習計画に則り、臨地実習 詳細は実習要項参照
8	実習 5日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。指導者を交えた、最終カンファレンス。 詳細は実習要項参照
9	実習 6日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
10	実習 7日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
11	実習 8日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
12	実習 9日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
13	実習 10日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
14	事後指導1	実習内容のまとめ、プレゼンテーションの準備
15	事後指導2	実習報告会において、それぞれの実習で習得した内容や課題について報告する。

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	HTAL42004
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、教育における心理学的領域の理解をめざすとともに人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得とそれぞれの専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめることができる。○教育効果の検証（評価）ができる。○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。○障害をもつ子どもの学習や発達を理解し、「学び」について考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30％）、定期試験（70％）
課題の提出については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、参加状況を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
9	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
10	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動 「障害」の理解	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害 障害をもつ子どもの教育、学習（学び）の課程
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論		科目ナンバリング	HTAL42006	
担当者氏名	古田 薫、廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程の編成と実施にあたっては、教育課程の構造と基礎的な編成原理、および基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解しておく必要がある。本授業は、これらの理解を深め、教育課程編成における教師の役割の重要性について考察することを目的とする。教育課程の理論的な枠組や主要論点を整理し、教育課程の実際と、新学習指導要領の要点、現代的課題についての理解を深める。

《授業の到達目標》

- 教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
- 学習指導要領の内容と法的性格について理解している。
- 学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
- 児童生徒の個人差のとらえ方と教育課程編成における個人差の取り扱いについて理解している。
- 学習指導案の書き方を理解し、目的に応じた指導案を作成することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
 - ②課題の提出と完成度 30%
 - ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- ※提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之（編著）『はじめて学ぶ教育課程論（仮題）』ミネルヴァ書房、2016年
『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年

《参考図書》

『高等学校学習指導要領』文部科学省、2008年
田中耕治（編）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年

《授業時間外学習》

参考資料を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育課程とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性について理解を深める。
2	学校教育の目的・目標と 教育課程	・教育行政における教育課程の位置づけ ・教育課程の法的性格
3	学力観と学習指導要領の 変遷①	・学習指導要領の変遷とその背景（戦後～1970年代）
4	学力観と学習指導要領の 変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景（1980年代～現在）
5	教育課程の管理と運営	・学校における教育課程の管理・運営の実際
6	カリキュラムの構造と類 型	・カリキュラムの歴史、さまざまなカリキュラムの類型とその特徴
7	教育課程における個人差 の取り扱い	・個人差とは、個に応じた指導とは ・個人差と教育課程
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。 ・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。
9	学習指導案の書き方	・指導案の構成と作成手順 ・作成上の留意点
10	小学校教育課程の構成	・小学校教育課程における教授内容や課題を具体的に探究する。 ・総合的な学習の時間について教育内容の構成と実施について考察する。
11	中学校教育課程の編成	・中学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
12	高等学校教育課程の編成	・高等学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
13	教科書制度	・教育課程における教科書の位置づけ ・教科書の無償措置および検定制度
14	諸外国の教育課程	・各国の教育課程に関する制度と実情
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	保健・保健体育科教育法Ⅰ（保健教育内容研究）		科目ナンバリング	HTHH42001	
担当者氏名	松本 健治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		履修カルテ参照			

《授業の概要》

健康問題は大きく変貌し、わが国は世界最長寿国になった。このような健康をめぐる今日的課題とその背景にある各種の環境因についての保健教育内容について正確な知識が身につくよう論述する。

《テキスト》

文部科学省：中学校学習指導要領解説保健体育編 高等学校学習指導要領解説保健体育編 大修館書店：中学校用保健体育教科書

《参考図書》

適宜、補足資料を配布する。

《授業の到達目標》

「保健」の指導を進める過程で、健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、思考力・判断力等を育成することが重要であることが理解できる。

《授業時間外学習》

学習内容の理解度を深めるため、復習と事前配布の講義資料で予習しておくことが肝要です。

《成績評価の方法》

期末試験 80%、課題・小テスト等 10%、
受講態度・授業への参加度 10%
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	新しい時代と健康教育	オリエンテーション、健康教育の考え方
2	保健科教育の意義と役割	学校保健のなかでの保健学習の意義
3	保健科教育の意義と役割	教育課程のなかでの保健科教育の位置と特質、生涯保健と保健科教育
4	保健科教育の目標と内容	保健科教育の指導理念
5	保健科教育の目標と内容	保健科教育の目標設定を規定する諸条件
6	保健科教育の目標と内容	保健科教育の目標と内容の変遷、内容の系統性と他教科ならびに教科外活動との関連
7	機能発達と心の健康	身体機能の発達、生殖にかかわる機能の成熟、精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康
8	健康と環境	身体環境に対する適応能力・至適範囲、飲料水や空気の衛生的管理、生活に伴う廃棄物の衛生的管理
9	傷害の防止	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当
10	健康な生活と疾病の予防	健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、薬物乱用と健康、感染症の予防、保健・医療機関や医薬品
11	現代社会と健康	健康の考え方、健康の保持増進と疾病の予防、精神の健康、交通安全、応急手当
12	生涯を通じる健康	生涯の各段階における健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や対策
13	社会生活と健康	環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康
14	性教育	理念、わが国における性教育のあゆみと今日の考え方、学校教育のなかでの性教育
15	まとめ	これからの健康教育

《教職に関する科目》

科目名	保健科教育法 I (保健科教育教材研究)		科目ナンバリング	HTHH42003	
担当者氏名	松本 健治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う上で中心的な役割を担っている保健教育の指導方法、授業研究および教材等について正確な知識が身につくよう論述する。

《テキスト》

文部科学省：中学校学習指導要領解説保健体育編 高等学校学習指導要領解説保健体育編 大修館書店：中学校用保健体育教科書

《参考図書》

適宜、補足資料を配布します。

《授業の到達目標》

保健指導では、HR活動や学校行事などの特別活動及び総合的な学習の時間などにおいて、「保健」で身に付けた知識やスキルを生かして課題解決などに取り組むことができるようにする必要があります。また養護教諭が、教材についても常に研究する必要があることも理解できる。

《授業時間外学習》

学習内容の理解度を深めるため、復習と事前配布の講義資料で予習しておくことが肝要です。

《成績評価の方法》

期末試験 80%、課題・小テスト等 10%、
受講態度・授業への参加度 10%
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	オリエンテーション、健康教育の基本知識、教授技術
2	指導計画を規定する因子	指導計画のとらえ方、保健科教育の指導計画の意義、保健科教育の指導計画を規定する因子
3	指導計画立案の手順と観点	年間指導計画、単元計画
4	教材研究と指導案づくり	保健科教材研究の視点と方法、指導案づくりとその実例
5	保健科教育の指導方法 (1)	保健科教育の構成、授業の基本構成、授業展開について、授業形態について
6	保健科教育の指導方法 (2)	保健科教育と教授一学習過程、保健科の教授一学習過程の歴史的变化、実感の伴う教授一学習過程
7	保健科教育の指導方法 (3)	展開技術、授業における具体性について、発問のあり方、思考を促す資料の提示、視聴覚教具の活用、観察・実験実習・調査活動
8	保健科教育の指導方法 (4)	教科書による授業展開、教科書の性格と特性、教科書教材にみられる特徴、教科書による保健学習の留意点、教科書とよい授業実践
9	保健科教育の評価 (1)	評価の意義と役割、評価の主体と意義、評価場面と意義、カリキュラム評価、評価の意義と役割、保健科教育の評価の困難点
10	保健科教育の評価 (2)	評価の対象、教育目標、教育計画、授業準備、授業過程、教育（学習）環境、教育関係者、教育成果の評価、評価過程の評価
11	保健科教育の評価 (3)	評価の実態、評価の過程、評価の方法、記録・伝達、評価の実態、評価をめぐる今後の課題
12	保健科教育の授業研究 (1)	授業研究の動向、授業分析の基盤と方法、授業研究の歴史、授業研究の対象、授業研究の手順
13	保健科教育の授業研究 (2)	保健科教育における授業研究、現状、行動および態度の変容を評価する授業分析、授業研究の体制づくり
14	HQC、発育チャートの活用	HQCを利用した健康づくり、健康診断票の活用
15	まとめ	知識と行動の乖離、行動変容のガイド

《教職に関する科目》

科目名	保健体育科教育法 I (保健体育科教育研究)		科目ナンバリング	HTHH42005	
担当者氏名	後藤 幸弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では、学習指導要領を深く理解するとともに保健体育授業担当者としてふさわしい、基本的な資質や能力を身につけることを目標とする。換言すれば、スポーツは楽しければそれでよいのだという「一種の思考停止・判断停止」に支配されている状態から脱却し、「身体運動文化」の奥深さに触れ、それを教育に生かせるようになることを目標とする。

《テキスト》

後藤幸弘編著「内容学と架橋する保健体育科教育論」晃洋書房
文部科学省「中学校学習指導要領解説(保健体育編)」
文部科学省「高等学校学習指導要領解説(保健体育編)」

《参考図書》

宇土正彦(監修)「学校体育授業事典」大修館書店
日本体育学会(監修)「最新スポーツ科学事典」平凡社

《授業の到達目標》

保健体育科成立の文化基盤である「身体運動文化」への興味・関心、認識・理解を深め、専門知識の習得及び中・高等学校保健体育科の授業担当者として求められる資質や実践的能力を身に付ける。具体的には、教育実習に向けて指導案が書けるようになることを目標とする。

《授業時間外学習》

・ノートをまとめ復習する。また、次時の講義内容に当たるテキストの章を読んでおく。

《成績評価の方法》

・出席も重視します。
・授業における討議への積極的参加(20%)、レポート(20%)及び試験(持ち込み不可)(60%)を総合的に評価する。
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

・質問・連絡等があればメールでも受け付けます。
(ygoto@gaia.eonet.ne.jp)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・保健体育とは(払拭して欲しい5つの誤解)
2	教科の成立基盤と授業の構造	・保健体育科の成立基盤と授業の構造(含む、教師論)
3	保健体育授業の目標	・保健体育授業の目標と学力について
4	学習指導要領	・学習指導要領について
5	運動領域	・運動領域の編成と教育内容の構成について(欲求・発達・運動特性から) ・競争について
6	教育内容1	・教育内容の指定の方法I(陸上競技の短距離走を例に、速度曲線から) 運動課題から学習課題を導出すれば教育内容が見えてくる
7	教育内容2	・教育内容の指定の方法II(リレーを例に) ゴール位置の発見の方法
8	普遍的教育内容	・技術、ルール、戦術、マナーの関係について
9	ルール	・技術・ルールについて(レポート:技術・ルールの変遷について)
10	水泳の学習指導	・水泳の科学的基礎の理解(浮く、呼吸、推力の創出)
11	学習指導	・各種の学習指導法について
12	指導案の作成	・学習指導案作成の留意点(レポート:指導案の作成)
13	作成した指導案の検討	・運動が上手にできる子を育てる要件を中心に
14	教師行動	・教師の4大教授行動、望ましい心情をそだてる4条件
15	まとめと試験問題の検討	・作成した試験問題の検討を通して講義のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論	科目ナンバリング	HTAL42008
担当者氏名	砂子 滋美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する。また実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得を目的とする。①わが国の特別活動の歴史と変遷について ②特別活動の意義と目的について ③学習指導要領における特別活動の位置づけについて ④他の教育領域との関わりについて等を中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解する。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(60%)、授業態度(20%)、ミニレポート(20%)により評価する。

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい特別活動-理論と実践』 (ISBN978-4-623-07258-3) ミネルヴァ書房 2015年

《参考図書》

文部科学省 『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』 2012年、『教育人間学的視座から見た「特別活動と人間形成」の研究』大学教育出版 2009年、広岡義之編著 『新しい特別活動論』創言社 2009年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートの整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特別活動全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動と学習指導要領の変遷。特活への期待	戦後特別活動の実施の経緯と発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。特別活動の充実が学校生活の満足度に関係することを理解する。
3	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説・分析し理解する。
4	特別活動と学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
5	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)Ⅰ	特別活動における学級活動・ホームルームの位置づけ、内容を説明し、その特徴を明確にする。
6	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)Ⅱ	学級活動・ホームルームの学級内の組織づくりや仕事の分担処理の方法を理解する。
7	児童会・生徒会活動と学習指導要領	児童会・生徒会活動の内容を解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことを理解する。
8	学校行事(儀式的行事)について	儀式的行事の内容と意義を理解し、これらの行事の課題について考える。
9	文化的行事について	文化的行事の内容と特徴を理解し、教科指導と特別活動との関連を明確にする。
10	健康安全・体育的行事について	健康安全・体育的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
11	旅行・集団宿泊的行事について	旅行・集団宿泊的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
12	勤労生産・奉仕的行事について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を理解し、これらの行事の課題について考える。
13	特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	指導計画作成や内容の取り扱いについて理解し、入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取り扱いを明確にする。
14	特別活動学習指導案作成	学級の児童・生徒の様子から、題材を設定し学習指導案を作成し、本時のねらいを達成する授業展開を考える。
15	講義全体のまとめをする	特別活動はいつの時代にも、常に学校生活の基礎として重要な役割を果たしていることや特別活動の充実が学校生活の満足度に深く関わっている等を振り返る。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	HTAL42009
担当者氏名	吉永 潤		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本講義では、学習者が能動的に参加するような授業を展開するための基本的な方法・技術を学ぶ。特に、学習者の思考を触発し、教科内容の本質に迫らせる問いや課題を設定する方法と、その問い・課題をめぐる学習者の考え・意見の交流を支援する方法、および、そのような学習を評価する方法が軸となる。

《テキスト》

特に指定しない。必要に応じてワークシートを配布する。

《参考図書》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する』東信書房、2015年。

《授業の到達目標》

①授業が、教科内容伝達の場合だけでなく、学習者の思考と試行錯誤の場合であることが理解できる。②そのような授業の展開のためには的確な方法・技術が必要であることが理解できる。③ペーパーテストのみに依存しない多様な観点での学習者評価の意義と方法が理解できる。④以上を踏まえた学習指導案を作成できる。⑤開発した学習指導案につき、相互に適切に評価・批評し合うことができる。

《授業時間外学習》

集中講義は4日を予定しているが、2日目の最後に4～5名のグループを編成し、各グループで一つの学習指導案を開発することを課題とする。このため、授業時間外に各グループで、またはグループ内個人で分担して教材研究、授業の流れの設計、評価方法の考察などを行う。授業4日目には、開発した授業案につき各グループのプレゼンテーションを行う。

《成績評価の方法》

評価方法は、①各授業最後に実施する小レポート、②グループ作成の学習指導案、③最終レポートによって行う。評価割合は①20%、②30%、③50%。小レポートには、質問を記載することもでき、次時に回答を行う。また、各グループの学習指導案プレゼンテーションの後に講評を行う。

《備考》

講義3、4日目は特に、学習指導案作成のグループワークを中心としたアクティブ・ラーニング形式となるため、受講生各自の積極的な参加を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	受講者各自の小中高段階での授業体験を交流し、各自の現在の授業観・学習観を確認する。
2	授業づくりの基本的な考え方	授業＝話を聞く場との基本的授業観の問題性を確認し、授業を学習者の思考と試行錯誤の場として再認識する。
3	授業目標の定立	授業目標の定立のためには、①教科内容に関する知識と理解形成の観点と、②それをめぐる学習者の思考の技能や知識活用の技能の形成、の2観点が必要である。
4	学習を触発する問い・課題の構成	授業づくりの核となるのは、教科内容の本質に迫るとともに、学習者の解明意欲をかきたて、結果として学習者各自の意見を持たせる問いや課題の構成である。
5	学習を多面的に見取る評価	ペーパーテストは知識、理解の修得を事後的に評価するのに適するが、授業内における学習者の思考の展開や課題解決行動の評価を行うには、別の評価観点と方法を要する。
6	授業事例の視聴1	「授業の中で学習者がめざましく成長する」ことを実感するため、優れた授業の事例を視聴する。
7	授業事例の視聴2	上記視聴を継続する。
8	視聴した授業の考察とその交流	視聴した授業に関して、小グループごとに、教師の方法・技術の観点から分析を行い、その考察結果を発表・交流する。
9	学習指導案の開発1	本講義これまでの内容を踏まえ、小グループごとに学習指導案の作成に着手する。本時は、開発する授業について学校種、教科、単元を相談の上定める。
10	学習指導案の開発2	本時は、グループごとに、開発する授業の目標、核となる教材の構成、それをめぐる問い・課題の開発、および、学習者の思考内容を交流させる方法の定立を行う。
11	学習指導案の開発3	本時は、グループごとに、開発した授業における学習者の評価基準と評価方法を定立する。
12	学習指導案プレゼンテーション1	開発した学習指導案の発表を行う。授業目標、核となる教材の教科学習上の意義、学習者の予想される思考内容、それを交流させる方法、および学習評価の方法を発表する。
13	学習指導案プレゼンテーション2	上記発表活動を継続する。
14	学習指導案プレゼンテーション3	各グループの発表後、それぞれの指導案につき、評価点と批評点を出し合い、相互評価を行う。
15	総合考察・まとめ	参加者は、受講開始時の授業観を振り返り、本講義によって得た学習内容を整理、報告し、それをめぐる交流を行う。その後、授業を総合的に振り返り、まとめを行う。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論	科目ナンバリング	HTAL42010
担当者氏名	新井野 久男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%), レポート(40%), その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

授業の最後に提出する小レポートにコメントを記して、次の授業時に返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

平成27（2015）年度入学者

専門教育科目

科目名	医学概論		科目ナンバリング	HOAB23015	
担当者氏名	長尾 光城、伊藤 純、兒玉 拓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

医学は基礎医学、社会医学、臨床医学に大別される。本講義では基礎医学的にはスポーツに関する解剖生理、社会医学ではスポーツを通じて、予防医学と公衆衛生学を理解する。臨床医学では整形外科と内科学の両面からスポーツを考える。

《テキスト》

随時、プリントを配布する。

《参考図書》

新版スポーツ整形外科学 監修 中嶋寛之、編集 福林 徹・史野根生（南江堂） 2011

《授業の到達目標》

代表的なスポーツ傷害（外傷・障害）、メディカルチェックについて学ぶ。生活習慣病の予防の理解を深める。スポーツが関わる呼吸循環器と腎泌尿器を通して、疾患の理解を深める。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味をノートに整理しておくこと

《成績評価の方法》

筆記試験60%、出席20%、レポート20%
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

スポーツと医学を中心に学んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	スポーツ医学総論	メディカルチェックについて理解する。
2	メディカルチェックの応用	メディカルチェックの測定項目を通じてスポーツ傷害を考える。
3	スポーツ傷害	代表的なスポーツ外傷・障害について理解する。
4	循環器総論	循環器の解剖生理について理解する
5	スポーツと循環器	スポーツが循環器に及ぼす影響について理解を深める。
6	呼吸器総論	呼吸器の解剖生理について理解する。
7	スポーツと呼吸器	スポーツが呼吸器に及ぼす影響について理解を深める。
8	血液の見方（1）	基本的な血液データの見方を理解する。
9	腎泌尿器総論	腎泌尿器の解剖生理について理解する
10	スポーツと腎泌尿器	スポーツが腎泌尿器に及ぼす影響について理解を深める。
11	血液の見方（2）	腎泌尿器についての血液データの見方を理解する。
12	メタボリックシンドロームについて	メタボリックシンドロームについて理解する。
13	スポーツと生活習慣病	生活習慣病予防のためのスポーツのあり方を学ぶ。
14	ロコモティブシンドロームについて	ロコモティブシンドロームについて理解し、予防方法を考える。
15	スポーツマッサージ	回復力を高めるためのマッサージ方法を学ぶ。

科目名	生活習慣病(成人病)		科目ナンバリング	H0DB23016
担当者氏名	兒玉 拓			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解) ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合) ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力)			

《授業の概要》

過食や運動不足など不健康な生活習慣によりメタボリック症候群が発症する。メタボリック症候群には高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満等の治療が重要である。本講義では、現時点で明らかであるメタボリック症候群の発生機序を学習するとともに適切な栄養管理や運動指導の実際を理解して疾患発生予防に必要な知識を獲得することを目的とする。

《テキスト》

なし。講義時に資料を配布する。

《参考図書》

『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』(財団法人 健康・体力づくり事業団)

《授業の到達目標》

- 近年のメタボリック症候群発症増加について社会的背景について説明できる
- メタボリック症候群の診断基準や発症機序を説明できる
- メタボリック症候群の予防や治療としての栄養管理・運動指導が適切に実践できる

《授業時間外学習》

講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。必要に応じてグループによる課題作成等の学習を加える予定である。

《成績評価の方法》

定期試験70%、平常評価30%(授業における質問への対応、課題への取り組み)なお講義中の受講姿勢に問題がある学生は必要に応じて減点される。講義の理解を確認するため、数回のレポートを作成する。

《備考》

課題の提出は期限を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活習慣病概論	我が国の高齢化の進行に伴い急速に生活習慣病が増加している。本講義では生活習慣病の歴史的な変遷から生活習慣病の予防等について概説する。
2	肥満症	肥満症の診断基準を学ぶと同時に肥満症発症メカニズムについて理解する。肥満症の予防や治療方法について正しい知識を習得する。
3	高血圧症(1)	血圧の維持に必要な心・血管機能について基本的な知識を習得する。合わせて異常血圧発症メカニズムについて理解する。
4	高血圧症(2)	高血圧の診断基準と高血圧治療としての運動療法・食事療法・薬物療法について理解する。
5	糖尿病(1)	糖尿病の発症機序と分類、診断基準および糖尿病の合併症について理解する。
6	糖尿病(2)	糖尿病の治療方針、食事療法・運動療法・薬物療法について理解する。
7	脂質異常症	血中脂質の成分、リポ蛋白の機能およびその破綻について理解するとともに脂質異常症のコントロールとしての運動療法・食事療法・薬物療法を概説する。
8	メタボリック症候群	血圧、血中脂質、血糖および腹周によるメタボリック症候群の診断基準を理解し、発症予防のための知識を習得する。
9	虚血性心疾患(1)	動脈硬化の発生機序と心臓における虚血病態の進展メカニズムを理解する。
10	虚血性心疾患(2)	種々の動脈硬化性心疾患の症状、および適切な運動リハビリテーションの方法について理解する。
11	脳卒中	種々の動脈硬化性脳疾患(脳出血・脳梗塞・脳血栓等)の症状、および適切なリハビリテーションの方法について理解する。
12	骨粗鬆症	正常の骨代謝についての知識を習得するとともに骨量低下による骨粗鬆症の発症機序について理解する。
13	高尿酸血症・痛風	基礎的な正常な尿酸を理解するとともに高尿酸血症の発症機序と進展、その予防と治療について学習する。
14	関節リウマチ	自己免疫性疾患である関節リウマチを中心に正常免疫反応とその異常について学習する。
15	まとめ	学習した内容を再確認する。

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	HOXB23018
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

臨床心理学とは人のこころを理解しようとし人にとっての意味を理解しようとする心理学である。こころの世界の開拓者フロイトは大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の重要性を発見した。この授業の中で「こころ」の研究の歴史を辿り人と人とは関わることによって育まれる「関係性」について知り、自分自身と他者のこころを理解できるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る
- ・対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親との関係性と関連させて、より適切な関わりが実践できるよう学ぶ。
- ・さまざまな人に対応できる福祉レクリエーションのエッセンスを身につけ、身体を動かす楽しさを指導できるよう学ぶ。

《成績評価の方法》

受講態度30%
 レポート20%
 筆記テスト50%
 レポートは指定する日程で返却するので、必ず取りに来て下さい。

《テキスト》

「救う力」人のために自分のためにいまあなたができること
 吉岡秀人（2014）廣済堂出版 本体1400円

《参考図書》

授業内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

テキストを読んで、最終授業日までにレポートを提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学の基本的な考え方を知る
2	フロイトの発見	無意識をめぐって、フロイトの発見から考える
3	フロイトの精神分析①	自由連想法について知る
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いて学ぶ
5	ユングの分析心理学①	ユング自身の人生と分析心理学について知る
6	ユングの分析心理学②	ユングのタイプ論を知る
7	乳幼児期のこころの発達①	赤ちゃんの不安の源泉 メラニー・クラインの精神分析理論を知る
8	乳幼児期のこころの発達②	マーガレット・マラーの分離・個体化過程とウィニコットのホールディングについて学ぶ
9	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法を知る
10	箱庭療法①	ユング心理学と箱庭療法の関連について知る
11	箱庭療法②	箱庭療法の実際を学ぶ
12	行動療法・認知行動療法	行動療法の理論と、考え方や思考のくせに気づき改善していくための認知行動療法を知る
13	ソーシャル・スキルトレーニングについて	児童・障害者を支援するためのSSTについて学ぶ
14	身体を動かすレクリエーションについて	遊戯療法の応用として、さまざまな人たちに活用できる福祉レクリエーションのエッセンスを学び活用できるよう学習する
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認を行う

科目名	教育特論Ⅱ	科目ナンバリング	H0CC23020
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）		

《授業の概要》

特論Ⅰで考察したキャリアプランと課題意識に基づいて、就職活動や採用試験に向けた各自の目標と現状を明確にし、実践力を養う。筆記試験、小論文、グループディスカッション、グループワーク、面接（個人・集団）などの目的（企業や公共団体が採用試験に取り入れる理由など）や方法（最近の傾向など）について理解を深め、体験することによって、進路実現のために必要とされる力の習得を目指す。

《授業の到達目標》

- 自分の進路に対する具体的な目標と、その実現に向けての個人的課題を踏まえて、課題克服のための具体的な計画を立案し実行することができる。
- 課題に対して真摯に向き合い、解決までのプロセスを論理的に構築し、他者とのコミュニケーションを通じて課題を達成することができる。

《成績評価の方法》

ワークシートやレポート等の提出物（45%）
 授業における活動状況（45%）
 進路実現に向けた授業時間外の活動状況（10%）
 ＊提出物はコメントをつけて返却する。授業中の活動については、各授業の最後に教員による総括と講評を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	就職活動を知る 学科の専門性と職業	就職活動にあたって：態度と心構え 学科の専門性と具体的な職業との関係について考える
2	就職のタイムスケジュール ①：適性試験	適性試験を受けて自己の適性を自己分析し、さまざまな職業との関係を考える
3	就職のタイムスケジュール ②	就職までのステップとタイムスケジュールの確認
4	就職のタイムスケジュール ③	各自の就職活動に向けて幅広い立場・観点から、具体例をみる （先輩の体験談、質疑応答など）
5	エントリーシートの書き 方①	自己PRと志望動機の書き方 自分を知る：自己分析をしてみよう、自己PRのネタを探そう
6	エントリーシートの書き 方②	自己PRと志望動機の書き方 実際に書いてみて、添削と相互評価を行う
7	筆記試験：SPI	SPIとは 模擬テストと結果の自己分析
8	個人面接①	面接（個人、グループ）のマナーとポイント 模擬面接（個人）
9	個人面接②	模擬面接（個人）と自己評価・相互評価
10	グループ面接①	模擬面接（グループ）（1）
11	グループ面接②	模擬面接（グループ）（2）と自己評価・相互評価
12	グループディスカッショ ン①	グループディスカッション理論編 グループディスカッションの基礎練習（1）
13	グループディスカッショ ン②	グループディスカッションの基礎練習（2） グループディスカッションの準備
14	グループディスカッショ ン③	グループディスカッションと自己評価・相互評価
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるようにする

《テキスト》

オムニバス形式の授業であるため、適宜プリントを配布する。

《参考図書》

《授業時間外学習》

あらかじめ、自分の進路に必要な学習内容を把握して、自主的に学習を進めておくこと。
 課題克服のために必要な活動を積極的に進めておくこと。

《備考》

模擬面接（個人、集団）を実施する際は、スーツを着用すること。学習支援センターで授業を行う場合もあるので、連絡事項をよく確認すること。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	教育特論Ⅲ		科目ナンバリング	H0CC23021	
担当者氏名	木下 幸文、加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する (総合的判断力・実践力) ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる (コミュニケーション力) ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる (リーダーシップ) 				

《授業の概要》

キャリアステップの最終段階として、学生はこれまでの学習内容を丁寧に見直すと共に、目標に沿って主体的に学習を進めることを求められる。Ⅲでは、教職課程を履修する学生のための教職専門や教科専門の学習に特化し、将来に生きる学修となるよう進めていく。授業は、専門性に応じて、全員あるいはグループに分かれ、学習内容に適した方法でおこなう。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業の到達目標》

- 実習校に即した指導案を作成し、また、その完成度を高める
- 教育観、教師観、教育課題などを自らのことばで説明できる
- 教採試験内容を理解し、正答率を上げる

《授業時間外学習》

自己の学習の進度に応じ、次年度に向けた学習を計画的に進める。学習の中心は、時間外学習(家庭学習)にある。

《成績評価の方法》

確認テスト(30%)、課題提出(20%)、最終試験[教採模試](50%)

確認テストは時間内に解答解説を行う。課題についてはコメントをつけて返却する。

《備考》

実習の期間及び教採試験日程の関係上、一部、土曜日開講を行う。本演習は教職を志望する学生のみ対象とした科目である。一部はアクティブラーニングゾーンで実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法についての説明、担当者の紹介、内容の確認
2	学習計画の作成 専門演習	教員採用試験の日程確認と各自の学習計画の作成 専門科目の試験対策演習
3	専門演習	専門演習と解説 (体育系は体育の指導案作成指導を受け、指導案を作成することができる) (養護系は保健指導案作成を受け、指導案を作成することができる)
4	エントリーシートの作成	エントリーシートの記入の添削を受け、エントリーシート作成の理解を深める
5	専門演習	専門演習と解説 (体育系は体育の指導案作成の課題発表し、理解を深める) (養護系は保健指導案提出)
6	確認テスト① 傾向と対策	確認テストの結果をもとに、対応策を練る
7	専門演習	専門演習と解説
8	専門演習	専門演習と解説
9	専門演習	専門演習と解説
10	県別一次試験対策	面接等の有無に伴う個別対応
11	確認とテスト② 弱点補強	確認テストの結果をもとに、弱点強化の対策を講じる
12	専門演習	専門演習と解説
13	専門演習	専門演習と解説
14	専門演習	専門演習と解説
15	授業のまとめ[模擬試験]	最終確認を行う

科目名	地域活動演習 I	科目ナンバリング	H0CC23022
担当者氏名	徳田 泰伸、河野 稔		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）		

《授業の概要》

地域社会における運動指導現場やボランティア現場等に参加し、実際の活動を通して、社会人としての行動を身につけ、指導者・教育者としての心構え、指導法、および、現場における課題等を体験的に学習する。実習先は、公共・民間のフィットネス施設、各種スポーツクラブおよびチーム、学校や教育施設、地方公共団体や非営利目的の諸団体等、その他、担当者が認めた施設・各種団体である。

《授業の到達目標》

- 地域の活動現場において、現場にいる人々と協力して行動できる。
- 大学での学修成果を、現場での指導や教育などの活動に生かせる。
- 現場での諸問題を理解し、その解決に向けて主体的に取り組める。

《成績評価の方法》

実習の記録（40%）、実習後の報告（40%）、平常点（20%）とする。
 記録には評価コメントを付して個人に伝える。
 報告はスピーチをして全員に伝えること。
 またレポートには個人にコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の内容について話し合う。特に実習先の検討。学生の実習先の希望等について打ち合わせる
2	実習のシミュレーション(1)	実習先でのシミュレーションを行い、実習場面で発生する問題等について議論する：スポーツ組織の運営等
3	実習のシミュレーション(2)	各施設先（実習先）を想定し、2週目で発生した諸問題について検討し、指導力を養うための講義とするスポーツ組織の運営等
4	学外実習	実習先での授業（第1回目 挨拶、打ち合わせ、仕事の内容等について現場指導者との協議に入る）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
5	学外実習	実習先での授業（第2回目 仕事の内容について具体的な指示を受ける）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
6	学外実習	実習先での授業（第3回目 仕事の実践を通して客と対応していく）対応した内容について反省と明日への対応を検討する。広域スポーツセンターについて考える
7	学外実習	実習先での授業（第4回目 第3回目と同じく仕事の内容に対して反省と自分らしさの指導力を発揮していく）あわせて広域スポーツセンターの機能と役割についても学ぶ
8	学外実習	実習先での授業（第5回目 第4回目の内容をふまえ、自分の指導力への客の反応を反省し、明日への計画に生かしていく）地域におけるスポーツ振興について考える
9	学外実習	実習先での授業（第6回目 第5回目と同じく指導力を発揮し、その内容をふまえ、何が足りないか常に、との繋がりを重視する）地域におけるスポーツ振興について考える
10	学外実習	実習先での授業（第7回目 第6回目の内容をふまえ、実習後半の指導力を反省し、理論と実践を身につけていく）
11	学外実習	実習先での授業（第8回目 第7回目をふまえ、理論と実践が片寄りのない指導になっているかを検討する）
12	学外実習	実習先での授業（第9回目 第8回目をふまえ、各自の指導力が客に対して、評価がどのようなものかを確認する）
13	実習の反省	本学での授業の中で実習先での諸問題等について報告し反省会を開く
14	実習記録の作成	実習先での実習録を作成し、全員でまとめる（各施設ごと）
15	実習報告	各自の報告を発表形式で行う

《テキスト》

授業中に資料を配布する。

《参考図書》

ヘルス&フィットネス実務マニュアル「フィットネスクラブ内
 ○秘実務業務の手引書」（現場マニュアル）

《授業時間外学習》

予習としては、配布資料をよく読み、実習に備えておくこと。
 復習としては、実習中の記録を適宜まとめておくこと。

《備考》

原則として、実習先の施設・各種団体へは自らの意思で参加すること。また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ指導法		科目ナンバリング	H1DX23040
担当者氏名	矢野 琢也			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ◎ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力） 			

《授業の概要》

スポーツ指導者の役割は、「プレーヤー自信がなりたいと思う自分に近づくために、その活動をサポートすること」である（日本体育協会テキストより）。その上で、目的を達成するためにどのような手段や方法を用いるのか、安全性や指導者の倫理観など幅広い内容を学びながら指導者としての基礎を身につける。

《授業の到達目標》

以下のことができることを目標とする。1) 指導者としての役割、心得について説明ができる。2) 指導に必要な基本的理論の説明ができる。3) 基礎的な指導計画案が立てられる。

《成績評価の方法》

出席回数が授業回数2/3未満は評価対象外とする。期末の筆記試験70%、課題レポートなど30%。質問や評価等に関してはオフィスアワーで適宜対応する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価法、狙い、注意事項などの説明。
2	指導計画について-1	スポーツ指導における計画について、トレーニングの原理・原則の面からその重要性やその構成要素を学ぶ。
3	指導計画について-2	年間計画、学年等のカテゴリー毎の計画を中心に実際の指導計画について学び、立案、プレゼンテーションを行う。
4	スポーツ指導者について	スポーツ指導者の役割、心構え、視点、育成プログラムの理念などを学ぶ。
5	救急処置	スポーツ活動中に発生する怪我並びに救急処置法に関して復習も含めてその方法を学ぶ。
6	スポーツと人権、倫理観	スポーツ倫理と基本的人権について指導者の立場から学ぶ。
7	スポーツにおける動機付け	動機付けの役割や意味、構成要素等を学ぶ。
8	一貫指導システムについて	指導計画について。長期一貫指導システムに関してその内容と重要性を学ぶ。
9	一貫指導システムについて	指導計画について。国内外の長期一貫指導システムに関して事例報告から学びプレゼンテーションを行う。
10	コーチングの心理	指導における心理（個人、集団、性差、年齢など）の特徴について学ぶ。
11	対象に合わせた指導	女性とスポーツに関してその特性などを学ぶ。
12	対象に合わせた指導	ジュニア期における指導についてその特性などを学ぶ。
13	スキルの獲得と獲得過程	スキルの概念、構成要素、その獲得過程について学ぶ。
14	指導法の事例研究	指導法の事例から、これまで学んだ内容の確認等を行う。
15	指導法の事例研究とまとめ	指導法の事例から、これまで学んだ内容の確認等を行う。合わせて全体のまとめを行う。

《テキスト》

公認スポーツ指導者養成テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ（日本体育協会）

《参考図書》

「スポーツ・コーチング学」西倉書店、「スポーツコンディショニング」大修館書店、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「クリエイティブ・コーチング」大修館書店

《授業時間外学習》

テキストを各自購入の上で、実際に現場等でその内容の確認並びに実践を積極的に行ってください。積極的なディスカッションができるように事前に各自予習をした上で授業に出席すること。

《備考》

指導養成を目的としています。よって積極的な取り組みを期待します。授業に取り組む姿勢（時間厳守など）から指導者を目指す者としての資質を強く求めます。

科目名	スポーツ医学概論	科目ナンバリング	H1DX23008
担当者氏名	朽木 勤		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）		

《授業の概要》

これまでに習慣的な運動が生活習慣病の病態改善や心血管系疾患の発症リスクを軽減することが明らかにされている。運動指導に携わる者は対象者に運動を負荷したとき、どのようなメカニズムによってその効果が得られるのかという本質を理解しておかなければならない。本講義では生活習慣病に関連する医学的基礎知識から治療につながるような運動の効果について講述する。

《授業の到達目標》

生活習慣を改善することにより、疾病の発症や進行が予防できる疾患と定義されている生活習慣病は、「一次予防」すなわち健康を維持・促進して疾患の発症を予防することを目標としている。運動は疾患の発症を予防するだけでなく、生活習慣病に対する運動療法としても注目を集めている。本講義を通じて、主に生活習慣病に対する治療や予防に効果的な運動を類別できるようにする。

《成績評価の方法》

講義時間中に行う発表と討論、課題テストで評価を行う。具体的には、必要な資料作成（40%）、口頭発表（10%）、質疑（10%）、課題テスト（40%）を合わせて総合的に評価する。わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2016年

《参考図書》

「健康づくりのための身体活動基準」（厚生労働省）、「健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）」（厚生労働省）、「運動処方指針原書第8版」アメリカスポーツ医学会（南江堂）、「スポーツ医学研修ハンドブック 基礎科目」日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会（文光堂）

《授業時間外学習》

講義中に行う発表に関する資料について、専門用語や内容について学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康づくりにおける運動のあり方	疾病の治療、特に生活習慣病に対する運動の効果や在り方について理解する
2	健康づくりのための身体活動基準	健康づくりのための身体活動指針について（その目的や意義について）説明することができる
3	生活習慣病の運動療法(1)	虚血性心疾患、肥満に対する運動の効果について理解する
4	生活習慣病の運動療法(2)	糖尿病に対する運動の意義(1) 運動とインスリン感受性の関係について理解する
5	生活習慣病の運動療法(3)	糖尿病に対する運動の意義(2) 運動と糖輸送蛋白の関係について理解する
6	生活習慣病の運動療法(4)	高血圧症に対する運動の意義(1) 運動による昇圧と降圧の機序について理解する
7	生活習慣病の運動療法(5)	高血圧症に対する運動の意義(2) 運動処方として適している身体活動の種類について理解する
8	生活習慣病の運動療法(6)	脂質異常症に対する運動の意義(1) 運動と脂質代謝について理解する
9	生活習慣病の運動療法(7)	脂質異常症に対する運動の意義(2) 運動と脂質代謝の調節機構について理解する
10	生活習慣病の運動療法(8)	動脈硬化症に対する運動の意義(1) 運動とずり応力、一酸化窒素について理解する
11	生活習慣病の運動療法(9)	動脈硬化症に対する運動の意義(2) 有酸素運動とレジスタンス運動の差異について理解する
12	女性とスポーツ	競技スポーツや身体活動が生体に及ぼす影響について理解する
13	運動と免疫機能	運動と炎症反応、その防御機構について理解する
14	運動と活性酸素	運動による活性酸素の消去システム機構について理解する
15	総括（課題テスト）	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することが出来る

科目名	障害者スポーツ論		科目ナンバリング	H1DX23010	
担当者氏名	増田 和茂、樽本 つぐみ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

スポーツは健常者だけが楽しみ豊かな生活と健康維持増進のために行うものではなく、障害がある者も同等に必要であり、権利として認められるものである。障害者が安心・安全にスポーツに取り組み、また、健康維持と社会参加への推進のために、障害を理解し、理論と実技の知識と実践指導力を身につける。

《テキスト》

障害者スポーツ指導教本（初級・中級）（株）ぎょうせい
 全国障害者スポーツ大会競技規則集
 （公財）日本障害者スポーツ協会

《参考図書》

アダプテッド・スポーツの科学－障害者・高齢医者のスポーツ実践のための理論－ 市村出版
 スポーツのリスクマネジメント：小笠原 正共著、ぎょうせい

《授業の到達目標》

1 スポーツの指導は年齢、性別、体力、技能と障害の有無など個々の対象に適応した運動の方法や運動量を指導することである。2 個人に応じた競技スポーツから健康維持増進のためのスポーツに対し、アダプテッドスポーツ（適応させる）の考知識、3 幼児から高齢者、そして障害者への創意工夫の理論と実技指導ができる指導者を養成する。

《授業時間外学習》

別日程で障害者スポーツセンターで車いすバスケットボールや視覚障害者の卓球などを体験学習（実技）する。

《成績評価の方法》

到達目標の1と2については試験、3については、レポート作成とする。配点は試験40点、レポート60点、100点満点とし、60点以上を合格とする。レポートにコメントを付して返却する。

《備考》

初級障がい者スポーツ指導員の資格認定科目である。本学体育館で実技を3回行う。体育館使用のため授業日が変更することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害者福祉施策と障害者スポーツ	障害者の福祉施策と障害者のスポーツの基本的な知識を学び、現状と課題に触れる。
2	ボランティア論	障害者のスポーツ推進には、ボランティアの支援は欠かせない人財であり、その具体的な事例を学ぶ。
3	障害者スポーツの意義と理念	障害者がスポーツを行うことの意味と心身及び社会的な効果、具体的な事例から実際に対応できる知識を学ぶ。
4	日本障害者スポーツ協会資格認定制度	障害者スポーツの制度とその役割を知り、資格取得後の活動行動へ運動させる知識と情報を得る。
5	障害の理解とスポーツ（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
6	障害者に応じたスポーツの工夫（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
7	障害の理解の理解とスポーツ（知的障害）	知的障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
8	障害者に応じたスポーツの工夫（知的障害）	知的障害のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
9	障害の理解の理解とスポーツ（精神障害）	精神障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
10	障害者に応じたスポーツの工夫（精神障害）	精神障害のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
11	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の概要、競技と種目、各競技規則を学び、予選ブロック大会やその選考大会となる各種大会を学ぶことで指導現場での情報を知る。
12	指導上の留意点と事例	障害、残存機能、性別、年齢、個人のスポーツ経験や目的に対応した指導上の留意点を学び事例報告から実践的な知識を身につける。
13	障害者との交流	障害のある方から具体的な生活、地域とのかかわりやスポーツに取り組むための現状と課題を聴き、社会や個人ができることを考究する。
14	安全管理と事例	スポーツの実施には、障害の有無に関わらず安全で効果的な運動が原則である。その中で障害者スポーツの事故事例などを学び、安全管理能力を習得する。
15	障害に応じた新たなスポーツの企画	障害者スポーツの指導や事業を計画するテーマから、プラン、実施、評価を踏まえてのシミュレーションをチームで企画する。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ科学 I		科目ナンバリング	H1DX23012	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

トレーニング指導において、運動生理学、解剖学、トレーニング理論等の科学的な基礎知識無しでは効果的な結果は得られません。よって、これらの知識をもとに競技力向上を目的としたトレーニング方法について学びます。1~3年生までに学んだ基礎知識をもとにその応用です。数回のレポート課題による理解力、プレゼンテーション能力の習得も行います。

《授業の到達目標》

トレーニング指導者として必要な基礎知識の獲得を目標とします。また、「聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く」といった作業を徹底して行い、指導者として必要な資質の習得も目標とします。

《成績評価の方法》

数回のレポート(50%)とテスト(50%)の結果のみで評価します。レポート等の提出物は期限厳守です。原則遅れは受理しません。不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「ストレングストレーニング&コンディショニング」ブックハウスHD、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「パワーアップの科学」朝倉書店、「臨床スポーツ医学」医学映像教育センター、「スポーツ・健康科学」放送大学、「エクササイズ科学」文光堂、「スポーツ生理学」化学同人

《授業時間外学習》

シラバスで授業内容を確認して予習をするように。また、各自が実際に運動やトレーニングを行い、理論の確認や疑問点の発見を行うことを強く希望します。少しでも多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《備考》

トレーニング指導者養成のための授業を行いますので、その強い意思のある者の履修を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法等の説明をします。受講者は必ず出席すること。
2	トレーニングの原理原則	トレーニングの原理原則について学ぶ。
3	筋の構造とメカニズム	筋の構造とメカニズムについて学ぶ。
4	筋活動におけるエネルギー系や神経系	筋活動におけるエネルギー系や神経系のメカニズムについて学ぶ。
5	筋組成（遅筋）の特徴	筋組成（遅筋）の特徴とトレーニング効果について学ぶ。
6	筋組成（速筋）の特徴	筋組成（速筋）の特徴とトレーニング効果について学ぶ。
7	AT、LT、VT、OBLA	AT、LT、VT、OBLAについて理解する。
8	パワー	パワーに関する基礎知識および強化方法を習得する。
9	筋持久力	筋持久力に関する基礎知識および強化方法を習得する。
10	有酸素性持久力トレーニング	有酸素性持久力トレーニングに関する基礎知識および強化方法を習得する。
11	エネルギー補給と代謝	エネルギー補給と代謝に関する基礎知識および実践方法を習得する。
12	ジュニアアスリートにおけるトレーニング	ジュニアアスリートにおけるトレーニングについて障害防止の視点から学ぶ。
13	高齢者を対象としたトレーニング	高齢者を対象としたトレーニングとその効果について理解する。
14	ディ・トレーニング	ディ・トレーニングについて学ぶ。
15	まとめ	まとめ&トピックスを交えながら補足を行う。

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目ナンバリング	H1DX23013
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

スポーツ科学Ⅰの応用編です。実技と講義を併用します。競技力向上を目的としたトレーニングの基本を学びます。実際にHRモニターで心拍数の計測や乳酸値の計測を行ったりしながら理論の確認を行います。トレーニング科学を実際に活用するために必要な知識や技術の獲得を狙います。

《授業の到達目標》

競技力向上を目的とした指導者養成を目標とし、トレーニングの基本的な理論の習得ならびにメニューの作成ができることを目指します。実際にHRモニターや乳酸測定機器等を用いて計測やデータの分析が行えることを目指します。

《成績評価の方法》

数回のレポート（50%）とテスト（50%）の結果のみで評価します。提出物の期限は厳守です。原則遅れは受け取りません。不明な点等はオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《テキスト》

「スポーツ生理学」化学同人 ¥2,600+税

《参考図書》

「長距離選手の生理科学」杏林書院、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「中長距離ランナーの科学的トレーニング」大修館書店、「高所トレーニングの科学」杏林書院、「運動生理・生化学事典」大修館書店、「スポーツ医科学」杏林書院、「乳酸をどう活かすか」杏林書院、「持久力の科学」杏林書院

《授業時間外学習》

シラバスを確認の上で予習をすること。また、各自でHRモニターの使用方法の習得のための時間を確保するように（実際に走って記録を取るなど）。

《備考》

トレーニング指導者を目指す学生の受講を求めます。少しでも多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講者は必ず参加すること。
2	呼吸機能について	呼吸機能の特性について学ぶ
3	循環機能について	循環機能の特性について学ぶ
4	骨格筋について	骨格筋の特性について学ぶ
5	無酸素性、有酸素性能力について	無酸素性、有酸素性の能力の特性について学ぶ
6	内分泌系、血液成分について	内分泌系や血液成分の特性について学ぶ
7	水分補給、体温調整	体温調節機能と水分補給について学ぶ
8	身体組成について	身体組成の特徴について学ぶ
9	持久的トレーニング	トレーニングと効果について学ぶ
10	トレーニング計画	トレーニング計画の作成（ピリオダイゼーションを含む）
11	ウォーミングアップ&クーリングダウン	ウォーミングアップ&クーリングダウンの必要性や方法
12	エネルギー補給	競技力向上のためのエネルギー補給
13	障害について	アスリートを対象とした障害の発生とその原因、防止-1について学ぶ
14	障害について	アスリートを対象とした障害の発生とその原因、防止-2について学ぶ
15	まとめ	全体のまとめ&補足

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体育実技指導法 I		科目ナンバリング	H1DX23056
担当者氏名	樽本 つぐみ			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 			

《授業の概要》

運動実践を通して指導者としての指導能力を養うことを目標とする。1、2年次に履修した「スポーツ実践 I・II」「健康体力づくり実践 I・II」で学んだスポーツや学校体育における正しい実践方法を再確認すると共に指導方法を身につける。具体的には、学校体育における実施種目の実践を通して段階的な指導方法やその際の指示助言等を学ぶ。

《授業の到達目標》

授業計画に示す内容の学校体育種目を実施する。方法として、基本的に個人で各種目における指導計画を作成し実際に指導を経験する。さらに反省・評価を繰り返し行うことにより指導者としての資質を高める。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。さらに、学校施設内で実施不可能な種目（水泳等）については定期時間外に集中講義を実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）と理解度を確認するテスト（20%）を行う。ノートおよびレポートはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	スポーツ実践の方法と指導計画の立て方	指導実習（指導計画書の作成と実施）
3	スポーツ活動と安全管理	指導実習（指導計画書の作成と実施）
4	体づくり運動	体ほぐしの運動についての理解と指導法
5	体づくり運動	体力を高める運動についての理解と指導法
6	器械運動	マット運動における特性の理解と指導法（1）
7	器械運動	マット運動における特性の理解と指導法（2）
8	球技	テニス・バドミントンにおける特性・ルール理解と指導法：指導実習（指導計画書の作成と実施）
9	球技	サッカーにおける特性・ルール理解と指導法：指導実習（指導計画書の作成と実施）
10	陸上競技	短距離における種目特性の理解と指導法
11	陸上競技	リレーにおける種目特性の理解と指導法
12	陸上競技	走り幅跳びにおける種目特性の理解と指導法
13	ダンス	創作ダンスにおける特性の理解と指導法
14	ダンス	フォークダンスにおける特性の理解と指導法
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ポーレット著『中学校学習指導要領解説（体育編）』（明治図書）

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等で確認し、あらかじめ指導計画案を作成することによって指導方法に対してより理解が深まりかつ指導内容が広がる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認しノートにまとめる。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体育実技指導法Ⅱ		科目ナンバリング	H1DX23057
担当者氏名	樽本 つぐみ			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 			

《授業の概要》

スポーツ指導法Ⅰと同様に主として運動実践を通して体育指導者としての指導能力を養うことを目標とする。その為に、学校体育における様々な種目の正しい実践方法を再確認すると共に指導方法を身につける。具体的には、学校体育における種目の実践を通して段階的な指導方法やその際の指示助言等を学ぶ。

《授業の到達目標》

授業計画に示す内容の学校体育種目を実施する。方法として、個人で各種目における指導計画を作成し指導を経験する。さらに反省・評価→指導を繰り返すことにより指導者としての資質を高める。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。さらに、学校施設内で実施不可能な種目（水泳等）については時間外に実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）と理解度を確認するテスト（20%）を行う。ノートおよびレポートはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	器械運動	跳び箱運動における特性の理解と指導法（1）
3	器械運動	跳び箱運動における特性の理解と指導法（2）
4	器械運動	鉄棒運動における特性の理解と指導法（1）
5	器械運動	鉄棒運動における特性の理解と指導法（2）
6	球技	バドミントンにおける特性・ルール理解と指導法（1）
7	球技	バドミントンにおける特性・ルール理解と指導法（2）
8	陸上競技	走り高跳びにおける種目特性の理解と指導法
9	陸上競技	砲丸投げにおける種目特性の理解と指導法
10	陸上競技	長距離走における種目特性の理解と指導法
11	球技	サッカーにおける特性・ルール理解と指導法（1）
12	球技	サッカーにおける特性・ルール理解と指導法（2）
13	格技	柔道における特性の理解と指導法（1）
14	格技	柔道における特性の理解と指導法（2）
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ボーレット著『中学校学習指導要領解説（体育編）』（明治図書）

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等で確認し、あらかじめ指導計画案を作成することによって指導方法に対してより理解が深まりかつ指導内容が広がる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認しノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の指導者としてふさわしい能力を体得しよう。

科目名	健康・体力づくり指導法 I	科目ナンバリング	H1DX23023
担当者氏名	朽木 勤		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） ◎ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力） 		

《授業の概要》

運動を効果的に指導するためには、目的に応じて運動の量と質について適切に設定しなければならない。特に生活習慣病の予防や改善のための運動プログラムは、個別に身体的・心理的特性も考慮し、適した内容、実施可能で継続できるものでなければならぬ。

演習では、様々な条件下で、安全でかつ効果的な健康のための運動プログラムを作成するための手段を学んでいく。

《授業の到達目標》

この演習では、健康づくりや生活習慣病の予防や治療に関わる運動について説明でき、日常生活における身体活動や運動による健康づくりを目的とした、ライフスタイルや各年代に応じた安全で効果的な運動プログラムを作成することが出来る。

《成績評価の方法》

演習中に行う確認テスト(30%)と課題レポート(10%)、実技テスト(20%)、最終確認試験(40%)により評価する。確認テストにより生じる課題レポートは提出期限を守ること。期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）2016年、「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2016年

《参考図書》

「ライフスタイル療法<1>第4版生活習慣改善のための行動療法」,足達淑子（医歯薬出版）、「標準的な健診・保健指導プログラム（社会保険出版社）」、「特定健診・特定保健指導の手引き」（社会保険出版社）、「ACSM 健康にかかわる体力の測定と評価—その有意義な活用を旨として」,アメリカスポーツ医学会（市村出版）

《授業時間外学習》

毎時間、確認テストを行う。確認テスト不合格の場合はレポート課題を課す。専門用語について、事前に各自で意味を理解しておくこと。

《備考》

定期の授業時間以外に学外実習（水中運動）を行う（日時未定）。健康運動実践指導者・健康運動指導士認定試験の受験予定者は必ずテキストを購入すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習を始めるにあたり	健康増進や疾病治療のための運動の在り方について理解する
2	健康づくり運動と運動プログラム（1）	健康づくりのための身体活動基準2013、身体活動指針2013について理解する
3	健康づくり運動と運動プログラム（2）	健康づくりのためのトレーニングの原則を理解する
4	健康づくり運動と運動プログラム（3）	健康づくりのための運動プログラム作成のポイントと基礎を理解する
5	健康づくり運動と運動プログラム（4）	ウォームアップとクーリングダウンについて理解する
6	健康づくり運動と運動プログラム（5）	有酸素運動とその効果を理解する
7	健康づくり運動と運動プログラム（6）	レジスタンス運動について理解する
8	健康づくり運動の理論	加齢に伴う体力の低下と運動について理解する
9	運動プログラムの実際（1）	運動プログラム作成の基本を理解する
10	運動プログラムの実際（2）	健診結果の読み方を理解する
11	運動プログラムの実際（3）	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成（包括的プログラム）を理解する
12	運動プログラムの実際（4）	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成（肥満・高血糖）を理解する
13	運動プログラムの実際（5）	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成（高血圧・脂質異常症）を理解する
14	運動プログラムの実際（6）	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成（ロコモティブシンドローム）を理解する
15	総括	これまで学習してきた内容と演習を通じて得られた知見を再確認するとともに、具体的な成果を説明することが出来る

科目名	健康・体力づくり指導法Ⅱ		科目ナンバリング	H1DX23024	
担当者氏名	朽木 勤				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） ◎ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力） 				

《授業の概要》

各種の有酸素性運動やレジスタンス運動を実践することによって、それぞれの運動の特性や効果について理解を深めるとともに、指導上の留意点、問題点を考える。また、健康づくり運動に加え、生活習慣病に対する運動療法としての基本的な理論を学習するとともに、それぞれの目的に応じた運動プログラムの作成や実践していくための手段について検討する。

《授業の到達目標》

健康・体力づくりのための運動指導を行うためには、運動の特性や理論を理解することに加えて、専門的な能力・知識やその遂行能力だけでなく、適切なコミュニケーション能力も必要とされる。「健康・体力づくり指導法Ⅰ」に引き続いて本演習では、健康を維持増進するための適切な運動の基本理論に基づいて、運動プログラムを作成し、具体的な方法を説明できるようにする。また互いに指導者としての課題を指摘する。

《成績評価の方法》

演習中に行う確認テスト(30%)と課題レポート(10%)、実技テスト(20%)、最終確認試験(40%)により評価する。確認テストにより生じる課題レポートは提出期限を守ること。期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習を始めるにあたり	健康増進や疾病治療のための運動の在り方について理解する
2	有酸素性運動の理論と実際 (1)	エアロビックダンスの特性と理論について理解する
3	有酸素性運動の理論と実際 (2)	エアロビックダンスの指導の要点と実際(1)
4	有酸素性運動の理論と実際 (3)	エアロビックダンスの指導の要点と実際(2)
5	有酸素性運動の理論と実際 (4)	水泳・水中運動の特性と理論について理解する
6	有酸素性運動の理論と実際 (5)	水泳・水中運動の指導の要点と実際(1)
7	有酸素性運動の理論と実際 (6)	水泳・水中運動の指導の要点と実際(2)
8	有酸素性運動の理論と実際 (7)	ウォーキング・ジョギングの特性と理論について理解する
9	有酸素性運動の理論と実際 (8)	ウォーキング・ジョギングの指導の要点と実際
10	疾病の予防・治療のための運動プログラム(1)	生活習慣病に対する運動処方と処方プログラムの作成 (1) (虚血性心疾患)
11	疾病の予防・治療のための運動プログラム(2)	生活習慣病に対する運動処方と処方プログラムの作成 (2) (腰痛症・変形性関節症)
12	疾病の予防・治療のための運動プログラム(3)	生活習慣病に対する運動処方と処方プログラムの作成 (3) (軽度認知障害・認知症)
13	健康づくり運動の実際	ストレッチングの理論と実際について理解する
14	運動プログラム作成の理論	運動プログラム作成上の原則について説明することが出来る
15	総括（最終確認試験）	これまで学習してきた内容と演習を通じて得られた知見を再確認するとともに、具体的な成果を説明することが出来る

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）2016年、「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2016年

《参考図書》

「健康運動指導士試験攻略トレーニング問題集—テキスト平成26~28年対応」、「改訂2版 健康運動実践指導者試験 筆記対策分野別&模擬問題集」、「メタボ検定Q&A100」（日本フィットネス協会）、「運動処方の指針」（南江堂）

《授業時間外学習》

指定された課題を提出する。また、運動指導プログラムが実演できるように各自で練習しておくこと。

《備考》

時間以外に学外実習を行う予定である。この演習は特に健康運動実践指導者の認定試験を受験する学生を対象としている。健康体力づくり指導法Ⅰを受講しておくことが望まれる。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動処方論		科目ナンバリング	H1CX23025	
担当者氏名	長尾 憲樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 			

《授業の概要》

運動処方と運動指導は、どの様に違いがあるのでしょうか。人間を対象として健康の維持・増進を目指す運動処方を推し進めていくために、知らねばならない点を深く考えます。

《テキスト》

特に定めません。

《参考図書》

健康運動実践指導者養成用テキスト、健康運動指導士養成用テキスト：財団法人健康・体力づくり事業団

《授業の到達目標》

運動・スポーツに関する科目を学んできました。その知識を再考しながら、生きた智恵を構築します。

《授業時間外学習》

日常における生活を通して、様々なタイプの人の観察をして下さい。

《成績評価の方法》

定期試験70%
レポート30%
毎回提出する出席兼用のペーパーに、質問に対する解答を記述します。その理解度を考えて、次の講義に必ず反映させます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動処方とは？	運動処方の概念について考えます。
2	体組成	今一度、体組成について考えます。
3	心肺持久力Ⅰ	健常人について考えます。
4	心肺持久力Ⅱ	生活習慣病予防との関連を考えます。
5	心肺持久力Ⅲ	介護予防との関連を考えます。
6	筋力と筋持久力Ⅰ	健常人について考えます。
7	筋力と筋持久力Ⅱ	介護予防との関連を考えます。
8	柔軟性	基準になる評価方法を考えます。
9	生活関連体力	通常の体力テストでは、評価できない能力を考えます。
10	個別運動処方Ⅰ	自分自身を知っていますか。
11	個別運動処方Ⅱ	家族、友人の何を知っていますか。
12	高地トレーニング	高地トレーニングの実際について学びます。
13	低酸素トレーニング	低酸素トレーニングの可能性について考えます。
14	防災体力運動処方Ⅰ	自己の防災体力を考えます。
15	防災体力運動処方Ⅱ	家族の防災体力を考えます。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動処方演習			科目ナンバリング	H1CX23026
担当者氏名	長尾 憲樹				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

人間を対象として健康の維持・増進を目指す運動処方を押し進めていくために、Ⅰ期の運動処方論を受けて実際に可能な運動処方の各要素の演習を行う。

《テキスト》

特に定めない。

《参考図書》

健康運動実践指導者養成用テキスト、健康運動指導士養成用テキスト：財団法人健康・体力づくり事業団

《授業の到達目標》

これまでの講義、実習を受けてきたことの復習から、発展させて演習を進める。既存の知識をこえる。

《授業時間外学習》

その時間内で終了しない内容は個人的に、あるいは履修学生間の協力のもとに追加データを得ることが必要となる。

《成績評価の方法》

演習レポート70%
 レポートのプレゼンテーション30%
 毎回提出する出席兼用のペーパーに、質問に対する解答を記述します。その理解度を考えて、次の講義に必ず反映させます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動演習とは？	演習の可能性について考えてみる。
2	健康関連体力テストⅠ	形態計測・評価
3	健康関連体力テストⅡ	体組成の測定・評価
4	健康関連体力テストⅢ	心肺持久力の測定・評価
5	健康関連体力テストⅣ	筋力と筋持久力の測定・評価
6	健康関連体力テストⅤ	柔軟性の測定・評価
7	生活関連体力テスト	各種生活関連体力の測定・評価
8	個別運動処方Ⅰ	自己に対する運動処方
9	個別運動処方Ⅱ	友人に対する運動処方
10	50歳からの筋力トレーニングⅠ	アメリカ合衆国の書籍より考えます。
11	50歳からの筋力トレーニングⅡ	日本との比較を試みます。
12	小野教授の指導者論Ⅰ	指導者の有り方を学びます。
13	小野教授の指導者論Ⅱ	自己の指導者としての資質を考えます。
14	防災体力Ⅰ	避難のための体力測定・評価
15	防災体力Ⅱ	家族・災害弱者を支援する体力測定・評価

科目名	運動負荷試験実習		科目ナンバリング	H1DX23027	
担当者氏名	大西 祥男、山名 祥太				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

運動負荷試験は、心疾患の診断ならびに薬効評価、心臓リハビリテーションの効果判定など臨床の場でその有用性は確立されている。また、保健指導のなかの運動療法も発症予防の取り組みとして極めて重要である。個々の背景に配慮した運動負荷試験・運動療法を実施することが大切であり、本実習では指導対象者の運動や身体活動に関する準備状態に配慮した運動負荷試験が設定、実施できることを目標とする。

《テキスト》

健康運動指導士 養成講習会テキスト（下）：公益財団法人健康・体力づくり事業財団

《参考図書》

《授業の到達目標》

1. 運動負荷試験の目的・適応・禁忌が説明できる 2. 運動負荷試験の種類とプロトコールとそれらの違いについて説明できる 3. 安全に運動負荷試験を実施する上での注意点と中止基準について説明できる 4. 運動負荷試験の評価方法について説明できる 5. 指導者と共に症例に対して運動負荷試験を実施し、要約を作成できる

《授業時間外学習》

・上記テキストの第12章 運動負荷試験（815～834頁）は予習しておくこと。
 ・心電図の基本については、復習しておくこと。

《成績評価の方法》

到達目標の1～4については試験、5については、レポート作成とする。
 配点は試験40点、レポート60点、100点満点とし、60点以上を合格とする。
 なお、レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動の生理	運動による生理反応、血圧、脈拍の変化について理解する。
2	運動負荷試験の目的・適応・禁忌	運動負荷試験の目的・適応・禁忌について理解する。
3	運動負荷試験の危険性・安全対策	運動負荷試験の危険性・安全対策について理解する。
4	運動負荷心電図診断とその判定基準①	STT変化をはじめ判定基準ならびに中止基準を理解する。
5	運動負荷心電図診断とその判定基準②	STT変化をはじめ判定基準ならびに中止基準を理解する。
6	運動負荷試験各論①	運動負荷の様式について説明できる。
7	運動負荷試験各論② マスター2段階試験	マスター2段階試験法について実施・判定方法を理解する。
8	運動負荷試験各論③ 自転車エルゴメーター	自転車エルゴメーター法について実施・判定方法を理解する。
9	運動負荷試験各論④ トレッドミルテスト	トレッドミルテストについて実施・判定方法を理解する。
10	運動負荷試験各論⑤ ホルター心電図	ホルター心電図を用いた運動負荷試験について実施・判定方法を理解する。
11	症例検討①	運動負荷試験実施症例についての負荷試験を中心に症例検討。
12	症例検討②	運動負荷試験実施症例についての負荷試験を中心に症例検討。
13	呼気ガス分析を用いた運動処方	CPXを用いた運動処方を作成する。
14	呼気ガス分析を用いた運動処方に基づく運動療法	CPXを用いて作成した運動処方に基づき運動療法を実施する。
15	症例検討③	CPXを用いた運動処方実施症例の運動療法の実施、そしてその効果について検討する。

科目名	レクリエーション（野外活動を含む）	科目ナンバリング	H1DX23028
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）		

《授業の概要》

現在のレクリエーションは、スポーツと文化活動を包含する幅の広い自由時間の過ごし方として生涯学習と同様なものとなっている。そこでレクリエーションの果たす役割について理解し、活動（イベント）を通して参加者の意欲を引き出し、魅力のある活動や運営の仕方を学ぶ。また、市民を対象に事業を展開することで実践力を養う。本講義は、保健体育免許必修科目である。

《授業の到達目標》

- (1)レクリエーション支援が、子どもから高齢者まで多様な活動の機会を提供するための働きかけであることを理解する。
- (2)ニュースポーツを中心に実践方法を習得する。(3)オリジナリティのあるレクリエーションを考え、実践する。(4)学外での事業を展開し実践力を養う。(5)実習後のレポートを作成し発表する。

《成績評価の方法》

(1)(4)(5)についてはレポート提出、(2)(3)(4)は発表の内容、イベントの様子で評価する。評価の割合は、レポート50%、発表30%、テスト20%とし100点満点で60点以上を合格とする。レポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「やさしいレクリエーション実践」川村皓章（日本レクリエーション協会）
 「野外活動テキスト」（日本野外教育研究会）
 「レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～」（レクリエーション協会）

《授業時間外学習》

- ①授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。
- ②レクリエーションに関する課題について新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。
- ③学外での事業展開、集中講義でレクリエーション指導をする。

《備考》

15回の授業とは別に、7月か8月に小学生から高齢者を対象とした行事を実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する
2	レクリエーションの基礎理論	レクリエーションの基礎的な知識や歴史を理解する
3	レクリエーション支援の理論	レクリエーション支援の展開と方法、特色について理解する
4	レクリエーション支援者の役割	コミュニケーションワークについて理解する
5	レクリエーション組織の経営論 (1)	クラブの設立や運営について理解する
6	レクリエーション組織の経営論 (2)	市区町村とレクリエーション指導者の関係と課題について理解する
7	コミュニケーションワーク (1)	ホスピタリティ・トレーニング(小学生から高齢者まで)
8	コミュニケーションワーク (2)	アイスブレイキング(小学生から高齢者まで)
9	レクリエーションサービス論 (1)	行事の成り立ちを理解し企画する
10	レクリエーションサービス論 (2)	準備、運営、スタッフの役割について流れを計画する
11	レクリエーションサービス論 (3)	事故を起こさないための安全管理について理解し計画する
12	ニュースポーツの理解 (1)	ニュースポーツについて理解し実践する
13	ニュースポーツの理解 (2)	ニュースポーツの指導ポイントを学ぶ
14	まとめ	発表会 (1)
15	まとめ	発表会 (2)

科目名	薬理学	科目ナンバリング	H2XB23002
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

本講義を通じて、医療の現場で実際に繁用されている治療薬を中心に、それらの薬理作用、薬効発現機序、適応症および副作用について具体的に解説する。医薬品の有効性や期先生を認識し、最善の薬物治療における最低限の薬の知識を習得する。

《テキスト》

Qシリーズ新薬理学改定第6版

《参考図書》

《授業の到達目標》

- 1 代表的な疾患について、治療に用いられる医薬品を列挙できる。
- 2 代表的な治療薬について、効果を発揮する仕組みを説明できる。またその副作用を列挙できる。
- 3 代表的な医薬品副作用や薬物の為害作用を理解できる。

《授業時間外学習》

各授業の予習・復習を行い、その概要を理解する。

《成績評価の方法》

定期試験100%。
私語等授業の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行なった者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる。
分らないことは、授業中に質問を受け付ける。

《備考》

本科目は教員免許必須科目であるため、最低限のマナーを遵守でき、可能な限り欠席のない学生の履修が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬に関する基礎知識	処方薬と一般用薬の違いなど医薬品の定義。薬に関する基礎的知識を習得する。
2	薬物体内動態	消化管（主に小腸）での吸収、肝臓での代謝、循環血液から組織への分布、腎臓から尿中への排泄、薬物の投与方法と血中濃度を理解する。
3	薬物効果の機序	薬の標的物質（薬物受容体）、作動薬・拮抗薬の概念、薬の治療域、薬の投与経路とその特徴を理解する。
4	薬物の副作用・中毒	薬物相互作用の機序や、病態時に特徴的に起こる副作用の発生機序とその対策についての知識を習得する。
5	抗感染症薬	病原微生物の種類を修得し、抗生物質、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬の作用機序を理解する。
6	抗がん薬	癌の生物学および各種抗がん薬の作用機序を理解する。
7	免疫抑制薬と免疫増強薬	免疫反応の仕組みおよび免疫抑制薬、免疫増強薬、ワクチンの作用機序を理解する。
8	抗アレルギー薬と抗炎症薬	アレルギー反応と炎症の病態増および抗アレルギー薬、抗炎症薬、気管支喘息治療薬の作用機序を理解する。
9	自律神経薬	末梢神経系の神経伝達物質とその受容体および交感神経作用薬や副交感神経作用薬の作用機序を理解する。
10	筋弛緩薬と麻酔薬	筋弛緩薬、局所麻酔薬、全身麻酔薬の作用機序を理解する。
11	脳・神経系に作用する薬物	中枢神経系の神経伝達物質の異常による疾患を修得し、催眠薬と抗不安薬、抗てんかん薬、神経変性疾患に対する薬、抗精神病薬、抗うつ薬の作用機序を理解する。
12	心臓・血管系に作用する薬物	抗高血圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬の作用機序を理解する。
13	内分泌機能の異常に対する薬	糖尿病治療薬や甲状腺疾患治療薬の作用機序を理解する。
14	眼、耳、皮膚などの疾患に対する薬物	眼、耳、皮膚の外用薬の作用機序を理解する。
15	入門薬物と依存性薬物	入門薬物（タバコ、酒）や依存性薬物（麻薬、覚せい剤）の為害作用について理解する。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護活動演習		科目ナンバリング	H2DX23005
担当者氏名	加藤 和代			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）			

《授業の概要》

「学校保健Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「養護概説ⅠⅡ」で習得した知見や技術をもとに、養護教諭が行う実践活動を、グループワークを通して実践場面に構成して展開する。児童生徒の健康課題を解決するための養護活動の理論と実際の教育現場で行われる実践とを往還しながら技術を習得していく。

《授業の到達目標》

- 児童生徒の発達段階や生活を理解した観察や関わりができる。
- 保健教育、保健管理を推進していくための養護教諭の役割や保健室の機能が説明できる。
- 演習を通して「養護とは」の考察と理解を深める。

《成績評価の方法》

グループワークの発表（50%）レポート（50%）で評価する。レポートは評価コメントを加えて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の基本的な視点、授業の概要、学習の動機付け、評価等の説明
2	養護と教育機能	養護教諭の職務と役割、求められる専門的能力、養護活動とは養護教諭の教育実践活動
3	健康実態把握 (1) 健康診断から	保健調査の活用と管理、健康診断実施計画書の作成・実施・評価
4	健康実態把握 (2) 健康診断事後措置から	統計処理（ソフトの活用）の実際、事後措置の実際、健康新結果の活用
5	健康実態把握 (3) 健康観察から	健康観察簿の作成、事後措置、欠席管理、感染症対応（臨時休業、出席停止等）
6	健康実態把握 (4) 救急処置から	救急処置簿の作成、事後措置、データ分析（外科的、内科的、メンタルヘルス）
7	健康実態把握 (5) 健康実態調査から	生活習慣（睡眠時間、就寝時刻、朝食摂取等）や心の健康状態の実態調査
8	健康課題の明確化	実態の分析・考察、課題の明確化、校内組織で課題の共有、共通理解、組織対応
9	養護教諭の活動計画 (1)	学校保健安全計画、校内組織、役割分担
10	養護教諭の活動計画 (2)	保健室経営計画、健康課題の把握、課題解決への具体的な取り組み PDCAサイクル
11	養護活動実践 (1)	保健管理、健康相談に伴う個別保健指導及び教育的支援、学級担任との連携
12	養護活動実践 (2)	保健教育（保健学習、保健指導）における指導実践及び教育的支援、学級担任との連携
13	養護活動実践 (3)	児童生徒保健委員会活動、児童生徒会活動での教育的支援
14	養護活動実践 (4)	学校全体で進める健康教育の働きかけ、学校保健委員会、PTA活動・地域との連携
15	保健室、養護教諭の教育的役割	「養護とは」「児童生徒の養護をつかさどるとは」 教育的役割のまとめ

《テキスト》

必要に応じて自作プリントを配布する。

《参考図書》

教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応
 文部科学省 少年写真新聞社
 学校において予防すべき感染症の解説 日本学校保健会
 児童生徒の健康診断マニュアル 日本学校保健会

《授業時間外学習》

演習で得た知見や資料を整理し、課題レポートに活かすこと。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護活動実習	科目ナンバリング	H2XD23006
担当者氏名	加藤 和代、大平 曜子、米野 吉則		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

これまでに修得した保健室の機能と養護教諭の教育的役割を基盤に、実践的な養護教諭の活動の理解を学内実習をとおして深める。

《テキスト》

指定テキストなし

《参考図書》

授業の中で、適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 養護教諭の行う保健管理、保健教育の活動の実際を学内実習をとおして体得する。
- 児童生徒一人ひとりを大切にしたい支援について理解し、校内体制、家庭や専門機関と連携について、養護教諭の活動を説明できる。

《授業時間外学習》

これまでに得た知識技術を確認・整理し、主体的にその研鑽に励むとともに、配布資料を確認し、授業内容の予習と復習を欠かさず行う。

《成績評価の方法》

小テスト(50%)、レポート(50%)で評価する。レポートは、発表する機会をつくり、コメントを返す。

《備考》

養護活動演習の履修を終えていること。通年科目であり、評価は4年生I期の修了後に行う。実習科目であるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢を重視する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護とは 養護教諭の教育活動
2	保健室経営（1）	保健室経営案、保健室備品、諸帳簿の保管・管理、個人情報の管理の実際
3	保健室経営（2）	感染予防の基本技術 ① (機器、器具、寝具、衛生材料の確認と使用技術)
4	保健室経営（3）	感染予防の基本技術 ② (汚物等の清潔操作、滅菌・消毒の実際)
5	健康診断の計画・運営・事後措置（1）	発育測定、視力・聴力検査、心電図検査の実際、
6	健康診断の計画・運営・事後措置（2）	歯科、眼科、耳鼻科等の専門医検診の実際
7	健康診断の計画・運営・事後措置（3）	内科検診の実際
8	健康診断の計画・運営・事後措置（4）	事後措置の実際
9	保健室来室者の対応（1）	外科的救急処置と事後処置、保健指導 ① 骨折、捻挫、打撲、切傷、擦過傷
10	保健室来室者の対応（2）	外科的救急処置と事後処置、保健指導 ② 頭部外傷、眼科・耳鼻科・歯科関係のけが
11	保健室来室者の対応（3）	内科的救急処置と事後措置、保健指導 ① 腹痛、頭痛、発熱、
12	保健室来室者の対応（4）	内科的救急処置と事後措置、保健指導 ② 熱中症、急性虫垂炎、喘息、アレルギー（アナフィラキシー）
13	保健室来室者の対応（5）	健康相談的対応と継続支援 ① 繰り返す腹痛、不登校
14	保健室来室者の対応（6）	健康相談的対応と継続支援 ② 長期にわたる微熱、不安、不眠、食欲不振
15	まとめ	保健室の機能と養護教諭の教育活動、

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	精神保健	科目ナンバリング	H2BC23010
担当者氏名	柳井 由美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

運動、あるいは養護や保健の専門家として、幼児から高齢者まで、発達段階に応じた心の健康・心の問題について正しく理解する。次に、心の病的状態についても精神医学的観点から学習し、予防方法を考えることによって心の健康の保持、増進について理解を深める。

《テキスト》

精神看護学 I 精神保健学 第6版

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神保健の理論を理解しそれを実践することの重要性を説明できる。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を整理し理解しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、平常評価30%(レポート、受講態度など)
分からないことは随時質問を受け付ける。
授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

現在のようなストレスフルな社会において、医療関係者や専門家といわれる人々だけでなく、すべての人が精神保健についての知識を持ち健やかな生活を営まれることが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神の健康	精神保健とは？、精神障害の一次・二次・三次予防
2	精神の健康	精神力動論、フロイト・エリクソンの発達論
3	精神の健康	自我機能（防衛機制）、集団力動論、危機管理
4	精神保健と社会	家族家庭の精神保健
5	精神保健と社会	学校と精神保健
6	精神保健と社会	職場における精神保健
7	精神保健と社会	社会資源の活用とケアマネジメント、社会復帰（精神科リハビリテーション）
8	精神保健と社会	災害時地域精神保健医療活動
9	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健医療福祉の歴史
10	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
11	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健医療福祉に関する法制度
12	精神科チーム医療	クリニカルパス、SDM（シェアード・デシジョンメイキング）
13	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象（危険ドラッグ、ギャンブル依存症、周産期のメンタルヘルス）
14	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象（自殺、PTSD、宗教体験など）
15	総括	精神保健の総括

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康相談活動の理論と実践		科目ナンバリング	H2XC23013
担当者氏名	大平 曜子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力） 			

《授業の概要》

学校教育における健康相談の概念や特質を理解し、子どものヘルスニーズに対処できる力量形成を目指す。また、人間観や健康観、対人関係など健康相談活動の基礎的理論を学び実践力をつける。養護教諭の仕事における健康相談活動の位置づけを理解するとともに、関係機関との有機的連携について学習する。授業では、健康相談活動の目標と方法、問題の捉え方、記録とプライバシー保護など、基礎から実際までを学ぶ。

《授業の到達目標》

- 健康相談活動の概念や役割について説明できる。
- 健康相談活動の基礎的理論について理解し、説明できる。
- 子どものヘルスニーズがわかり、健康相談活動の進め方がわかる。
- 健康相談活動の実際を体験的に理解する。ロールプレイングができる。

《成績評価の方法》

毎授業終了時記入の学習内容の記録についての評価 10%、
課題の実践とレポート提出 30%、
定期試験 60%とする。
到達目標に対して、全体に講評をおこない、個別の質問については随時対応する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。健康相談の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	養護教諭と健康相談	養護教諭のもつ健康感や人間観との関わり
3	法規と健康相談	学校保健安全法を中心に、健康相談の位置づけを理解する。
4	健康相談活動の概念	定義、目的と意義
5	健康相談活動の対象	子どものヘルスニーズの理解、問題理解
6	健康相談活動に必要な力量	養護教諭の力量形成と資質
7	近接領域の相談と健康相談活動の違い	相談とは、臨床心理学とは、教育相談や生活指導、などとの関係
8	健康相談活動の実際 (1)	進め方の実際、保健室の機能
9	健康相談活動の実際 (2)	事例の学習、健康相談活動のプロセス保健室登校・特別支援教育と養護教諭のかかわり
10	健康相談活動の実際 (3)	ロールプレイングによる健康相談活動の実際
11	健康相談活動の実際 (4)	グループ学習（演習）により課題を抽出
12	記録と保管	記録の方法、書式、保管と活用
13	幼児・児童・生徒への健康相談活動	支援方法の違いと実際
14	力量形成と研究	養護教諭にとって、健康相談に関する研究の意味と方法を理解する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

『養護教諭の行う健康相談活動』大谷・森田編著、東山書房
『養護教諭の健康相談ハンドブック』森田著、東山書房
『健康相談活動の理論と実際』三木・森田編著、ぎょうせい
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。課題レポートについては、文献にあたって上で作成する。授業で配布したプリントには、必ず目を通しておく。

《備考》

養護教諭をめざす人は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習時は、特に主体的に参加することが望まれる。また、演習には必ずレポート課題の提出を求める。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	救急看護（救急処置を含む）		科目ナンバリング	H2BB13018
担当者氏名	米野 吉則			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 			

《授業の概要》

教育活動やスポーツ活動においては、予期せぬ発病や事故や外傷が起こる。その初期対応や処置の仕方、対応の良否はその後の経過に影響する。授業は複数の担当者によるオムニバス形式で進めていく。受講者は、救急処置に必要な知識と技術を習得することを目的とする。また、具体的な場面を想定した救急処置の実践的能力を身につけ、教師としての専門性に生かせるよう主体的に取り組むことが求められる。

《授業の到達目標》

- ・救急看護の概念と基礎知識を理解し説明できる。
- ・心肺蘇生法を実施できる。
- ・災害救護活動について理解し、災害時の健康障害について解説できる。
- ・基本的な救急処置が実施できる(救急処置の範囲がわかる)。
- ・傷病者の状態のアセスメントの方法を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

各担当出題による最終試験50%
 演習後のレポート30%(レポートにはコメントを記入し返却する)
 救急法実技20%(実技は評価とコメントを記入し返却する)

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

- ・「救急看護論」山勢博彰編著、ヌーヴェルヒロカワ
- ・「初心者のためのフィジカルアセスメント-救急保健管理と保健指導-」荒木田美香子他 東山書房
- ・「スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・障害」市川宣恭 南江堂

《授業時間外学習》

2回目以降はシラバスにより授業時のテーマや内容を把握し、事前に必ず予習し、質問を準備しておくことと良い。復習についても最低限、毎授業内容を見返しておくことを求める。また医療の側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習すること。技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習する。

《備考》

教員免許取得の必須科目である。また4・5・8～14週目の9回は衛生管理者資格に対応している。演習が中心であるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法などについての説明する。救急看護の考え方や専門性、日本の救急医療体制について理解する。
2	救急法の理論	心肺蘇生法や救急法(異物除去、R I C E)の実施方法を説明することができる。
3	救急法実習	心肺蘇生法とA E D使用の方法を理解する。
4	救急法実技テスト	心肺蘇生法とA E D使用の技術を習得する。
5	整形外科的障害	整形外科的障害(突き指、骨折、捻挫、頭部外傷など)の救急処置と基本について理解する。
6	内科的障害	内科的障害(胸痛、腹痛、熱中症、過換気症候群など)の救急処置と基本について理解する。
7	小児救急①	子どもの心肺蘇生の方法や子どもに多い事故と傷病について理解する。
8	小児救急②	子どもの症状別の救急処置や食物アレルギーの対応について理解する。
9	基本的応急処置	傷病者の観察と基本的応急処置法(止血法、包帯法、搬送法)の実施方法について理解する。
10	災害看護トリアージ	災害の定義、災害発生時の現代的課題、災害看護とトリアージについて理解する。
11	学校救急①	学校事故の特徴、救急処置の教育的意義、学校管理下での死亡事故・障害・負傷について説明することができる。
12	学校救急②	学校における救急処置、救急処置における体制づくりについて説明することができる。
13	学校救急の事例検討①	学校現場で起こりうる救急処置を事例をもとに、教員に傷病者への処置や学校で行う救急処置の範囲、学校救急体制についての理解を深め、説明できる。
14	学校救急の事例検討②	学校現場で起こりうる救急処置を事例をもとに、教員に傷病者への処置や学校で行う救急処置の範囲、学校救急体制についての理解を深め、説明できる。
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育史	科目ナンバリング	HTAL53003
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本授業では、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえ、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び（例は「参考図書」欄を参照）、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

誤った歴史教育が「歴史＝無味乾燥な暗記物」というイメージを生んでしまったのは残念であるが、本来歴史とはそういうものではない。本授業では、みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに(1)教育史に関する文献探索能力を身につけ、(2)教育史について自分で問いを設定して考察する方法を修得し、(3)その内容を発表する能力を身につけることが、本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と、発表への評価(70%)による。ただし、大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき、変更することがある。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamoto@hyogo-dai.ac.jpである。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考図書》

妹尾河童『少年H』、さくらももこ『まる子だった』、黒柳徹子『窓際のトットちゃん』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、ヘッセ『車輪の下』、サンテグジュペリ『星の王子さま』、童門冬二『上杉鷹山』、乙武洋匡『五体不満足』、ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが、その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例:妹尾河童『少年H』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
5	口頭発表(2)	文献例:さくらももこ『まる子だった』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
6	口頭発表(3)	文献例:黒柳徹子『窓際のトットちゃん』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
7	口頭発表(4)	文献例:司馬遼太郎『竜馬がゆく』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
8	口頭発表(5)	文献例:H・ヘッセ『車輪の下』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
9	口頭発表(6)	文献例:A・サンテグジュペリ『星の王子さま』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
10	口頭発表(7)	文献例:童門冬二『上杉鷹山』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
11	口頭発表(8)	文献例:乙武洋匡『五体不満足』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
12	口頭発表(9)	文献例:E・ケストナー『エミールと探偵たち』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
13	口頭発表(10)	文献例:東上高志『教育革命』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
14	口頭発表(11)	文献例:三好京三『子育てごっこ』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
15	口頭発表(12)	文献例:李潤福『ユンボギの日記』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。

《教職に関する科目》

科目名	保健・保健体育科教育法Ⅱ（保健教育法研究）		科目ナンバリング	HTHH43002	
担当者氏名	棟方 百熊				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

保健科教育について、学習指導要領、保健科教育研究や実践の分析・検討を通して考察し、その目標、方法、評価等について発展的な理解を深める。

《テキスト》

中学教科書「新 中学保健体育」学習研究社、高校教科書「現代高等保健体育 改訂版」大修館書店、中学校学習指導要領解説「保健体育」、高等学校学習指導要領解説「体育・保健体育」

《参考図書》

森昭三他「新保健の授業づくり入門」大修館書店 他
講義の際に適宜示します。

《授業の到達目標》

保健科教育の目標、内容、方法、評価についての今日的課題を説明できる。保健科教育の目標、内容、方法、評価について、学習指導要領、保健科教育研究や実践を分析・検討できる。

《授業時間外学習》

前時の学習内容の復習をするとともに、前時に示された次時の内容を予習しておきましょう。
特に、以下の事項に関して、受講者同士で協力して実践することを強く推奨します。

- (1) 授業中に示された課題を検討する
- (2) 学習指導要領等の資料を読み込む

《成績評価の方法》

- (1) 小課題への取り組み (40%)
- (2) 最終課題 (60%)

の2点を基本とする。
小課題に関しては、提出されたものにコメントを付して返却する。

《備考》

行事等により時間割の変更が有り得ますので、通知等には常に留意してください。受講生の状況により、アクティブラーニング的に授業を行うことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション及び保健科教育の歴史	オリエンテーション（授業計画、評価の確認） 保健科教育の変遷、保健科授業経験の検討
2	保健科における学力と保健科教育	保健科の学力と教育による学力の育成・向上に関する検討
3	保健科教育内容の検討（中学校）	中学校学習指導要領及び解説の検討
4	保健科教育内容の検討（高等学校）	高等学校学習指導要領及び解説の検討
5	保健科教育の教授 - 学習過程の検討	保健科教育の教授 - 学習過程の分析
6	保健教科書の分析（中学校）	中学校保健教科書内容の分析
7	保健教科書の分析（高等学校 単元1）	高等学校保健教科書の分析（現代社会と健康）
8	保健教科書の分析（高等学校 単元2・3）	高等学校保健教科書の分析（生涯を通じる健康、社会生活と健康）
9	保健科教育の教材論	保健科教育教材の分析
10	保健科教育の教材づくり（計画）	保健科教育教材づくり（計画から作成）
11	保健科教育の教材づくり（作成）	保健科教育教材づくり（作成から評価）
12	保健科教育の評価	保健科教育の評価とその今日的課題
13	保健科教育における評価の観点と評価の方法	保健科教育における評価の4観点と適切な評価方法に関する検討
14	保健科教育における具体的評価	保健科教育における観点別評価に適した評価方法の適用
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見の再確認

《教職に関する科目》

科目名	保健科教育法Ⅱ（保健科教育法演習）		科目ナンバリング	HTHH43004	
担当者氏名	棟方 百熊				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

保健の授業では、健康に関する基礎的な内容の理解、現代的健康課題への対応、実践力の育成、学習方法の工夫等が求められている。それらをふまえて、教材研究、授業計画の作成、模擬授業の実践、カンファレンス、模擬授業改善を行う。これらを通じて保健の授業づくりの力を高める。

《テキスト》

中学教科書「新 中学保健体育」学習研究社、高校教科書「現代高等保健体育 改訂版」大修館書店、中学校学習指導要領解説「保健体育」、高等学校学習指導要領解説「体育・保健体育」

《参考図書》

森昭三他「新保健の授業づくり入門」大修館書店 他
講義の際に適宜示します。

《授業の到達目標》

保健の授業計画の立案、指導案の作成ができる。学生を児童・生徒にみため、模擬授業ができる。模擬授業を批評し、そのよかつた点、改善すべき点に関する意見を述べるができる。多様な観点からの修正意見に基づき、模擬授業を改善できる。

《授業時間外学習》

受講者同士で協力して以下の事項を実践することを強く推奨します。

- 学習指導要領の関連部分を読み込む。
- 教材研究を多角的に行う。
- 課題を明確に設定した自主的な模擬授業を数多く行う。
- 多様な意見を取り入れて積極的に改善に取り組む。

《成績評価の方法》

- (1) 授業計画・指導案の作成 (50%)
 - (2) カンファレンス等の活動への積極的な参加 (30%)
 - (3) レポート (20%)
- レポート等の提出されたものに関しては、基本的にコメントを付して返却する。

《備考》

行事等により時間割の変更が有り得ますので、通知等には常に留意してください。受講生の状況により、アクティブラーニング的に授業を行うことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション テーマの決定	オリエンテーション（授業計画、評価の確認） 個別のテーマ及び単元計画の検討
2	保健学習の計画立案1	単元計画の立案（目標と内容）
3	保健学習の計画立案2	単元計画の立案（方法と評価）
4	保健学習の計画立案3	学習指導案の作成と改善（目標と内容）
5	保健学習の計画立案4	学習指導案の作成と改善（方法と評価）
6	保健学習の計画立案5	保健科教育の教材づくり（計画と作成）
7	保健学習の計画立案6	保健科教育の教材づくり（運用と改善）
8	保健学習の計画立案7	授業実践の技術的側面（話法と板書）
9	保健学習の計画立案8	授業実践の技術的側面（活動のマネージメント）
10	模擬授業の実施とカンファレンス1	授業内容と目標の達成
11	模擬授業の実施とカンファレンス2	授業内容のメリハリと時間配分
12	模擬授業の実施とカンファレンス3	教師としての態度、板書と配布資料
13	模擬授業の実施とカンファレンス4	生徒の活動のマネージメント
14	模擬授業の実施とカンファレンス5	総合的な授業の評価方法
15	まとめ	個別の力量の評価と課題の整理

《教職に関する科目》

科目名	保健体育科教育法Ⅱ（保健体育科教育法研究）		科目ナンバリング	HTHH43006	
担当者氏名	後藤 幸弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

「学習指導要領解説（保健体育編）」を理解するとともに、教科内容（体育分野）を理解する。特に、教育内容を押さえた「的確な判断に基づく行動力の育成」のできる先生になる力を習得する。換言すれば、高い専門性に基づき教育現場での教科指導法について創意工夫できる力を養う。

《テキスト》

後藤幸弘編著「内容学と架橋する保健体育科教育論」晃洋書房
 文部科学省「中学校学習指導要領解説（保健体育編）」
 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（保健体育編）」

《参考図書》

宇土正彦（監修）「学校体育授業事典」大修館書店
 日本体育学会（監修）「最新スポーツ科学事典」平凡社

《授業の到達目標》

保健体育科教育法Ⅰに引き続き、保健体育科成立の文化基盤である「身体運動文化」への興味・関心、認識・理解を深め、専門知識の習得及び中・高等学校保健体育科の授業担当者として求められる資質や実践的能力を身に付ける。

《授業時間外学習》

・ノートをまとめ復習する。また、次時の講義内容に当たるテキストの章を読んでおく。

《成績評価の方法》

・授業における討議への積極的参加（20%）、レポート（20%）及び試験（持ち込み不可）（60%）を総合的に評価する。
 わからないことは、オフィスアワー等で受け付ける。

《備考》

・質問・連絡等があればメールでも受け付けます。
 (ygoto@gaia.eonet.ne.jp)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・保健体育科について（体育授業の構造、目標、運動領域等） ・レポート：オリンピックについての調べ、そのまとめを第5週に提出する
2	教育内容	・普的教育内容について（技術、戦術、ルール、マナー、学びとり方の能力、他） ・技術・ルール・戦術の関係について
3	球技分類論	・球技のゲーム形式に基づく分類論と教育内容について ・バスの種類と機能について
4	球技の指導法①	・球技（攻防相乱型）の学習指導法について（課題ゲームを通して）
5	球技の指導法②	・球技（攻防分離型）の学習指導法について（課題ゲームを通して） ・レポート（課題ゲームを作成する、次週に提出）*論文を配布する
6	スポーツと国際理解	・オリンピック教育について
7	球技の指導法③	・作成した課題ゲームの検討 *相撲についての資料集を配布する（次週までに読んでおく）
8	武道の指導①	・日本の伝統文化を体育においてどう指導するか？ ・日本の国技は？
9	武道の指導②	・武道（相撲、柔道）の学習指導について
10	体づくり運動①	・体づくり運動の5つの普的な教育内容 ・体力について
11	体づくり運動②	・トレーニングの原則と各種のトレーニング法について
12	体づくり運動③	・腕立て伏臥腕屈伸運動の負荷量を考える ・繰り返し回数から祭壇筋力を推定する
13	体づくり運動④	・ストレッチングについて ・主観的運動強度（RPE）について
14	保健体育科の授業の今日的課題	・保健体育科の授業の今日的課題とその解決策について
15	試験問題の検討・まとめ	・作成した試験問題の検討を通して講義のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	道徳教育論	科目ナンバリング	HTAL43007
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

道徳教育の目的と特質、意義と課題を理解し、教科指導をはじめとする学校教育のさまざまな活動とのかかわりを考察する。学習指導案の作成と模擬授業を通じて、道徳の授業の進め方を習得し実践的指導力を獲得する。

《テキスト》

柳沼 良太『子どもが考え、議論する 問題解決型の道徳授業事例集 中学校』図書文化社、2016

《参考図書》

・御前 充司・宮崎 正康・藤井 英之『中学生に道徳力をつける—授業ですぐ使える新資料35選』明治図書出版、2007年
 ・石丸憲一『ルーブリック評価を取り入れた道徳科授業のアクティブラーニング』明治図書出版、2016
 ・木野正一郎『新発想！道徳のアクティブラーニング型授業はこれだ』みくに出版、2016

《授業の到達目標》

- 道徳教育の意義と課題について理解している。
- 道徳性の発達について理解している。
- 年間指導計画と全体計画を作成できる。
- アクティブラーニングを取り入れた、考える道徳の指導案を作成することができる。
- 指導案に基づいて授業を実施することができる。
- 特別の教科道徳の評価の基本を理解している

《授業時間外学習》

配布した資料をよく読み、予習をしておくこと。
 課題(指導案の作成、模擬授業の準備)をグループの全員で協力して行うこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度(ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等) 30%
 - ②課題の提出と完成度 35%
 - ③模擬授業 35%
- ※提出物はコメントを付して返却する。

《備考》

教育実習における道徳の授業にも対応できるよう、指導案の作成と模擬授業に真摯に取り組むこと。
 アクティブラーニングゾーンで授業を行うこともある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 道徳とは何か	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・道徳とは何か
2	道徳教育の必要性 道徳教育の歴史	・道徳教育とは、道徳の必要性 ・戦前の道徳教育/戦後の道徳教育
3	道徳性の発達	・道徳性とは ・道徳性の発達理論と道徳教育
4	学校教育における道徳教育の意義と位置づけ	・教育の目的・目標と道徳教育、学習指導要領における道徳教育 ・他の教育活動との関連、道徳的実践の指導
5	道徳教育の計画と評価	・年間指導計画と全体計画の意義/作成の手順と作成上の留意点 ・特別の教科道徳の評価のポイント
6	道徳教育の授業理論	・道徳教育の授業理論の概要 ・道徳科の授業のさまざまな例
7	道徳教育とアクティブラーニング	・道徳におけるアクティブラーニングの意義 ・アクティブラーニングによる道徳科授業の留意点
8	指導案の作成	・テーマの設定と適切な教材の選定 ・指導案の作成の手順とポイント
9	模擬授業と相互評価①	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
10	模擬授業と相互評価②	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
11	模擬授業と相互評価③	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
12	模擬授業と相互評価④	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
13	模擬授業と相互評価⑤	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
14	模擬授業と相互評価⑥	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
15	学習のまとめと振り返り	全体を振り返り、学習のまとめをするとともに自身の課題を明らかにする。

《教職に関する科目》

科目名	進路指導論		科目ナンバリング	HTHH43007	
担当者氏名	古川 雅文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

進路指導は、中学校および高等学校の教員が担任として必ず行わなければならないものである。最近ではキャリア教育として、より広く、系統的な展開が目ざされている。

この授業では、進路指導とキャリア教育について、学校教員として備えておくべき基礎的な知識を学習する。また、背景になっている理論と実践例の両方を学ぶことで、進路指導とキャリア教育をより深く理解する。

《授業の到達目標》

- ・進路指導の意義、目的、内容、方法について説明できる。
- ・キャリア教育の意義、目的、内容、方法について説明できる。
- ・進路指導とキャリア教育の関係を説明できる。
- ・学校において、教員としてどのように進路指導及びキャリア教育に取り組むかを構想できる。

《成績評価の方法》

(1)定期試験(60%)、(2)レポート(20%)、(3)その他(提出物、プレゼンなど)(20%)。100点満点で、60点以上を合格とする。
※レポート等にはコメントを付して返却する。

《テキスト》

『キーワード キャリア教育 一生涯にわたる生き方教育の理解と実践』小泉令三・古川雅文・西山久子(編)、北大路書房、2016

《参考図書》

『中学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(編)、教育出版、平成23年

『高等学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(編)、教育出版、平成24年

『その幸運は偶然ではないんです!』J.D. クランボルツ他(著)、花田光世他(訳)、ダイヤモンド社、2005年

《授業時間外学習》

1. 予習の方法：教科書の指定箇所、あらかじめ配布する資料などを読んでおくこと。
2. 復習の方法：授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べること。

《備考》

欠席や遅刻・早退が多い場合(5回以上)は不合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	進路指導の意義と内容	進路指導は何のために行うのか、そして、その内容にはどのような領域があるかについて理解する。
2	進路指導・キャリア教育の歴史と社会的背景	進路指導の歴史の変遷、キャリア教育の登場した社会的背景と考え方の変遷について理解する。また、現在の進路指導とキャリア教育の関係について理解する。
3	キャリア教育の意義と内容	キャリア教育の意義と内容について理解し、説明することができる。
4	進路指導・キャリア教育の理論1	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つである特性因子論について理解する。
5	進路指導・キャリア教育の理論2	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つであるキャリア発達理論について理解する。
6	進路指導・キャリア教育の理論3	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つである学習理論等について理解する。
7	教育課程と進路指導・キャリア教育	学校教育の中で、どのようにキャリア教育を行っていくか、教育課程との関係を理解する。
8	進路指導・キャリア教育の方法と技術	特にキャリア教育の方法的特色を理解し、具体的な教育方法について説明できる。
9	小学校におけるキャリア教育実践	小学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
10	中学校におけるキャリア教育実践	中学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
11	高等学校等におけるキャリア教育実践	高等学校および特別支援学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
12	進路相談・キャリアカウンセリングの基礎	学校で行われる進路相談とキャリアカウンセリングについて、その基礎理論と方法的特色を理解する。
13	進路指導・キャリア教育の組織と推進	進路指導とキャリア教育を学校で推進していくための組織と、推進方法について理解する。
14	進路指導・キャリア教育の評価	主にキャリア教育における評価方法について理解する。
15	諸外国におけるキャリア教育	アメリカ、ドイツ、フランスなどのキャリア教育について理解し、わが国のキャリア教育との違いを説明できる。

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前・事後指導）		科目ナンバリング	HTHH43008	
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導における発表・課題提出（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての、覚と誇りをもって臨むこと。

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前・事後指導）		科目ナンバリング	HTHH43009	
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導における発表・課題提出（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての、覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち、せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の、己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の、己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前・事後指導）	科目ナンバリング	HTY043001
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴く準備の期間です。そのため、事前指導（本時）では、知識技術の習得のみならず教員としての心構えも含めて省察し準備に当たることが求められます。

《授業の到達目標》

- 養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
- 養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
- 定めた実習目標を達成すべく取り組むべき課題がわかり、適切な対処行動がとれる。
- 実習の過程全体を見通し、計画的に準備を進めることができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席はいつさい認めません。事前指導（事後指導）での課題提出（40%）、発表・レポート（実習報告会を含む）（60%）、100点満点で60点以上を合格とする。到達目標に対する全体の講評をおこない、個別の質問に随時応じる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護実習に向けて、心構えと注意点、勉強の進む方、実習と採用試験
2	養護実習内容について	教育職員に関する事、学校教育に関する事、学校保健の考え方、進め方に関する事
3	養護教諭について	養護教諭とは、保健室とは、保健室経営の仕方、保健室における対応の仕方、記録の方法
4	学校環境衛生	日常学校環境衛生検査、測定の実際
5	健康診断	定期健康診断の考え方、進め方、測定・検査の実際
6	保健指導	保健学習と保健指導、保健指導の指導案作成（課題の提示）
7	保健だより	保健だよりの意味と役割、校種別保健だよりの作成
8	学校事故の対応	学校事故と対応の仕方、記録の仕方
9	模擬授業	保健指導の実際（6週目の課題報告）
10	実習要項の確認	実習の手引きと日誌の配布、実習要項の確認と実習日誌の記入方法
11	実習手続き	実習手続きの確認、関係文書の作成
12	実習準備	実習校のための保健指導の指導案作成と、そのための資料収集など
13	実習準備	職務の点検
14	実習準備	職務の点検
15	実習準備	職務の点検

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社
『児童・生徒の健康診断マニュアル』 日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習に向けた事前・事後指導1単位分に相当することを認識し、また、実習本番に向けて、各自が出来る限りの準備を行う。主体的参加と、自主的学習を要する。

平成26（2014）年度入学者

専門教育科目

科目名	地域活動演習Ⅱ	科目ナンバリング	H0CC24023
担当者氏名	木下 幸文、河野 稔		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）		

《授業の概要》

地域社会における運動指導現場やボランティア現場等に参加し、実際の活動を通して、社会人としての行動を身につけ、指導者・教育者としての心構え、指導法、および、現場における課題等を体験的に学習する。実習先は、公共・民間のフィットネス施設、各種スポーツクラブおよびチーム、学校や教育施設、地方公共団体や非営利目的の諸団体等、その他、担当者が認めた施設・各種団体である。

《授業の到達目標》

- 地域の活動現場において、現場にいる人々と協同して行動できる。
- 大学での学修成果を、現場での指導や教育などの活動に生かせる。
- 現場での諸問題を理解し、その解決に向けて主体的に取り組める。

《成績評価の方法》

実習の記録（40%）、実習後の報告（40%）、平常点（20%）とする。実習の記録や報告（プレゼンテーション）は、ルーブリックを使って評価していく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の内容について話し合う。特に実習先の検討。学生の実習先の希望等について打ち合わせる
2	実習のシミュレーション(1)	実習先でのシミュレーションを行い、実習場面で発生する問題等について議論する：スポーツ組織の運営等
3	実習のシミュレーション(2)	各施設先（実習先）を想定し、2週目で発生した諸問題について検討し、指導力を養うための講義とするスポーツ組織の運営等
4	学外実習	実習先での授業（第1回目 挨拶、打ち合わせ、仕事の内容等について現場指導者との協議に入る）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
5	学外実習	実習先での授業（第2回目 仕事の内容について具体的な指示を受ける）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
6	学外実習	実習先での授業（第3回目 仕事の実践を通して客と対応していく）対応した内容について反省と明日への対応を検討する。広域スポーツセンターについて考える
7	学外実習	実習先での授業（第4回目 第3回目と同じく仕事の内容に対して反省と自分らしさの指導力を発揮していく）あわせて広域スポーツセンターの機能と役割についても学ぶ
8	学外実習	実習先での授業（第5回目 第4回目の内容をふまえ、自分の指導力への客の反応を反省し、明日への計画に生かしていく）地域におけるスポーツ振興について考える
9	学外実習	実習先での授業（第6回目 第5回目と同じく指導力を発揮し、その内容をふまえ、何が足りないか常に客との繋がりを重視する）地域におけるスポーツ振興について考える
10	学外実習	実習先での授業（第7回目 第6回目の内容をふまえ、実習後半の指導力を反省し、理論と実践を身につけていく）
11	学外実習	実習先での授業（第8回目 第7回目をふまえ、理論と実践が片寄りのない指導になっているかを検討する）
12	学外実習	実習先での授業（第9回目 第8回目をふまえ、各自の指導力が客に対して、評価がどのようなものかを確認する）
13	実習の反省	本学での授業の中で実習先での諸問題等について報告し反省会を開く
14	実習記録の作成	実習先での実習録を作成し、全員でまとめる（各施設ごと）
15	実習報告	各自の報告を発表形式で行う

《テキスト》

授業中に資料を配布する。

《参考図書》

「健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下巻）」健康体力づくり事業財団（南江堂）2015年

《授業時間外学習》

予習としては、配布資料をよく読み、実習に備えておくこと。復習としては、実習中の記録を適宜まとめておくこと。

《備考》

原則として、実習先の施設・各種団体へは自らの意思で参加すること。また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護活動実習		科目ナンバリング	H2XD23006
担当者氏名	加藤 和代、大平 曜子、米野 吉則			
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

これまでに修得した保健室の機能と養護教諭の教育的役割を基盤に、実践的な養護教諭の活動の理解を学内実習をとおして深める。

《テキスト》

指定テキストなし

《参考図書》

授業の中で、適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 養護教諭の行う保健管理、保健教育の活動の実際を学内実習をとおして体得する。
- 児童生徒一人ひとりを大切にしたい支援について理解し、校内体制、家庭や専門機関と連携について、養護教諭の活動を説明できる。

《授業時間外学習》

これまでに得た知識技術を確認・整理し、主体的にその研鑽に励むとともに、配布資料を確認し、授業内容の予習と復習を欠かさず行う。グループ課題に対しては、計画的に準備をおこないグループ発表に備える。

《成績評価の方法》

小テスト(50%)、レポート(50%)で評価する。
 実習に対する小テストは、即時に評価・指導を行い、レポートについてはコメントを付して返却する。

《備考》

通年科目であり、評価は今年修了後に行う。実習科目であるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢を重視する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護教諭の教育活動
2	疾病管理（1）	心臓疾患、腎臓疾患、糖尿病、アレルギー疾患
3	疾病管理（2）	感染症の予防管理、学校で予防すべき感染症、
4	疾病管理（3）	出席停止、臨時休業、予防接種
5	特別支援教育（1）	特別支援教育システムと役割
6	特別支援教育（2）	児童・生徒の障がいの理解と支援
7	組織活動の実際（1）	学校における保健組織と養護教諭の役割
8	組織活動の実際（2）	学校保健委員会における養護教諭の役割、委員会開催の実際
9	学校保健統計（1）	ソフトによる統計の実際（健康診断、欠席、保健室来室記録等）
10	学校保健統計（2）	災害報告、個人情報管理、データによる統計資料作成等の実際
11	学校行事と養護活動（1）	遠足、運動会、修学旅行、自然体験学習、保護者会等での養護活動
12	学校行事と養護活動（2）	養護活動の実際
13	学校医・学校歯科医・学校薬剤師の職務（1）	職務の実際と執務記録
14	学校医・学校歯科医・学校薬剤師の職務（2）	子どもの健康課題と学校医・学校歯科医と養護教諭とのかかわり
15	まとめ	養護教諭の教育活動と今後の課題、

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

(1) 卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2) インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3) 個別指導をおこなう。

《テキスト》

その都度指示する

《参考図書》

授業で紹介する

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく

《授業時間外学習》

話し合った課題・問題等について文献資料等十分に収集し読み分析し次回までにまとめておく

《成績評価の方法》

研究態度・分析力等（60%）、研究論文・発表（40%）
 中間発表や中間報告は別の用紙にコメントを付して返却する。
 各自への対応は時間を設けて指導する。

《備考》

自らの課題に責任をもち、積極的に学ぶ姿勢が必要。
 日常的に研究を遂行し研究室を有効に活用して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	イントロダクション、卒業研究の進め方
2	研究計画	テーマと研究計画について話し合う
3	研究テーマ	各自が決めた研究テーマについて、指導教員と具体的な計画を話し合う
4	研究	各自で研究を進める
5	研究	各自で研究を進める
6	研究	各自で研究を進める
7	研究	各自で研究を進める
8	研究の途中経過発表 (1)	研究の途中経過発表 (1)
9	研究	各自で研究を進める
10	研究	各自で研究を進める
11	研究	各自で研究を進める
12	研究	各自で研究を進める
13	研究	各自で研究を進める
14	研究の途中経過発表 (1)	現在までの結果、今後の進め方等について発表
15	研究の途中経過発表 (1)	Ⅱ期に向けて研究計画の設定及び途中経過報告

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	大平 曜子			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

健康科学の基礎理論をもとに、日常見過ごしている事柄を研究の視点で見直し、明らかにしたいことを考えます。主に、人間を対象とする実証的研究を行うこととなりますが、基本的な方法や取り組み方は心理学の研究手法を参考にします。必須科目としてまた、健康科学の集大成と位置づけ、これまでの学習内容を丁寧に見直すと共に、研究テーマや課題への接近方法には独自性も加え、自主的に研究に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

- 研究テーマにそって、研究計画を立てることができる。
- 研究方法を学び、科学的な調査・実験等の実施と結果の分析ができる。
- 研究の目的や研究方法を説明できる。
- 中間報告のレジュメを作成できる。
- 研究内容を口頭で説明することができる。（中間報告）

《成績評価の方法》

研究状況をレポートにして報告（60%）し、終了時には研究の中間発表（40%）を行う。100点満点で60点以上を合格とする。レポートについてはコメントを付して返却し、中間発表については要素別に評価し評価表を返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究の進め方、研究室の使い方などの説明と確認。研究テーマの決定方法と手順について理解する
2	問題意識と研究方法	研究のための基本的知識とスキルの確認。文献、先行研究検索の方法
3	研究テーマを見つける	先行研究検索
4	データ収集の方法	図書館において、文献検索、論文検索、入手方法などの研修
5	統計処理の方法（1）	統計手法の種類
6	統計処理の方法（2）	統計手法を用いて実際の統計処理を体験的に実習
7	結果の出力	グラフの書き方 グラフの種類
8	出力結果を読み取る	既存のデータを参考に、結果の読み方を学ぶ
9	研究計画の再考	各自の研究計画書の作成と提出
10	実験・調査の方法	各自の研究計画書に基づいて、実験や調査の計画作成、内容の決定及び作成
11	実験・調査の実際	実験や調査の依頼にあたり、文書作成
12	レジュメの作成方法	レジュメの作成例をもとに中間報告のための各自のレジュメを作成する
13	実験・調査の結果	実験や調査の途中経過、結果の入力状況の確認、報告内容の決定
14	発表	現在までの結果から分かったこと今後の進め方等について発表する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる

《テキスト》

研究進度に応じて、適宜授業の中で指定する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

自分の興味関心の対象を明確にするため、関連の文献を検索し、読んでおく。研究内容をノートに整理し、研究状況の報告書を作成する。

《備考》

研究室を有効に活用し、主体的にできるだけ早く課題に取り組む。主体的に取り組むことの中には、積極的に相談することも含まれる。欠席等の連絡は必須。

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	三宅 一郎			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3)個別指導をおこなう。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく。

《参考図書》

「健康・スポーツ科学のための研究方法」出村慎一（杏林書院）「手ぎわよい科学論文の仕上げ方」田中 潔（共立出版株式会社）「Excelによる健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門」（出村慎一他）

《授業時間外学習》

<予習方法> 与えられたテーマを文献研究等を通してまとめる能力を付けて欲しい。<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し今後の研究活動を実践する能力を付けて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。レポートに対しコメントを付して返却すると共に随時個人指導を行う。研究態度・分析力等（60%）中間発表・中間報告書（40%）

《備考》

各自の研究は時間割に組まれている時間だけでなく、積極的に研究室に出向き電算機を使い研究を進めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション、卒業研究の進め方	今後の卒業研究の進め方についてオリエンテーション。
2	テーマと研究計画について話し合う。	各自で興味を持ったテーマと研究計画を考える。
3	各自が決めた研究テーマについて	指導教官と具体的な計画を含めて考える。
4	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
5	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
6	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
7	各自で研究を進める	各自文献研究を参考に具体的に研究計画をまとめる。
8	研究の途中経過発表(1)	各自の研究計画についてまとめ発表する。
9	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
10	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
11	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
12	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
13	各自で研究を進める	資料や予備実験を参考にし、研究計画を具体的にまとめる。
14	各自で研究を進める	各自の研究計画についてプレゼンテーションを行なう。
15	研究の途中経過発表(2)	各自の研究計画についてまとめ提出する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	演習	単位・必修	3・必修
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

研究実施計画・方法等の立案
 研究実施準備（課題に関連する分野の文献調査・予備研究等）
 関連する研究論文の輪読
 予備実験の実施研究の中間報告

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

その都度、適宜紹介する

《授業の到達目標》

卒業研究では、これまで学んできた知識をもとに、運動やスポーツに関する研究活動を通じて、より専門的な知識を深める。また、自ら問題を発見してその解決法を思考し、実際にその効果を確認するために実験を行いながら基本的な研究能力と問題解決能力を培うことが出来る。

《授業時間外学習》

研究内容について日々精査すること。

《成績評価の方法》

日々の卒業研究に取り組む姿勢（10%）と中間報告会（発表・抄録）の内容（90%）から判断する。中間報告会はルーブリックにより評価する。

《備考》

研究の内容や進捗状況によっては時間割外に勉強会を行う。時間割に設定された時間だけ行うのではなく、日常的に研究を遂行していくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究仮説の設定	研究の進め方について
2	研究仮説の設定	研究テーマの設定
3	研究仮説の設定	研究テーマの設定
4	研究仮説の設定	研究テーマの設定
5	研究仮説の設定	研究テーマの設定
6	研究仮説の設定	研究テーマの設定
7	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
8	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
9	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
10	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
11	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
12	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
13	実験（研究）の実行	各自で研究を進める（予備実験の実施）
14	実験（研究）の実行	各自で研究を進める（予備実験の実施）
15	研究成果報告	研究報告会（中間報告会）の実施

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

「健康」や「スポーツ」などに介在する「人」を中心に研究する。自ら問題を設定し、その問題解決に迫るための方法を見つける。方法を実行し検証しながら解答に導いてくる。それらを自分で行う。

《テキスト》

必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「卒業論文/修士論文の書き方」出村慎一・山次俊介
杏林書院

《授業の到達目標》

客観的な証拠に基づき問題点を検証する。
研究方法を選び実験や調査などで集めたデータから実証する。
論理的に結論を導く。
論文を作成し発表する。

《授業時間外学習》

各自のテーマに基づき、文献や資料を収集する。
研究経過をノートに記入する。

《成績評価の方法》

研究への取り組む姿勢（50%）
テーマ設定から実験までの中間報告（50%）
総合的に判断する。
分からないことは時間外で質問を受け付ける。
論文はコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究とは	研究を始める前に研究とはどのようなものか理解する。
2	研究に取り組む準備	研究に取り組むために必要な準備について理解する。
3	テーマと問題を見つける	問題とテーマを設定するとはどのように行うのか理解する。
4	問題を具体的にする	問題を具体的にするために原因と結果を考える。
5	仮説の設定	仮説を設定するために統計について理解する。
6	仮説の設定	仮説を設定する。
7	研究方法を選ぶ	研究の方法を理解しどのタイプで行うか決定する。
8	予備実験を行う	予備実験を行い報告する。
9	予備実験を行う	予備実験を行い報告する。
10	予備実験の報告	予備実験をまとめゼミで報告会をする。問題点等を見つけ予備実験を見直す。
11	予備実験の見直し	見直した内容についてゼミで報告会をする。
12	実験を行う	実験を行い報告する。
13	実験を行う	実験を行い報告する。
14	実験の報告	実験結果をまとめゼミで報告会をする。問題点等を見つけ実験を見直す。
15	実験の見直し	見直した内容について再度報告会をする。

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	矢野 琢也			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

リサーチ：課題の調査、プランニング：実行計画の立案、実行：予備調査も含めての活動、データ収集：根拠となりうる客観的情報を集める、まとめ：データを含めた目的とその結果についての論理的考察 *これらの一連の流れを理解し、実際に実行する為に必要な知識等を身につける。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

「医学統計の基礎のキソ1、2、3」浅井隆，ATMS出版

《授業の到達目標》

問題発見の能力、その為に必要な知識等の習得、実際の行動、これら全ての能力の育成と強化を目標とする。

《授業時間外学習》

課題作成のために図書館等で随時情報収集等を行うこと。

《成績評価の方法》

研究計画書の作成およびそれにいたるまでのディスカッションを評価対象とする。研究計画書の作成：80%、それに付随するレポート等：20%
不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

自らが課題を決定することから、積極的に学ぶ姿勢が必要です。スポーツのトレーニング分野における課題が中心となります。基本的には、測定等で客観的データを収集します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究に関する必要な情報や方法、考え方を紹介します
2	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
3	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
4	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
5	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
6	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
7	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
8	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
9	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
10	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
11	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
12	研究課題の検討および実行	研究計画に立案および、実施にあたっての予備的調査
13	研究課題の検討および実行	研究計画に立案および、実施にあたっての予備的調査
14	研究課題の検討および実行	研究計画に立案および、実施にあたっての予備的調査
15	研究課題の決定	研究計画の設定、および予備的調査の結果報告

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	加藤 和代		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

これまでに学んだ心と体の健康科学の理論をもとに、自分が関心を持つ社会や教育の事象に目を向け、研究テーマや研究課題を設定する。

テーマに沿った研究方法を学び、先行研究など必要な文献資料を収集・分析し、計画的に自ら探求して研究を進める。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- 必要な研究資料、情報の収集ができる
- 問題意識に基づいて明らかにしたいことを明確にできる
- 研究方法に沿った研究計画を立てることができる
- 研究テーマ、内容に沿った先行研究・文献等の資料から意味や問題を読み取ることができる

《授業時間外学習》

研究の進捗状況を作成し、毎授業日に発表すること。

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況（50%）、中間発表（50%）
レポートは評価コメントを加えて返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ゼミの運営方法、研究の進め方
2	研究の理解	研究の基本的知識、研究論文の構成
3	データ収集方法	先行研究論文・文献等の検索 情報の整理
4	先行研究論文の分析	研究テーマに関連する先行研究論文の経過や結果を読み取る
5	先行研究論文の分析	研究テーマに関連する先行研究論文の経過や結果を読み取る
6	研究テーマの最終決定	研究テーマ、研究目的、研究方法の決定
7	研究計画の作成	経過報告、検討
8	研究計画の作成	経過報告、検討
9	データ収集の方法	各自の研究内容に合わせ、質問紙調査、実験等の内容や計画を作成
10	データ収集の方法	各自の研究内容に合わせ、質問紙調査、実験等の内容や計画を作成
11	データ処理の方法	データ処理（統計処理）の理解
12	データ処理の方法	データ処理（統計処理）の理解
13	中間報告書の作成	研究目的、研究内容、研究計画等の検討、先行研究論文等の資料作成
14	中間報告書の作成	研究目的、研究内容、研究計画等の検討、先行研究論文等の資料作成
15	中間報告	中間報告会の実施

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

研究とはいかなるものか、どのように進めていくかを理解するとともに、実践していく力を養う。研究テーマを決定し、研究目的を明らかにし、研究の円滑な推進に必要な準備を行っていく。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 疫学概念を理解する。
- 2 研究の手法を理解し実践できるようになる。
- 3 研究に必要な文献を渉猟し、その内容を理解する。

《授業時間外学習》

- 1 研究に必要な文献、資料等を積極的に渉猟する。
- 2 常に、自分の研究の論理、仮説等を考える。

《成績評価の方法》

- 1 平常点（研究意欲、進捗状況）50%
- 2 中間報告50%

毎回作成された原稿の修正・指導を行う。

《備考》

卒業研究は講義と異なり、所要時間が決まっておらず、その週における目標が達成されるまでは終了しないため、少なくとも毎週講義2時間分（90分×2）は必要とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション・研究の進め方の説明	疫学的研究とはどのように行うものなのか、今後、卒業研究で何を行っていくのかを理解する。
2	研究テーマの決定	今年度行っていく卒業研究のテーマを決定し、研究の方向性の概略を示す。
3	研究目的の決定・研究の設計	研究の目的を明確にし、目的達成のために必要な研究手法を理解する。
4	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
5	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
6	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
7	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
8	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
9	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
10	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
11	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
12	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
13	研究結果の解析	アンケート調査等により得られたデータをコンピューター(excelシート)に入力する。
14	研究結果の解析	ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。
15	中間報告レポートのまとめ	第1-14週にかけて行ってきたこと（目的、対象、方法、参考文献）を中間報告としてまとめる。

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

各自の興味関心や問題意識に沿った課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、客観的根拠に基づいた考察を行い、結論を導き、論文という形態で表現し、プレゼンテーションで情報発信するという一連の過程を通じて、4年間の学習成果をまとめることを目的とする。ゼミでの交流により、相互の学習内容の深化と、学習方法のブラッシュアップを図る。

《授業の到達目標》

- 必要に応じた情報の検索、収集、選択ができる。
- 目的に応じた適切な方法で情報を分析することができる。
- 論理的思考に基づいた、客観的な考察を行うことができる。
- 論文の作成方法を理解し、正しい形式の論文をまとめることができる。
- 他の人の意見に耳を傾け、自分の意見を発表できる。
- 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況 30%、ゼミへの貢献度 10%
 論文の完成度 50%、プレゼンテーション 10%
 ※面談・個別指導によって進捗状況を確認し、設定目標及び研究方法の修正を行う。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

白井 利明・高橋 一郎『よくわかる卒論の書き方（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』ミネルヴァ書房、2013年。
 酒井 隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年。

《授業時間外学習》

各自で研究を推進し、ゼミでの発表に向けてレジュメにまとめること

《備考》

時間割に設定された時間以外にもゼミを行う場合がある。予定の確認を怠らないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	論文完成までのステップ、情報の整理、アイデアの管理、研究の進め方、ゼミの運営について
2	卒論構想の発表 1	テーマ（仮題）と研究計画（目的、方法、予定）について発表する。
3	卒論構想の発表 2	テーマ（仮題）と研究計画（目的、方法、予定）について発表する。
4	論文の枠組み設定 1	仮の目次を作成し、必要な情報を整理する。
5	論文の枠組み設定 2	仮の目次を作成し、必要な情報を整理する。
6	研究の目的と先行研究 1	先行研究の論文の到達地点と課題を整理し、研究の目的を明確にして発表する。
7	研究の目的と先行研究 2	先行研究の論文の到達地点と課題を整理し、研究の目的を明確にして発表する。
8	研究方法 1	どのような研究方法を用いるのかを検討し、具体的な手立てを考えて発表する。
9	研究方法 2	どのような研究方法を用いるのかを検討し、具体的な手立てを考えて発表する。
10	研究発表 1	研究の進捗状況を報告する。
11	研究発表 2	研究の進捗状況を報告する。
12	研究発表 3	研究の進捗状況を報告する。
13	研究発表 4	研究の進捗状況を報告する。
14	中間発表会	I期で得られた成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。
15	まとめ	I期の成果を振り返り、II期に向けて研究計画を見直す。

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	河野 稔			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

これまでの学修の集大成となる卒業研究において、先行研究や文献・資料の収集、資料の作成、調査・実験などの研究活動を行う上で基盤となる、研究手法の基礎について学ぶ。具体的には、各自のテーマに沿って、ICT（情報通信技術）を活用した研究活動、さまざまなデータの統計的分析の基礎を実践的に習得する。

《授業の到達目標》

- 研究テーマに沿って、先行研究や各種資料を収集できる。
- 統計的手法を用いて、各種の調査・実験を実施し、結果を分析できる。
- ICTを活用して、資料や調査・実験結果をまとめ、効果的に説明できる。

《成績評価の方法》

文献・資料の調査結果の提出物（50%）と中間報告書（50%）で評価する。
 なお、提出物にはコメントを付して返却するとともに、ゼミの時間やオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	進め方の説明
2	文献・資料の調査(1)	アイデアの発散・収束・整理、テーマの絞り込み
3	文献・資料の調査(2)	図書館を活用した文献・資料の調査
4	文献・資料の調査(3)	学術情報データベースを活用した文献や資料の調査
5	文献・資料の調査(4)	調査した文献や資料の整理とその活用
6	統計的手法の利用(1)	記述統計（代表値と散布度）
7	統計的手法の利用(2)	記述統計（相関と回帰）
8	統計的手法の利用(3)	推測統計（区間推定、仮説検定の基礎）
9	統計的手法の利用(4)	推測統計（パラメトリックな検定手法）
10	統計的手法の利用(5)	推測統計（ノンパラメトリックな検定手法）
11	レジュメの作成(1)	レジュメ（中間報告書）作成上の注意事項、レジュメに必要な情報の整理
12	レジュメの作成(2)	レジュメの作成
13	レジュメの作成(3)	レジュメの作成と自己添削
14	レジュメの作成(4)	レジュメの完成
15	まとめ	全体の学習の振り返り

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

- 白井利明・高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方 [第2版]』ミネルヴァ書房
- 浦上昌則・脇田貴文(2008)『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書
- その他、参考となる文献や資料は適宜紹介する。

《授業時間外学習》

各自のテーマについて、先行・関連研究を読み込み、その研究内容や手法について理解し、疑問点などを整理しておくこと。学習内容をノートなどに記録し、自らのテーマに活用できるように、実践的を通して習得しておくこと。

《備考》

テーマの分野に関係なく、卒業研究に取り組む上で共通して必要となる知識や技能の習得を目指す。主体的な取り組みを期待する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ	科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

(1) 卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2) インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3) 個別指導をおこなう。

《テキスト》

その都度指示する

《参考図書》

授業で紹介する

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく

《授業時間外学習》

話し合った課題・問題等について文献資料等十分に収集し読み分析し次回までにまとめておく

《成績評価の方法》

研究態度・分析力等（60%）、研究論文・発表（40%）
 中間発表や中間報告は用紙にコメントを付して返却する。
 研究論文・発表の予行には個別対応の時間を設ける。

《備考》

自らの課題に責任をもち、積極的に学ぶ姿勢が必要。
 日常的に研究を遂行し研究室を有効に活用して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	イントロダクション、卒業研究の進め方
2	研究計画	テーマと研究計画について話し合う
3	研究テーマ	各自が決めた研究テーマについて、指導教官と具体的な計画を話し合う
4	研究	各自で研究を進める
5	研究	各自で研究を進める
6	研究	各自で研究を進める
7	研究	各自で研究を進める
8	研究の途中経過発表（1）	研究の途中経過発表（1）
9	研究	各自で研究を進める
10	研究	各自で研究を進める
11	研究	各自で研究を進める
12	研究	各自で研究を進める
13	発表①	プレゼンテーションの予行と論文作成を行う
14	発表②	プレゼンテーションの予行と論文作成を行う
15	卒業論文発表	発表のふり返りと再考

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ	科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

これまで収集した文献や資料を有効に利用し、仮説・分析・考察といった、知的活動を通じて、研究の流れを学びます。ゼミ内での意見交換は研究を客観的にみるうえで有効です。

手続きとして実験や調査などの実証的方法を用いますが、統計的データ分析の手法を理解し、科学性、公共性、倫理性など研究として成立するための諸条件についても理解したうえで、論文を完成させていきます。

《授業の到達目標》

- 研究計画にそって、研究を進めることができる。
- 科学的な研究方法をとり、調査・実験等の結果を有効に利用できる。
- 研究の目的や研究方法を説明できる。
- 最終報告のレジュメを作成する。
- 研究の概要をプレゼンテーションできる。

《成績評価の方法》

研究状況を毎回レポートにして報告（20%）、論文の提出（40%）、最終の卒業研究発表会で発表する（40%）

100点満点で60点以上を合格とする。
研究発表終了後、最終コメントを別紙にて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	卒業研究Ⅰの内容のまとめ 夏季休暇中の進捗状況の確認と今後の計画の修正
2	データの入力	データ集約
3	結果の出力	論文掲載のための結果出力
4	データの分析	論文完成までの間、データ分析を継続
5	論文作成 1章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
6	論文作成 2章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
7	論文作成 3章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
8	論文作成 4章 まとめ	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
9	論文の構成の見直し	論文の全体構成を確認し、修正を加える
10	草稿提出	目次、参考文献、資料等を整理し、添付して体裁を整える
11	校正 レジュメ作成	レジュメを作成し、同時には発表原稿を作成する
12	発表用のスライド作成	パワーポイントの操作に習熟する
13	発表①	プレゼンテーションの実際を体験し、また、発表者相互に学び合う
14	発表②	プレゼンテーションの実際を体験し、また、発表者相互に学び合う
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、自己の成果を具体的に説明する

《テキスト》

研究進度に応じて、適宜授業の中で指示する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

文献検索や調査・実験など各自の研究方法に基づく研究の推進。
研究内容をノートに整理し、論文にまとめていく。

《備考》

研究室を有効に活用し、主体的にできるだけ早く課題に取り掛かる。主体的に取り組むことの中には、積極的に相談することも含まれる。欠席等の連絡は必須。

科目名	卒業研究Ⅱ		科目ナンバリング	H3DD14002	
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

- (1) 卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。
- (2) インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。
- (3) 個別指導をおこなう。

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく。発表能力を身につける。報告書作成方法を習得する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。レポートに対しコメントを付して返却すると共に随時個人指導を行う。
 研究態度・分析力等（60%）
 論文作成・プレゼンテーション能力（40%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

- 「健康・スポーツ科学のための研究方法」 出村慎一（杏林書院）
- 「手ぎわよい科学論文の仕上げ方」 田中 潔（共立出版株式会社）
- 「Excelによる健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門」（出村慎一他）

《授業時間外学習》

- <予習方法>
与えられたテーマを文献研究等を通してまとめる能力を付けて欲しい。
- <復習方法>
学んだ内容のみならずその意味を理解し今後の研究活動を実践する能力を付けて欲しい。

《備考》

各自の研究は時間割に組まれている時間だけでなく、積極的に研究室に出向き電算機を使い研究を進めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の問題点について話し合い	卒業研究Ⅰでまとめた研究計画を実施する。
2	各自で研究を進める	卒業研究Ⅰでまとめた研究計画を実施する。
3	各自で研究を進める	指導教官と具体的な研究計画を最終確認する。
4	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
5	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
6	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
7	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
8	中間発表(1)、各自で研究を進める	これまでの調査、実験、集計、分析、結果を報告する。
9	中間発表(2)、各自で卒論の作成をおこなう	卒業論文を具体的にまとめる。
10	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
11	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
12	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
13	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
14	卒業研究発表会の準備と事前発表会	卒業論文発表資料作成。
15	卒業研究の発表会	卒業論文を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ	科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	演習	単位・必修	3・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

各自のテーマに沿った実験の実施および各指標の測定とその分析
 卒業研究論文の作成
 最終成果報告として卒業論文発表会の実施

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

その都度、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

卒業研究では、これまで学んできた知識をもとにして、運動やスポーツに関する研究活動を通じ、より専門的な知識を深める。また、自ら問題を発見してその解決法を思考し、実際にその効果を確認するための実験を行いながら基本的な研究能力と問題解決能力を培うことができる。

《授業時間外学習》

研究内容について日々精査すること。
 日常的に研究に関する資料を収集して精読し、卒業研究活動が効率よく行えるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

「授業の到達目標」を踏まえた上で、卒業論文と卒業研究発表会（80%）、日々の研究に臨む姿勢（20%）より評価する。
 プレゼンテーションは、ルーブリックを用いて評価していく。

《備考》

研究の内容や進捗状況によって時間割外に勉強会を実施する。
 時間割に設定された時間だけで行うのではなく、日常的に研究を遂行していくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
2	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
3	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
4	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
5	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
6	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
7	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
8	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
9	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
10	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
11	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
12	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
13	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成（研究報告会の抄録および資料の作成）
14	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成（研究報告会の抄録および資料の作成）
15	卒業研究報告会	研究プレゼンテーションによる情報の発信と卒業研究論文の再考

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ		科目ナンバリング	H3DD14002	
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

「健康」や「スポーツ」などに介在する「人」を中心に研究する。自ら問題を設定し、その問題解決に迫るための方法を見つける。方法を実行し検証しながら解答に導いてくる。それらを自分で行う。

《テキスト》

必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「卒業論文/修士論文の書き方」出村慎一・山次俊介
杏林書院

《授業の到達目標》

客観的な証拠に基づき問題点を検証する。
研究方法を選び実験や調査などで集めたデータから実証する。
論理的に結論を導く。
論文を作成し発表する。

《授業時間外学習》

各自のテーマに基づき、文献や資料を収集する。
研究経過をノートに記入する。

《成績評価の方法》

研究への取り組む姿勢（30%）
論文を作成し口頭発表を行う。（70%）
総合的に判断する。
論文はコメントを付して返却する。
分からないことは時間外で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文とは	論文の書き方について理解する。
2	論文に取りかかる準備	論文の書式や構成について理解する。
3	本実験を行う	実験を行う。
4	本実験を行う	実験を行う。
5	データを整理する	実験結果をまとめ検証する。データ処理をする。
6	データの関係性を分析する	データを分析する。
7	論文を作成する （目次・序論）	論文の作成
8	論文を作成する （先行研究・目的方法）	論文の作成
9	論文を作成する （結果・考察）	論文の作成
10	論文を作成する （結論・課題）	論文の作成
11	論文を作成する （引用文献他）	論文の作成
12	口頭発表の準備 レジュメ作成	発表の準備をする。
13	口頭発表の準備	発表の準備・練習をする。
14	発表	発表する。
15	まとめ	研究・論文・発表についてまとめ反省する。

科目名	卒業研究Ⅱ		科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	矢野 琢也			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期 4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

リサーチ：課題の調査、プランニング：実行計画の立案、実行：予備調査も含めての活動、データ収集：根拠となりうる客観的情報を集める、まとめ：データを含めた目的とその結果についての論理的考察 *これらの一連の流れを理解し、実際に実行する為に必要な知識等を身につける。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

「医学統計の基礎のキソ1、2、3」浅井隆，ATMS出版

《授業の到達目標》

問題発見の能力、その為に必要な知識等の習得、実際の行動、これら全ての能力の育成と強化を目標とする。その結果として論文を作成し発表する。

《授業時間外学習》

課題作成のために図書館等で随時情報収集等を行うこと。

《成績評価の方法》

研究計画書の作成およびそれにいたるまでのディスカッションを評価対象とする。研究計画書の作成：80%、それに付随するレポート等：20%
不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

自らが課題を決定することから、積極的に学ぶ姿勢が必要です。スポーツのトレーニング分野における課題が中心となります。基本的には、測定等で客観的データを収集します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究に関する必要な情報や方法、考え方を紹介します
2	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
3	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
4	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
5	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
6	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
7	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
8	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
9	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
10	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
11	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
12	研究課題の検討および論文作成	研究テーマのまとめとして論文の作成を行う。
13	研究課題の検討および論文作成	研究テーマのまとめとして論文の作成を行う。
14	研究課題の検討および論文作成	研究テーマのまとめとして論文の作成を行う。
15	論文作成および発表	研究テーマのまとめとして論文の作成を行い、結果を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ		科目ナンバリング	H3DD14002	
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

研究テーマに沿って、取り組み、検証していくなどの研究過程は、柔軟な発想と積極性があれば面白みも見いだせる。

研究論文を書き上げ、発表を行うことは、大学4年間の学びの集大成であり、最も自分を成長させる場となる。

併せて卒業後社会に貢献できる多面的な応用能力の養成も目指す。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

各自の研究テーマに合わせて、必要な文献等をその都度紹介する。

《授業の到達目標》

○データを統計的に分析し、先行研究と比較して論理的に考察することができる。

○研究成果を研究論文としてまとめることができる。

○研究発表会で、研究の概要をわかりやすく適切に伝えることができる。

《授業時間外学習》

研究の進捗状況を毎授業日に提出すること。

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況（30%）、研究論文（40%）、研究発表（30%）

論文は評価コメントを加え返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究計画確認、進捗状況の確認、研究のまとめ方
2	統計処理	質問紙等調査実施、データ入力
3	統計処理	質問紙等調査実施、データ入力
4	統計分析	記述統計、検定、解析、グラフ作成
5	統計分析	記述統計、検定、解析、グラフ作成
6	卒業論文の作成	研究のまとめ方、研究論文の構成、章立て及びその内容
7	卒業論文の作成	論文の作成と添削
8	卒業論文の作成	論文の作成と添削
9	卒業論文の作成	論文の作成と添削
10	卒業論文の作成	論文の作成と添削
11	卒業論文の提出	論文の仕上げ
12	研究発表会の準備	研究要約の作成、パワーポイントスライド作成
13	研究発表会準備	研究要約の作成、パワーポイントスライド作成、プレゼンテーションリハーサル
14	研究発表会	研究発表
15	まとめ	発表の振り返り、論文修正

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ	科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	演習	単位・必修	3・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

研究を行う上で必須である基本的な手技を身につける。研究により得られたデータを分析し、その内容からどのような所見が導き出せるか、先行研究等と比較してどのような状況にあるか等を考察し結論を導き出す。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 研究データを正確に分析する能力を身につける。
- 2 分析結果と先行研究の結果との比較を行う能力を身につける。
- 3 分析結果から正しい結論を導き出す能力を身につける。

《授業時間外学習》

- 1 研究に必要な文献、資料等を積極的に渉猟する。
- 2 常に、自分の研究の論理、仮説等を考える。

《成績評価の方法》

- 1 平常点（研究意欲、進捗状況）40%
- 2 作成論文60%

毎回作成された原稿の修正・指導を行う。

《備考》

卒業研究は講義と異なり、所要時間が決まっておらず、その週における目標が達成されるまでは終了しないため、少なくとも毎週講義2時間分（90分×2）は必要とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究結果の解析	クロス集計を基に解析した結果を示すグラフを作成する。
2	研究結果の解析	クロス集計を基に解析した結果を示すグラフを作成する。
3	研究結果の解析	SPSSを用いてカテゴリー間の頻度の差に関する有意差検定を行う。
4	研究結果の解析	研究を行うに当たり、その背景となった事項や研究目的を記載する。必要な参考文献を検索する。
5	研究結果の解析	研究を行うに当たり、その背景となった事項や研究目的を記載する。必要な参考文献を検索する。
6	研究論文作成	どのような対象者を用いたか、どのようにして結果を得て解析したかを記載する。
7	研究論文作成	研究結果を客観的に記載する。結果に対応する図表に番号を付けて、本文にも記入する。
8	研究論文作成	研究結果を客観的に記載する。結果に対応する図表に番号を付けて、本文にも記入する。
9	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
10	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
11	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
12	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
13	卒業論文提出	卒業論文を完成させて提出する。
14	卒業研究発表の準備	卒業論文発表用の要旨を完成させるとともに、発表媒体（パワーポイント等）を完成させる。
15	卒業研究の発表	卒業論文発表用の原稿を完成させ、その内容の概要を把握する。

科目名	卒業研究Ⅱ		科目ナンバリング	H3DD14002	
担当者氏名	古田 薫				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識) ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する (統合的技術力)				

《授業の概要》

各自の興味関心や問題意識に沿った課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、客観的根拠に基づいた考察を行い、結論を導き、論文という形態で表現し、プレゼンテーションで情報発信するという一連の過程を通じて、4年間の学習成果をまとめることを目的とする。ゼミでの交流により、相互の学習内容の深化と、学習方法のブラッシュアップを図る。

《授業の到達目標》

- 必要に応じた情報の検索、収集、選択ができる。
- 目的に応じた適切な方法で情報を分析することができる。
- 論理的思考に基づいた、客観的な考察を行うことができる。
- 論文の作成方法を理解し、正しい形式の論文をまとめることができる。
- 他の人の意見に耳を傾け、自分の意見を発表できる。
- 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況 30%、ゼミへの貢献度 10%
 論文の完成度 50%、プレゼンテーション 10%
 ※面談・個別指導によって進捗状況を確認し、論文完成に向けて必要なステップの自覚を促す。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

白井 利明・高橋 一郎『よくわかる卒論の書き方 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』ミネルヴァ書房、2013年。
 酒井 隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年。

《授業時間外学習》

各自で研究を推進し、ゼミでの発表に向けてレジュメにまとめること

《備考》

時間割に設定された時間以外にもゼミを行う場合がある。予定の確認を怠らないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究発表1	夏休み中の進捗状況とⅡ期の研究計画について報告する。
2	研究発表2	データや情報の分析結果について発表する。
3	研究発表3	データや情報の分析結果について発表する。
4	研究発表4	考察と結論について発表する。
5	研究発表5	考察と結論について発表する。
6	卒業論文の作成と相互批評1	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
7	卒業論文の作成と相互批評2	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
8	卒業論文の作成と相互批評3	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
9	卒業論文の作成と相互批評4	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
10	論文の草稿提出	草稿を提出し、相互批評および添削を行う。
11	論文の完成と提出	論文の最終チェックを行い、完成させる。論文を提出する。
12	プレゼンテーション準備	卒業研究発表会に向けて、資料とスライドを作成する。
13	卒業研究発表会準備1	プレゼンテーションの予行とブラッシュアップを行い、発表会に備える。
14	卒業研究発表会準備2	プレゼンテーションの予行とブラッシュアップを行い、発表会に備える。
15	卒業研究発表会	卒業研究で得られた成果のプレゼンテーションを行う。

科目名	卒業研究Ⅱ		科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	河野 稔			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期 4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識) ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する (統合的技術力)			

《授業の概要》

これまでの学修の集大成となる卒業研究において、先行研究や文献・資料の収集、資料の作成、調査・実験などの研究活動を行う上で必要となる、研究手法の活用について学ぶ。
 具体的には、各自のテーマに沿って、さまざまな統計的手法とICT（情報通信技術）を適切に活用し、卒業論文をまとめ上げるための知識や技能を、実践を通じて習得する。

《授業の到達目標》

- 研究テーマに沿って、必要な文献や各種資料を収集できる。
- 統計的手法とICTを用いて、調査・実験を計画・実施し、適切に分析できる。
- ICTを活用して、論文や口頭発表の資料をまとめることができる。

《成績評価の方法》

ゼミ時間での提出物（20%）と卒業論文（40%）と口頭発表の内容（40%）で評価する。
 なお、提出物にはコメントを付して返却するとともに、ゼミの時間やオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	進め方の説明、研究経過の報告
2	調査・実験結果の活用(1)	表計算ソフトを利用した結果データの整理
3	調査・実験結果の活用(2)	表計算ソフトや統計分析ソフトを利用した結果データの分析
4	調査・実験結果の活用(3)	表計算ソフトや統計分析ソフトを利用した結果データの分析
5	調査・実験結果の活用(4)	分析結果のワープロやプレゼンテーションソフトでの利用
6	卒業論文の作成(1)	ワープロを利用した論文作成
7	卒業論文の作成(2)	卒業論文の作成
8	卒業論文の作成(3)	卒業論文の作成と添削
9	卒業論文の作成(4)	卒業論文の作成と添削
10	卒業論文の作成(5)	卒業論文の仕上げ、卒業論文の提出
11	研究成果の発表の準備(1)	抄録（レジюме）の作成と添削
12	研究成果の発表の準備(2)	口頭発表用資料（スライド）の作成と添削
13	研究成果の発表の準備(3)	口頭発表用資料（スライド）の作成と添削
14	卒業研究の発表会	卒業研究の口頭発表
15	まとめ	全体のふり返り

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

- 松井豊（2010）『改訂版 心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社
 - 出村慎一監修 佐藤進・山次俊介・長澤吉則編（2007）『健康・スポーツ科学のためのSPSSによる統計解析入門』杏林書院
- その他、参考となる文献や資料は、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

先行・関連研究で用いられた情報や手法などへの理解を進め、自らの研究にどのように適用するかを検討しておくこと。
 研究計画に基づいて、研究活動を自主的に進め、その状況や調査・実験の結果を逐一を記録し整理しておくこと。

《備考》

テーマの分野に関係なく、卒業研究に取り組む上で共通して必要となる知識や技能の習得を目指す。主体的な取り組みを期待する。

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習	科目ナンバリング	HTHH44011		
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止むを得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導での活動（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習		科目ナンバリング	HTHH44011	
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止むを得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導での活動（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習	科目ナンバリング	HTHH44010		
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導での活動（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

＜予習方法＞兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。＜復習方法＞学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習	科目ナンバリング	HTHH44010		
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止むを得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導での活動（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	養護実習	科目ナンバリング	HTY044002
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴きます。本科目は、事前指導から事後指導まで、全過程を終了した時点で評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

- 養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
- 養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
- 定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
- 実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席はいつさい認めません。実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む)(40%)、100点満点で採点します。実習記録にはコメントを付して返却します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護実習直前指導
2	保健指導の模擬授業	各自の行う模擬授業を相互に評価する
3	保健室での実習	養護教諭の仕事内容
4	定期健康診断	進め方
5	目標に沿った事前準備	各自の目標の確認、実習校との打ち合わせ内容の確認
6	各学校の事前指導	保健指導、保健行事、担当クラス、保健室業務内容など
7	養護実習（1週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
8	養護実習（2週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
9	養護実習（3週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
10	養護実習（4週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
11	実習終了後の処理	礼状作成、実習内容の整理、異なる校種間での報告
12	実習終了後の処理	実習報告会に向けて内容の確認
13	実習成果のまとめ	法的根拠の確認
14	実習成果のまとめ	(グループ討議)
15	実習成果のまとめ	(グループ討議)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社
『児童・生徒の健康診断マニュアル』 日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位)の4単位分に相当する本実習です。免許取得の意志を明確にし、主体的に参加する。学生気分を退け、児童生徒の範となる言動をこころがける。

《教職に関する科目》

科目名	養護実習	科目ナンバリング	HTY044002
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴きます。本科目は、事前指導(本時)から事後指導まで全過程を終了した時点で評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

○養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
○養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況を確認できる。○定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。○実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席は、いっさい認めません。実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む)(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。到達目標に対して講評をおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習終了の処理	成果の共有のため、グループで報告
2	実習成果のまとめ	実習内容の共有化と専門知識の確認
3	実習成果のまとめ	実習内容の共有化と専門知識の確認
4	実習報告会の準備	スライドの作成、レジュメの作成、報告会の運営についての話し合い
5	実習報告会の準備	各自の発表原稿の作成
6	実習報告会の準備	発表のリハーサル、原稿の修正
7	実習報告会での発表	報告会の運営、各自の発表、質疑応答
8	実習の総括	成果のまとめ
9	予備日	予備日
10	予備日	予備日
11	予備日	予備日
12	予備日	予備日
13	予備日	予備日
14	予備日	予備日
15	予備日	予備日

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社
『児童・生徒の健康診断マニュアル』日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

Ⅱ期は養護実習の事後指導を含む総括の段階に相当する。実習報告会に向けて4週間の内容を整理し、今後の学校勤務に備える。

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（中・高）		科目ナンバリング	HTHH44012	
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

生徒の発達段階を考慮し、栄養・運動・心の観察や指導方法を含んだ模擬授業やグループ討議を行う。また学校の見学や教員勤務経験のある方を講師として招き、学校現場に即した授業内容を展開していく。

《テキスト》

適宜紹介、オリジナルプリント

《参考図書》

適宜紹介

《授業の到達目標》

学生の現状の知識や技能を把握させ、教員としての自覚を持ち家庭や地域の実態を把握し、それに即した学級経営や教科指導、生徒指導を実践するために能力を身に付け、その能力を学校で発揮できる応用力を体得することが目標である。

《授業時間外学習》

自己課題をもとに予習復習を行うこと。

《成績評価の方法》

演習等への積極的参加(50%)、課題レポート・発表(50%)で評価する。
レポートにコメントを付して返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンで授業を実施する場合もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	目的及び内容の概略について、授業の進め方・評価について
2	構成的グループ・エンカウンター実践1	学校における活用法と指導者の心構えと指導技術
3	構成的グループ・エンカウンター実践2	エクササイズの実践
4	スクールカウンセラーとの連携	制度と職務内容の理解
5	不登校対策	対策について学ぶ
6	特別支援教育1	事例に学ぶ
7	教育方法技術1	導入編：視聴覚メディアの種類と特徴について、映像素材の収集
8	教育方法技術2	応用編：視聴覚メディアの編集と記録方法について、映像素材の編集と記録
9	特別支援教育2	エクササイズの実践
10	学級経営論1	地域、家庭との連携
11	学級経営論2	生徒指導の視点を生かした学級経営
12	学級経営論3	特別支援教育の視点を生かした学級経営
13	グループ討議1	集団行動および学校行事での保健体育教諭の役割について
14	グループ討議2	保健体育教諭の使命について
15	まとめ	振り返りと再確認

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（養護教諭）			科目ナンバリング	HTY044003
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教員（養護教諭）として求められる資質である①生命を守り育てる使命感や責任感、②確かで実践的な管理能力、指導力、③心と体を見つめた児童生徒理解、④保護者を含めた校内校外組織の中で連携するコーディネーター的能力の4つの視点から外部講師による演習、ディスカッション等を通して体験的に学ぶ。

《テキスト》

適宜紹介、オリジナルプリント

《参考図書》

適宜紹介

《授業の到達目標》

○これまでに履修した理論や実践をもとに、自己の課題を明確にし、課題解決を目指して具体的、実践的な学びを通して体験的に学ぶ。

《授業時間外学習》

自己課題をもとに予習復習を行うこと。

《成績評価の方法》

演習等への積極的参加（50%）、課題レポート・発表（50%）で評価する。
レポートは評価コメントを加えて返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを活用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	目的及び内容の概略について、授業の進め方・評価について
2	構成的グループエンカウンター実践（1）	学校における活用法、指導者の心構えと指導技術
3	構成的グループエンカウンター実践（2）	エクササイズの実践、ファシリテーターの体験
4	不登校の子どもの理解とその対応	加古川市の不登校対策に学ぶ
5	特別支援教育の実際（1）	特別支援教育のシステム、発達障害の子どもへの対応
6	特別支援教育の実際（2）	教育的ニーズの理解、事例から学ぶ
7	スクールカウンセラーとの連携	制度と職務内容の理解、事例から学ぶ
8	教育方法技術（1）	導入編：視聴覚メディアの種類と特徴について、映像素材の収集
9	教育方法技術（2）	応用編：視聴覚メディアの編集と記録方法について、映像素材の編集と記録
10	保健室経営（1）	児童生徒の健康課題の把握、保健室経営案の作成、
11	保健室経営（2）	学級担任、保健主事、学校医等との連携を生かした保健室経営
12	保健室経営（3）	実践から学ぶ
13	グループ討議（1）	学校保健組織づくりについて
14	グループ討議（2）	養護教諭の使命について
15	まとめ	振り返りと再確認